

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

研究進捗状況報告書の概要

1 研究プロジェクト

学校法人名	順天堂	大学名	順天堂大学
研究プロジェクト名	再生技術を用いた生活習慣病の次世代型統合的研究基盤の構築		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本研究は順天堂大学内の臨床研究室と再生医学・細胞生物学的解析技術を有する基礎研究室が協力して生活習慣病（糖尿病・脳血管障害・心血管障害・腎障害・神経変性疾患・認知症など）の病態解明・新規治療方法の開発を目指す。順天堂医院に通院する豊富な患者リソースを各研究グループが十分に活用し、各研究室が連携して統合的に生活習慣病の病態研究を行える体制の基盤形成が目的である。具体的には①患者検体の収集（バンク化）と臨床情報を含めた情報のデータベース化 ②収集した患者検体（iPS 細胞樹立のための体細胞）を活用した研究方法の開発およびその利用体制の整備 ③将来的な患者検体利用を見越した生活習慣病の病態解析技術方法の確立と、それらを利用した治療方法の開発 を行い、プロジェクト終了までに大学内の生活習慣病研究者が患者検体を活用し①→②→③をスムーズに行える体制を構築することを目標とする。生活習慣病を研究する大学内研究者が、本研究で構築される細胞および情報リソースを利用することにより、各小グループでは従来利用できなかった規模のリソースを活用することが可能になり、個別の疾患研究を大きく発展させることができる。また、バンクする細胞種を iPS 細胞に限定せず、体細胞（血液細胞・線維芽細胞）や不死化細胞株などを同時に蓄積することにより、将来的には血管内皮前駆細胞などの組織幹細胞を用いた疾患研究や再生医療の前臨床研究に活用し、生活習慣病研究が大きく促進することが期待される。

3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

患者検体の収集に関しては、脳神経内科とゲノム・再生医療センターによって先行する形で神経疾患の患者データベースの構築と体細胞の採取が現時点で約 500 症例に関して登録が終了している。現在も登録作業と検体採取は継続して行われている。各研究グループにおける生活習慣病の病態研究・治療法開発に関しては下記の成果が得られた。

- ヒト iPS 細胞からの高効率な神経分化誘導方法の開発（ゲノム・再生医療センター）
- 多施設共同研究により LDL-C および HDL-C の測定試薬製品の信頼度の向上（臨床検査医学）
- 血清 ApoA1 値が、冠動脈疾患の予後を正確に予測することを示した（循環器内科）
- LL-37 の LPS 除去による血管障害に対する防御的効果の証明（生化学第 2）
- 糖尿病患者特異的な分化障害を改善する培地の開発に成功し、特許を取得した。（形成外科）
- MAIT 細胞が潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患の病態に寄与する可能性を示した（免疫学）
- 319 名の糖尿病性腎不全患者をリクルートし、TNFR と生命予後の関連を示した。（腎臓内科）
- 新規遺伝性 PD 原因遺伝子として CHCHD2 を同定した。（神経内科）
- パーキンソン病がリソソーム病と共通した病態を呈することを明らかとした。（神経生物学）
- 膵腺細胞をインスリン産生細胞へリプログラミングする方法を開発した。（代謝内分泌内科）
- 脂肪組織由来幹細胞を表皮角化細胞へと分化誘導する方法を確立した。（皮膚科）
- 皮膚創傷治癒を促進する BLT2 作働薬の候補として 4 つのリード化合物を同定した（生化学第 1）

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

**平成 26 年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究進捗状況報告書**

- 1 学校法人名 順天堂 2 大学名 順天堂大学
- 3 研究組織名 大学院医学系研究科ゲノム・再生医療センター
- 4 プロジェクト所在地 東京都文京区本郷2丁目1番1号
- 5 研究プロジェクト名 再生技術を用いた生活習慣病の次世代型統合的研究基盤の構築
- 6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
新井 一	順天堂大学	学長

- 8 プロジェクト参加研究者数 90 名
- 9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
新井 一	学長	研究全体の統括	プロジェクトの統括および指揮
代田 浩之	循環器内科・教授	冠動脈治療時の保存血清から抽出したHDLをOMICS解析し、新たな動脈硬化治療標的を開発する	患者リソース収集・治療方法開発
綿田 裕孝	代謝内分泌内科・教授	糖尿病再生医療に向けたacinar-to-beta reprogrammingの効率化	治療方法開発
宮塚 健	代謝内分泌内科・准教授	糖尿病再生医療に向けたacinar-to-beta reprogrammingの効率化	治療方法開発
服部 信孝	脳神経内科・教授	生活習慣病に起因する神経疾患の予後規定バイオマーカーの探索・新規治療法の確立	患者リソース収集・病因解明・病態解析技術の開発
石川 景一	脳神経内科・非常勤助教	神経疾患患者からのiPS細胞の作製と分化誘導・解析	患者リソース収集・病因解明・病態解析技術の開発
鈴木 祐介	腎臓内科・教授	慢性腎臓病患者における末梢動脈疾患の発症メカニズムの解明と新規治療法の開発	病因解明・病態解析技術の開発
長岡 功	生化学第	糖尿病性血管障害に対する抗	病因解明・病態解析技術

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

	二・教授	菌ペプチド LL-37 の血管内皮細胞に対する効果	の開発
池田 志孝	皮膚科学	多能性幹細胞を用いた先天性水疱症バイオマーカーの開発	病因解明・病態解析技術の開発
水野 博司	形成外科学講座・教授	糖尿病性潰瘍患者に対する脂肪組織幹細胞による難治性潰瘍治療手段の開発	治療方法開発
田中 里佳	形成外科学講座・准教授	糖尿病患者に対する末梢血をもちいた新細胞治療の開発：Auto、Allo 細胞	治療方法開発
三井田 孝	臨床病態検査医学・教授	iPS 細胞から誘導した Alzheimer 病の神経細胞における Ca 代謝とイオンチャネルの異常の検討	病因解明・病態解析技術の開発
横溝 岳彦	生化学第一講座・教授	難治性皮膚潰瘍治療における生理活性脂質の役割の解明	病因解明・病態解析技術の開発
三宅 幸子	免疫学・教授	生活習慣病における免疫細胞の解析	病因解明・病態解析技術の開発
内山 安男	神経疾患病態構造学講座・特任教授	光学顕微鏡と電子顕微鏡をつなぐイメージング技術による神経疾患患者由来細胞の機能・形態学的解析	病因解明・病態解析技術の開発
小池 正人	神経生物学・形態学講座・教授	光学顕微鏡と電子顕微鏡をつなぐイメージング技術による神経疾患患者由来細胞の機能・形態学的解析	病因解明・病態解析技術の開発
砂堀 毅彦	神経生物学・形態学講座・助教	オリゴデンドロサイト分化における LAMTOR1/P18 の役割の解明	病因解明・病態解析技術の開発
赤松 和土	ゲノム・再生医療センター・特任教授	生活習慣病患者からの iPS 細胞作製とバンキング・データベースの作成、疾患モデル解析方法開発	病因解明・病態解析技術の開発
(共同研究機関等) 浅原 孝之	東海大学再生医療科・教授	血管再生治療の基盤技術開発	治療方法開発
岡野 栄之	慶應義塾大学・生理学・教授	神経幹細胞・iPS 細胞を用いた基礎研究	病因解明・病態解析技術の開発

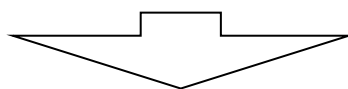
<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
研究全体の統括	大学院医学研究科研究科長・医学部長	新井 一	プロジェクトの統括および指揮

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1日)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007



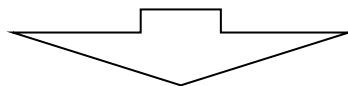
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
大学院医学研究科 研究科長・医学部長	学長	新井 一	プロジェクトの統括および指揮

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
光学顕微鏡と電子顕微鏡をつなぐイメージング技術による神経疾患患者由来細胞の機能・形態学的解析	神経生物学・形態学講座・教授	内山 安男	病因解明・病態解析技術の開発

(変更の時期:平成 26 年 4 月 1 日)



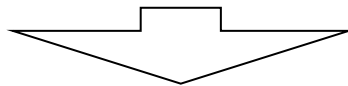
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
神経生物学・形態学講座・教授	神経疾患病態構造学講座・特任教授	内山 安男	病因解明・病態解析技術の開発

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
光学顕微鏡と電子顕微鏡をつなぐイメージング技術による神経疾患患者由来細胞の機能・形態学的解析	神経生物学・形態学講座・先任准教授	小池 正人	病因解明・病態解析技術の開発

(変更の時期:平成 26 年 4 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
神経生物学・形態学講座・先任准教授	神経生物学・形態学講座・教授	小池 正人	病因解明・病態解析技術の開発

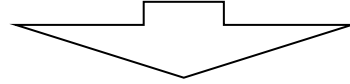
旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
慢性腎臓病患者における末梢動脈疾患の発症	腎臓内科・教授	富野康日己	病因解明・病態解析技術の開発

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

メカニズムの解明と新規治療法の開発			
-------------------	--	--	--

(変更の時期:平成 28 年 8 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
腎臓内科・准教授	腎臓内科・教授	鈴木 祐介	病因解明・病態解析技術の開発

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本研究は順天堂大学内の臨床研究室と再生医学・細胞生物学的解析技術を有する基礎研究室が協力して生活習慣病（糖尿病・脳血管障害・心血管障害・腎障害・神経変性疾患・認知症など）の病態解明・新規治療方法の開発を目指す。順天堂医院に通院する豊富な患者リソースを各研究グループが十分に活用し、各研究室が連携して統合的に生活習慣病の病態研究を行える体制の基盤形成が目的である。具体的には①患者検体の収集（バンク化）と臨床情報を含めた情報のデータベース化 ②収集した患者検体（iPS 細胞樹立のための体細胞）を活用した研究方法の開発およびその利用体制の整備 ③将来的な患者検体利用を見越した生活習慣病の病態解析技術方法の確立と、それらを利用した治療方法の開発 を行い、プロジェクト終了までに大学内の生活習慣病研究者が患者検体を活用し①→②→③をスムーズに行える体制を構築することを目標とする。

生活習慣病を研究する大学内研究者が、本研究で構築される細胞および情報リソースを利用することにより、各小グループでは従来利用できなかった規模のリソースを活用することが可能になり、個別の疾患研究を大きく発展させることができる。また、バンクする細胞種を iPS 細胞に限定せず、体細胞（血液細胞・線維芽細胞）や不死化細胞株などを同時に蓄積することにより、将来的には血管内皮前駆細胞などの組織幹細胞を用いた疾患研究や再生医療の前臨床研究に活用し、生活習慣病研究が大きく促進することが期待される。

(2) 研究組織

本事業では、新井一学長（ゲノム・再生医療センター長）のもと、上記 10 に記載した研究者が連携・分担しながら、Ⅰ生活習慣病患者リクルートと患者リソースの収集（およびその利用体制の整備）Ⅱ生活習慣病患者検体を活用した病因解明・病態解析技術の開発 Ⅲ生活習慣病に対する治療方法の開発を進めている。iPS 細胞および体性幹細胞に関しては本事業で学内で共同利用可能な培養施設・解析機器が整備され研究が推進されている。本事業では上記の 18 名の中心研究者に加えて、教員 24 名、大学院生 21 名、PD7 名、RA1 名、研究支援者 4 名、その他 14 名の若手研究者が研究を推進しており、そのうち PD5 名、RA1 名、研究支援者 2 名は本プロジェクトで雇用資金が助成されている。事務局はゲノム・再生医療センター内に設置され、新井一研究代表および服部信孝運営委員長の下、年間 2 回以上の全体会議を開き、スムーズな運営のための情報交換を行っている。

(3) 研究施設・設備等

当該拠点は、順天堂大学医学部 10 号館 8 階を中心に設置され、大学院医学研究科附属施設であるゲノム・再生医療センターを中心に研究施設の整備を図っている。さらに 8,9 号館に設置されている各研究室においても研究が遂行され、研究組織全体としては常時約 90 名の研究者が研究に従事している。本研究のために 2014 年度・2015 年度に設置された主な研究装置とその内容・利用時間は以下の通り

1. iPS 細胞・幹細胞樹立培養のための培養システム：3000 時間/年（60 時間/週）：44 人
2. 解析用倒立顕微鏡システム：1000 時間/年（20 時間/週）：46 人
3. 幹細胞純化・解析システム：500 時間/年（10 時間/週）：44 人
4. 動物個体に移植した iPS 細胞・体細胞解析システム 1250 時間/年（25 時間/週）：13 人
5. 分化細胞解析システム 1000 時間/年（20 時間/週）：26 人
6. iPS・体細胞バンク用システム 8760 時間/年（常時稼働）：37 人

上記施設は共同利用施設としてゲノム・再生医療センターおよび形成外科によって管理され、使用に際しては使用登録と使用方法の説明が行われ、各研究グループがスムーズに基盤設備を活用できる体制が整っている。

(4) 進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

<現在までの進捗状況及び達成度>

① 患者検体の収集（バンク化）と臨床情報を含めた情報のデータベース化

生体試料の収集に関しては、脳神経内科（服部ら）とゲノム・再生医療センター（赤松ら）との共同研究で、試料収集とデータベース化が進行中である。順天堂医院に通院するパーキンソン病患者に同意を得て末梢血の採取を行い、本資金で整備された幹細胞培養施設を用いて単核球の状態で順次蓄積を行っている。2016 年 2 月に赤松・服部らによって学外協力研究者である慶應義塾大学生理学岡野栄之教授

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

との共同研究で、開発・報告されたヒト iPS 細胞からの高効率な神経分化誘導方法(*1)は、単核球でバンク化された多数の患者体細胞を効率よく iPS 細胞化し、多くの検体を簡便な手法で神経分化させることを可能にしたため、神経変性疾患 iPS 細胞樹立のための細胞バンクの活用方法が大きく広がった。この方法の開発に伴い、順天堂大学内にパーキンソン病細胞バンクを構築することを決定し、併せて記者会見を行った(2016年2月19日順天堂大学にて記者会見およびプレスリリース)。2016年度までに神経変性疾患316症例(パーキンソン病251例、アルツハイマー病13例、そのほか神経変性疾患52例)正常対照約50例の体細胞が本研究施設にストックされ、その一部は不死化リンパ芽球およびiPS細胞が樹立され解析が進行している。データベース化に関しては、まずこれらの検体の情報を脳神経内科とゲノム・再生医療センター間で共有するシステムを構築した。データベース項目としては臨床経過(所見)・検査所見・服薬歴に加え、遺伝子解析情報・体細胞採取とiPS細胞樹立などの項目が含まれ、高度なセキュリティの専用サーバ上に保存されている。2016年度末までに約450症例が登録されており、今後も登録数を順次増加させる予定である。このデータベース構築をモデルとして今後は生活習慣病全体に対象疾患を拡大し、本研究グループ全体、将来的には学内全体で利用できる細胞バンク・データベースへと拡張していく予定である。

② 収集した患者検体の活用を想定した生活習慣病の病態研究および解析技術の開発

腎臓内科(鈴木ら)は、慢性腎臓病(CKD)が末梢動脈疾患(PAD)発症の独立した危険因子であり、この理由のひとつとして、末梢血幹細胞や内皮前駆細胞(EPC)の機能不全が存在することに着目した。「CKDで蓄積するADMAが末梢血幹細胞やEPCの機能不全を引き起こし、血管新生・修復不全を経て、PADの発症進展並びに治療抵抗性に強く関与する」との仮説をたて、その検証をするために、本プロジェクトで収集された検体を利用し、①ADMAとPADの有病率、重症度、また患者EPC機能不全との関連を分析 ②PAD患者におけるADMAと幹細胞治療効果との関連を分析する。現時点まで約300の維持透析中の糖尿病性末期腎不全患者を本研究にリクルート済みであり(*2)、ADMAを測定、PADの有病率、PAD指標(ABI, CAVI, SPP)との関連を解析中である。今後は、**形成外科(田中ら)**との共同で、形成外科にて重症下肢虚血に対し治療を行った患者を対象にその重症度および治療効果(生命予後、下肢切断の有無、WIFI分類とWIFIスコア、運動負荷ABIやその回復時間、トレッドミルを用いた疼痛出現距離/最大歩行距離測定)等とのADMAの関連を解析する。また患者EPCを単離し、その機能とADMAとの関連を明らかにする予定である。また、in vivoにおいてADMAがEPC機能不全に関与し、実際にPADの治療抵抗性に関与することを検証するために、遺伝子改変動物(ADMAの代謝酵素DDAHのgain/loss)に腎不全及び下肢虚血を惹起し、血管新生療法への影響を確認していく予定である。

臨床病態検査医学(三井田ら)は、検査データを臨床情報として蓄積しつつあるが、生活習慣病の危険因子として重要なLDL-CおよびHDL-Cの測定試薬の中に正確性が不良なものがある(三井田らを含む他施設共同研究で発表)(*3))。この結果を受けて、正確性に問題ある試薬を、2016年末までに販売中止にさせた。以前の検討で性能不良と判定された試薬の改良品は、正確性が改善したことを確認した。この成果は2017年に論文として発表し、「動脈硬化性疾患予防ガイドライン2017年版」に反映される予定である。また、トリグリセライド(TG)の測定試薬が欧米と日本で異なるが、その差の原因となる遊離グリセロールは肥満者で高くなること、食事摂取で低下することを示した(Clin Chem Lab Med. 2017)。また、企業との共同研究により、遊離グリセロールを直接測定する試薬を開発した(*4)。

循環器内科(代田ら)は、動脈硬化巣から余剰コレステロールを引き抜き、代謝・排泄する役割を持つHDLコレステロールに関して研究を進めた。従来HDL低値が心血管イベント発症率のリスクであるため、その上昇が予後を改善すると信じられてきたが、HDL上昇を目的とした薬物介入は予後改善には全くつながっていない。その理由として、「善玉」と考えられてきたHDLに多様な形態があり、その中に「悪玉」が存在する可能性がある。本研究では、冠動脈治療の際に保存された患者血清中のHDLを抽出し、含まれる全てのタンパク質(炎症関連タンパク質など)の構成を、プロテオミクスを用いてスクリーニングし定量する。冠動脈治療後の観察期間中に、心血管死亡した症例としなかった症例におけるHDL中のタンパク質の構成を比較し、さらには発現量に大きな差を認める分子を同定し、その分子によるHDLの引き抜き能への関与を明らかにする。本研究は、**1.長期のフォローアップ期間を有する大規模データベースの予後を含む症例データ 2.保存血清中のHDL分画 3.OMICSの一つ、プロテオミクス 4.システム生物学(バイオインフォマティクス手法とネットワーク解析)、の4要素を組み合わせて遂行し、新たな動脈硬化治療を開発、動脈硬化疾患をめぐる社会環境を一変させることを最終目標としている**。現在、統計学的手法を用いて、背景因子を揃えた心疾患死亡あり・なし群10例ずつを抽出し、HDL分画単離の条件検討中である。また、臨床データの解析により、HDL低値よりもHDLの構成タンパクであるApoA1低値がより強い予後悪化のリスクであることが明らかになった。

形成外科(水野・田中ら)は、糖尿病血管障害制御の病態解明を行っている。糖尿病マウスとヒト糖尿

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

病患者の血管内皮前駆細胞（血管幹細胞）における PGC-1 α -Notch signaling 伝達障害に起因する血管内皮への分化障害を明らかにし、糖尿病患者特異的な分化障害を改善する培地の開発に成功し、特許を取得した(*5)。(Journal of Diabetes Complications 2015, 2016 AHA oral presentation, Stem Cell Translational Medicine in submission) これらの結果を、次項に示すバイオマーカーの同定および血管再生治療の開発へ応用していく。

生化学第2（長岡ら）は、生活習慣病の際に生じる血管障害を誘起する分子メカニズムの解明のため、LL-37 と呼ばれるアミノ酸 37 個からなるヒト抗菌ペプチドの血管障害に対する役割を検討した。抗菌ペプチドは上皮細胞や好中球などから産生されて外敵に対する一次防御として機能し、抗微生物作用を発揮するだけでなく上皮細胞や免疫担当細胞などの宿主細胞に作用してそれらの細胞機能を制御することから、最近では生体防御ペプチドとも呼ばれている。LL-37 はグラム陽性、陰性細菌、真菌に対して殺菌作用を示すだけでなく、グラム陰性菌外膜のエンドトキシン（リポ多糖：lipopolysaccharide LPS）に直接結合して中和する。こうした作用から、LL-37 が LPS の作用を制御することによって生体防御に役立つと考えられている。また、LL-37 は、血管内皮細胞に作用して増殖・血管新生を促進することから、血管障害に対して保護的に働く可能性が示唆されている。一方、肝臓の血管内皮細胞は LPS を取り込み除去することにより（LPS クリアランス）、生体防御に寄与している。そこで、肝臓の類洞内皮細胞による LPS の取り込みに対する LL-37 の効果について検討した（J Immunol 196: 1338-1347, 2016）。その結果、1.LL-37 はそれ自身に細胞へ取り込まれる作用があり、LPS が共存すると、これと結合して複合体を形成し、LPS を積極的に細胞内に取り込ませる作用があることを見出した。2.また、エンドサイトーシス阻害剤やヘパリンナーゼを用いた実験から、LL-37-LPS 複合体は、血管内皮細胞表面のヘパラン硫酸プロテオグリカンに結合し、エンドサイトーシスを介して細胞内へ取り込まれることがわかった。3.さらに、LPS の TLR4 受容体-シグナル系に及ぼす効果を検討したところ、LPS が LL-37 と結合して、血管内皮細胞に取り込まれても、TLR4 シグナル経路が活性化されないことがわかった。以上の結果から、抗菌ペプチドである LL-37 は LPS と複合体を形成することによって、LPS シグナルを活性化することなく、エンドサイトーシスを介して、血管内皮細胞に対して障害作用のある LPS を血流から除去することによって、血管障害に対して防御的に働く可能性が考えられる(*6)。今回、LL-37 が LPS を除去することによって血管障害に対して防御的に働く可能性を示したが、LL-37 の血管障害に対するメカニズムをさらに明らかにするために、LL-37 が血管内皮細胞のオートファジーをどのように制御しているかを検討する。

免疫学（三宅ら）は、動脈硬化・糖尿病などの生活習慣病の病態に関与する、抗原特異的応答を伴わない自然免疫系の細胞が中心となる炎症について研究を進めた。自然免疫系の細胞では、単球、マクロファージに加え、それらの機能を調節する細胞として、自然リンパ球が注目されている。自然リンパ球は、自然免疫と獲得免疫の中間的特徴を持つ細胞で、組織に多く存在して様々な免疫応答の調節に関与する。自然リンパ球は、抗原認識をしない細胞群と限られた抗原を認識する invariant natural killer (iNKT) 細胞や mucosal associated invariant T (MAIT) 細胞などを含む。三宅らは、これまで iNKT 細胞が動脈硬化に関与することを報告した(Blood 2004)が、NKT 細胞はマウスでは大きな細胞集団を形成するがヒトではその頻度は少ない。一方 MAIT 細胞は、ヒト末梢血 T 細胞の数%を占め、腸などの粘膜にはさらに多く存在する細胞として注目されている。三宅らは、MAIT 細胞についてマウス自己免疫モデルにおける関与、ヒト自己免疫疾患における関与について明らかにしてきた(*7-9)。さらに MAIT 細胞が動脈硬化やそれに伴う虚血性疾患、炎症性腸炎などの生活習慣病において、どのように関与しているかを明らかにし、MAIT 細胞の制御によるこれらの疾患の進展抑制や予防につながる可能性を探索した。炎症性腸疾患は、近年増加しており食事を含めた生活習慣による影響が大きいと考えられている慢性炎症である。本研究において、MAIT 細胞がヒト炎症性腸炎で病巣部に集積していることを見出し(*10)、ヒトの慢性炎症において重要な役割を担っていることが示唆された。今後は MAIT 細胞が存在しない MR1 欠損マウスに虚血性疾患、炎症性腸炎などの動物モデルを誘導し、MAIT 細胞の病態への役割を検討する。また、MAIT 細胞を刺激もしくは抑制する抗原の合成にとりくみ、疾患制御の可能性を探る予定である。

神経内科（服部ら）は、生活習慣病との関連が指摘されている脳梗塞、アルツハイマー病やパーキンソン病(PD)等の神経変性疾患について、患者サンプル及びモデル実験系を用いた病態解明を行っている。多検体の患者血液サンプルと臨床情報から神経変性疾患の遺伝子解析を行い (*11-17)、特に新規 PD 原因遺伝子として CHCHD2 を同定した (*18)。さらにモデル細胞・マウス・ハエを作製し表現型解析や病態解明を報告した (*19-44)。これらの結果は蓄積した患者検体を iPS 化のおよび神経分化後の表現型検索および薬剤スクリーニングなどによる治療薬開発に繋がるものと期待できる。

神経生物学・形態学（小池ら）は疾患 iPS 細胞由来神経細胞におけるオルガネラの動態の感度の高い免疫電子顕微鏡法を行うため、ユトレヒト大学との共同研究で、単層培養細胞の包埋法(flat-embedding procedure)の改良法開発を行った。さらに、小脳プルキンエ細胞特異的カテプシン D および Atg7 欠損マウスの小脳変性の比較解析を行い、前者のほうが早く神経細胞死に陥ることを明らかにした(Koike et al.,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Am. J. Pathol. in press)。また、脳神経内科の服部教授との共同研究に参画し、若年性パーキンソン病の原因遺伝子である *Atp13a2*(Park9)の神経系特異的ノックアウトマウスで神経性セロイドリポフスチン蓄積症の病態を呈することを明らかにした(Sato et al., Am. J. Pathol., 2016)。(*45)

③ 患者検体を活用した生活習慣病の治療方法の開発

代謝内分泌内科(綿田・宮塚ら)は糖尿病で失われる膵臓・特にβ細胞の再生治療の開発を目指した基礎的研究を行った。膵前駆細胞株である mPac 細胞に *Pdx1*, *Neurog3*, *Mafa* を同時に発現させると、mPac 細胞の一部がインスリン陽性細胞へとリプログラミングを受け一方で、*Stat3* のリン酸化は抑制されていた。さらに *Stat3* 阻害薬、dominant negative *Stat3* 発現により新生β細胞数が有意に増加した(各々1.9倍, 1.8倍)。これらの結果は、*Pdx1*, *Mafa*, *Neurog3* の導入と同時に *Stat3* シグナルが抑制されることにより acinar-to-beta reprogramming が亢進することを示している。一方、複数の遺伝子改変マウスを用いて腺房細胞特異的に転写因子 *Pdx1*, *Neurog3*, *Mafa* を過剰発現させたところ(Exo-PNM マウス)、β細胞新生が誘導されることを確認した。次に Exo-PNM マウス膵臓におけるリン酸化 *Stat3*(pStat3)の発現を免疫組織染色にて観察したところ、transgene 陽性の外分泌領域に pStat3 陽性細胞を認めたが、誘導された新生β細胞は pStat3 陰性であった。リプログラミング過程における *Stat3* の機能を明らかにするため、*Stat3* 欠損 Exo-PNM マウスを作製したところ、対象マウス(*Stat3*flox/+ ; exo-PNM マウス)に比べ、新生β細胞数が有意に増加し(約2.9倍)、数個のβ細胞が一塊となった膵島様クラスターも形成されていた(*47)。以上の *in vitro* および *in vivo* 実験は acinar-to-beta reprogramming における *Stat3* シグナルの役割の一端を解明すると同時に、*Stat3* シグナルを修飾することでβ細胞新生効率が上昇することを示しており、成体に内在する細胞を用いた direct reprogramming による将来のβ細胞再生医療への応用が期待される。

皮膚科(池田ら)は、生活習慣病に伴う創傷治癒のための再生医療のソースとしての脂肪組織由来幹細胞の有効性を示すため、本細胞の先天性水疱症治療への応用を目的として研究をおこなった。その結果、脂肪組織由来幹細胞を IV 型コラーゲン上にて線維芽細胞と共培養し、all-trans レチノイン酸と bone morphogenetic protein-4 にて刺激する方法で、多くの細胞が表皮角化細胞へと分化誘導されることを見出した(*47)。以上の事実から、本細胞を栄養障害型表皮水疱症の治療に応用出来る可能性がある。

生化学(横溝ら)は難治性皮膚潰瘍の治療薬の開発・実用化を目指した研究を行っている。皮膚創傷治癒を促進する BLT2 作働薬の開発を目指し、リード化合物のスクリーニングを行った。数万種の化合物ライブラリーから、BLT2 受容体過剰発現細胞の細胞内カルシウム上昇を指標に、4つのリード化合物を選択し、以降の *in vitro* の解析を行った。4つの化合物のいずれもが、BLT2 発現ヒトケラチノサイト(HaCaT 細胞)の移動を促進した。4つの中から、最も BLT2 作働活性が高かった化合物を選択し、構造機能相関をあきらかにすべく、構造展開を行っているところである。最も BLT2 作働活性が高かった化合物が、核内受容体 PPAR の作働活性を有していることが判明した(*48-50)。新規薬剤化にあたって、標的分子が複数存在することは問題なので、PPAR 作働活性を消失させる構造展開を行っている。今後は、1) PPAR 作働活性を有さない BLT2 作働薬への構造展開、2)マウス、ラットの皮膚創傷治癒モデルにおける効果の観察、3)ヒト初代培養ケラチノサイト、ヒト iPS 細胞由来皮膚シートを用いた毒性試験を行う予定である。

形成外科(水野・田中ら)は、難治性潰瘍患者に対する生体外培養増幅末梢血単核球細胞移植による血管再生治療の開発を進めている。生体外で培養増幅した末梢血単核球を用いて、2015年に臨床研究を開始した。2017年度までに合計10例の患者に本治療を実施する予定である。しかしながら、約10%の頻度で、本培養法において培養効率が極めて低い患者(Non-responder)が存在する。これらの患者の遺伝子バイオマーカー開発を行い、候補となる遺伝子を数個検出している。一方、Non-responderの培地のみ特異的に検出できる血管新生関連因子のサイトカインをいくつか同定している。これらの結果により、今後先進医療Bへと展開する本再生医療の効果がより確実な物になると期待される。

<特に優れた研究成果>

1. ヒト iPS 細胞からの高効率な神経分化誘導方法の開発(赤松ら)
2. 多施設共同研究により LDL-C および HDL-C の測定試薬製品の信頼度を向上させた(三井田ら)
3. HDL の構成成分である血清 ApoA1 値が、冠動脈疾患の予後を正確に予測することを示した(代田ら)
4. LL-37 が LPS を除去することによって血管障害に対して防御的に働く可能性を示した(長岡ら)
5. 糖尿病患者特異的な分化障害を改善する培地の開発に成功し、特許を取得した。(水野・田中ら)
6. MAIT 細胞が潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患の病態に寄与する可能性を示した(三宅ら)
7. 319名の糖尿病性腎不全患者をリクルートし、TNFR と生命予後の関連を明らかにした。(鈴木ら)
8. 多検体の患者血液サンプルと臨床情報から新規 PD 原因遺伝子として CHCHD2 を同定した。(服部ら)
9. パーキンソン病がリソソーム病と共通した病態を呈することを明らかにした。(小池ら)
10. 膵腺細胞をインスリン産生細胞へ効率よくリプログラミングする方法を開発した。(綿田・宮塚ら)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

11. 脂肪組織由来幹細胞を表皮角化細胞へと分化誘導する方法を確立した。(池田ら)
12. 皮膚創傷治癒を促進する BLT2 作働薬の候補として4つのリード化合物を同定した(横溝ら)

<問題点とその克服方法>

各研究グループが行っている生活習慣病の病態解明と治療法開発は大きな成果を上げているが、現在は患者リソースを活用した研究は一部であり、またその場合も部門ごとに検体を収集・解析している。今後は本事業が全体目標とする集約的なサンプルの活用と情報の共有体制の整備に向けて、同時に患者同意取得体制の整備も行っていく。

<研究成果の副次的効果（実用化や特許の申請など研究成果の活用の見通しを含む。）>

1. 企業との共同研究により、遊離グリセロールを直接測定する試薬を開発した(臨床検査医学)。
2. 糖尿病患者に特化した EPC の機能増幅を目的とした新培地の開発に成功した(形成外科)。

<今後の研究方針>

新井研究代表のもとで、本事業が全体目標とする集約的なサンプルの活用と情報の共有体制の整備に向けてグループ間での情報共有をより密に行いながら、同時に各グループの研究を促進する。

<今後期待される研究成果>

1. 高効率な神経分化誘導方法の開発によって大量の患者検体を活用した病態研究が期待される。
2. アルツハイマー病 iPS 細胞由来神経細胞におけるカルシウム代謝異常と病態の関係が明らかになる。
3. HDL の性質が明らかになり、新たな動脈硬化治療の開発が期待できる。
4. LL-37 の血管障害に対するメカニズム、特にオートファジーとの関連が明らかになる。
5. 実用的かつ効果的な次世代の血管・組織再生治療の方法が確立される。
6. MAIT 細胞の機能調節による新たな炎症性腸炎や虚血性疾患の治療方法の確立。
7. 慢性腎臓病に併発する末梢動脈疾患における ADMA の役割が明らかになる。
8. 患者血液サンプルと臨床情報から神経変性疾患の新規原因遺伝子が同定される。
9. iPS 細胞由来神経細胞におけるオルガネラの動態の感度の高い免疫電子顕微鏡法の確立。
10. 内在性細胞を用いた糖尿病のリプログラミング治療方法の開発。
11. 脂肪組織由来幹細胞を用いた新しい創傷の治療方法の開発。
12. 皮膚創傷治癒を促進する BLT2 作働薬の開発。

<自己評価の実施結果及び対応状況>

新井研究代表のもとで、運営会議において各研究者は年度ごとに研究の進捗と今後の計画を報告し、全体の進捗状況と問題点とその対応について討議し、事業計画の改善を図っている。個別の研究課題は順調に進行しているが、全体の目標である学内で共通利用可能な患者検体の収集(バンク化)と臨床情報を含めた情報のデータベース化に関してはその達成度は高くない。2016年に設置された難病研究センターに設置される予定のサンプルセンター(仮称)との連携・統合も視野に入れて体制を整備していくことが今後の課題と思われる。

<外部(第三者)評価の実施結果及び対応状況>

東京都医学総合研究所・田中啓二理事長兼所長と、東京大学薬学部三浦正幸教授を外部評価委員として委嘱している。中間報告までの進捗に関しては別紙に示す講評を頂いたため、運営委員会で議論し研究方針に取り入れていく。今後は年次発表会にも参加を要請し、都度講評を頂き研究の円滑な進行を図っていく。

H29年度までの外部委員評価においては、生活習慣病の患者検体のデータベース化というコンセプトの重要性、および実際の検体収集が順調に進行していることを高く評価頂いた。今後は実際にそのリソースを有効活用した病態研究の促進が期待されるとの評価も頂いた。外部評価委員の先生方のこれらの助言に基づいて、研究期間の後半は、検体のバンク化・データベース化の一層の拡充と、実際にそれらを研究リソースとして活用できる体制の整備をじゅ重要課題として研究を進行していく。

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- | | | |
|----------|------------|------------|
| (1) 幹細胞 | (2) 細胞バンク | (3) データベース |
| (4) 血管障害 | (5) 糖尿病 | (6) iPS細胞 |
| (7) 再生医療 | (8) 神経変性疾患 | |

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

(ゲノム・再生医療センター)

1. Nakazawa T, Kikuchi M, Ishikawa M, Yamamori H, Nagayasu K, Matsumoto T, Fujimoto M, Yasuda Y, Fujiwara M, Okada S, Matsumura K, Kasai A, Hayata-Takano A, Shintani N, Numata S, Takuma K, **Akamatsu W**, Okano H, Nakaya A, Hashimoto H, Hashimoto R.
Differential gene expression profiles in neurons generated from lymphoblastoid B-cell line-derived iPS cells from monozygotic twin cases with treatment-resistant schizophrenia and discordant responses to clozapine.
Schizophr Res. 181:75-82. 2017
2. Takayama Y, Wakabayashi T, Kushige H, Saito Y, Shibuya Y, Shibata S, **Akamatsu W**, Okano H, Kida YS.
Brief exposure to small molecules allows induction of mouse embryonic fibroblasts into neural crest-like precursors.
FEBS Lett. 591(4):590-602. 2017
3. Andoh-Noda T, **Akamatsu W**, Miyake K, Kobayashi T, Ohyama M, Kurosawa H, Kubota T, Okano H.
Differential X Chromosome Inactivation Patterns during the Propagation of Human Induced Pluripotent Stem Cells.
Keio J Med. Jan 20. 2017
4. Suzuki S, **Akamatsu W**, Kisa F, Sone T, **Ishikawa KI**, Kuzumaki N, Katayama H, Miyawaki A, **Hattori N**, Okano H.
Efficient induction of dopaminergic neuron differentiation from induced pluripotent stem cells reveals impaired mitophagy in PARK2 neurons.
Biochem Biophys Res Commun. 483(1):88-93. 2017
5. Hosoya M, Fujioka M, Sone T, Okamoto S, **Akamatsu W**, Ukai H, Ueda HR, Ogawa K, Matsunaga T, Okano H.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Cochlear Cell Modeling Using Disease-Specific iPSCs Unveils a Degenerative Phenotype and Suggests Treatments for Congenital Progressive Hearing Loss.

Cell Reports Jan 3;18(1):68-81. 2017

6. Okuno H, Nakabayashi K, Abe K, Ando T, Sanosaka T, Kohyama J, **Akamatsu W**, Ohyama M, Takahashi T, Kosaki K, Okano H.
Changeability of the fully methylated status of the 15q11.2 region in induced pluripotent stem cells derived from a patient with Prader-Willi syndrome.
Congenit Anom (Kyoto). 2016 Dec 21. doi: 10.1111/cga.12206. [Epub ahead of print]
7. Ouchi T, Morikawa S, Shibata S, Fukuda K, Okuno H, Fujimura T, Kuroda T, Ohyama M, **Akamatsu W**, Nakagawa T, Okano H.
LNGFR+THY-1+ human pluripotent stem cell-derived neural crest-like cells have the potential to develop into mesenchymal stem cells.
Differentiation. 2016 Dec;92(5):270-280.
8. Hoashi Y, Okamoto S, Abe Y, Matsumoto T, Tanaka J, Yoshida Y, Imaizumi K, Mishima K, **Akamatsu W**, Okano H, Baba K.
Generation of neural cells using iPSCs from sleep bruxism patients with 5-HT2A polymorphism.
J Prosthodont Res. 2016 Dec 1. pii: S1883-1958(16)30106-2.
9. Toyoshima M, **Akamatsu W**, Okada Y, Ohnishi T, Balan S, Hisano Y, Iwayama Y, Toyota T, Matsumoto T, Itasaka N, Sugiyama S, Tanaka M, Yano M, Dean B, Okano H, Yoshikawa T.
Analysis of induced pluripotent stem cells carrying 22q11.2 deletion.
Transl Psychiatry. 2016 Nov 1;6(11):e934.
10. Fujimori K, Tezuka T, Ishiura H, Mitsui J, Doi K, Yoshimura J, Tada H, Matsumoto T, Isoda M, Hashimoto R, **Hattori N**, Takahashi T, Morishita S, Tsuji S, **Akamatsu W**, Okano H.
Modeling neurological diseases with induced pluripotent cells reprogrammed from immortalized lymphoblastoid cell lines.
Mol Brain. 2016 Oct 3;9(1):88.
11. Bamba Y, Shofuda T, Kato M, Pooh RK, Tateishi Y, Takanashi J, Utsunomiya H, Sumida M, Kanematsu D, Suemizu H, Higuchi Y, **Akamatsu W**, Gallagher D, Miller FD, Yamasaki M, Kanemura Y, Okano H.
In vitro characterization of neurite extension using induced pluripotent

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

stem cells derived from lissencephaly patients with TUBA1A missense mutations.

Mol Brain. 2016 Jul 19;9(1):70.

12. Ichiyanagi N, Fujimori K, Yano M, Ishihara-Fujisaki C, Sone T, Akiyama T, Okada Y, Akamatsu W, Matsumoto T, Ishikawa M, Nishimoto Y, Ishihara Y, Sakuma T, Yamamoto T, Tsuiji H, Suzuki N, Warita H, Aoki M, Okano H.

Establishment of In Vitro FUS-Associated Familial Amyotrophic Lateral Sclerosis Model Using Human Induced Pluripotent Stem Cells.

Stem Cell Reports. 2016 Apr 12;6(4):496-510.

13. (*1) Matsumoto T, Fujimori K, Andoh-Noda T, Ando T, Kuzumaki N, Toyoshima M, Tada H, Imaizumi K, Ishikawa M, Yamaguchi R, Isoda M, Zhou Z, Sato S, Kobayashi T, Ohtaka M, Nishimura K, Kurosawa H, Yoshikawa T, Takahashi T, Nakanishi M, Ohyama M, Hattori N, Akamatsu W, Okano H.

Functional Neurons Generated from T Cell-Derived Induced Pluripotent Stem Cells for Neurological Disease Modeling.

Stem Cell Reports. 2016 Mar 8;6(3):422-35.

14. Andoh-Noda T, Inouye MO, Miyake K, Kubota T, Okano H, Akamatsu W.

Modeling Rett Syndrome Using Human Induced Pluripotent Stem Cells.

CNS Neurol Disord Drug Targets. 2016;15(5):544-50.

15. Imaizumi K, Sone T, Ibata K, Fujimori K, Yuzaki M, Akamatsu W, Okano H.

Controlling the Regional Identity of hPSC-Derived Neurons to Uncover Neuronal Subtype Specificity of Neurological Disease Phenotypes.

Stem Cell Reports. 2015 Dec 8;5(6):1010-22.

16. Maekawa M, Iwayama Y, Ohnishi T, Toyoshima M, Shimamoto C, Hisano Y, Toyota T, Balan S, Matsuzaki H, Iwata Y, Takagai S, Yamada K, Ota M, Fukuchi S, Okada Y, Akamatsu W, Tsujii M, Kojima N, Owada Y, Okano H, Mori N, Yoshikawa T.

Investigation of the fatty acid transporter-encoding genes SLC27A3 and SLC27A4 in autism.

Sci Rep. 2015 Nov 9;5:16239.

17. Ohta E, Nihira T, Uchino A, Imaizumi Y, Okada Y, Akamatsu W, Takahashi K, Hayakawa H, Nagai M, Ohyama M, Ryo M, Ogino M, Murayama S, Takashima A, Nishiyama K, Mizuno Y, Mochizuki H, Obata F, Okano H.

I2020T mutant LRRK2 iPSC-derived neurons in the Sagamihara family exhibit increased Tau phosphorylation through the AKT/GSK-3 β

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

signaling pathway..

Hum Mol Genet. 2015 Sep 1;24(17):4879-900.

18. Maekawa M, Yamada K, Toyoshima M, Ohnishi T, Iwayama Y, Shimamoto C, Toyota T, Nozaki Y, Balan S, Matsuzaki H, Iwata Y, Suzuki K, Miyashita M, Kikuchi M, Kato M, Okada Y, **Akamatsu W**, Mori N, Owada Y, Itokawa M, Okano H, Yoshikawa T.

Utility of Scalp Hair Follicles as a Novel Source of Biomarker Genes for Psychiatric Illnesses.

Biol Psychiatry. 2015 Jul 15;78(2):116-25

19. Andoh-Noda T, **Akamatsu W**, Miyake K, Matsumoto T, Yamaguchi R, Sanosaka T, Okada Y, Kobayashi T, Ohyama M, Nakashima K, Kurosawa H, Kubota T, Okano H.

Differentiation of multipotent neural stem cells derived from Rett syndrome patients is biased toward the astrocytic lineage.

Mol Brain. 2015 May 27;8:31.

20. Matsui T, **Akamatsu W**, Nakamura M, Okano H.

Regeneration of the damaged central nervous system through reprogramming technology: basic concepts and potential application for cell replacement therapy.

Exp Neurol. 2014 Oct;260:12-8.

21. Yoshida T, Ozawa Y, Suzuki K, Yuki K, Ohyama M, **Akamatsu W**, Matsuzaki Y, Shimmura S, Mitani K, Tsubota K, Okano H.

The use of induced pluripotent stem cells to reveal pathogenic gene mutations and explore treatments for retinitis pigmentosa.

Mol Brain. 2014 Jun 16;7:45.

22. Numasawa-Kuroiwa Y, Okada Y, Shibata S, Kishi N, **Akamatsu W**, Shoji M, Nakanishi A, Oyama M, Osaka H, Inoue K, Takahashi K, Yamanaka S, Kosaki K, Takahashi T, Okano H.

Involvement of ER stress in dysmyelination of Pelizaeus-Merzbacher Disease with PLP1 missense mutations shown by iPSC-derived oligodendrocytes.

Stem Cell Reports. 2014 Apr 24;2(5):648-61.

(腎臓内科)

23. Sasaki Y, Hidaka T, Ueno T, Akiba-Takagi M, Trejo JA, Seki T, Nagai-Hosoe Y, Tanaka E, Horikoshi S, Tomino Y, **Suzuki Y**, Asanuma K.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Sorting Nexin 9 facilitates podocin endocytosis in the injured podocyte.
Sci Rep. 2017 Mar 7;7:43921.

24. (*2) Gohda T, Maruyama S, Kamei N, Yamaguchi S, Shibata T, Murakoshi M, Horikoshi S, Tomino Y, Ohsawa I, Gotoh H, Nojiri S, **Suzuki Y**.
Circulating TNF Receptors 1 and 2 Predict Mortality in Patients with End-stage Renal Disease Undergoing Dialysis.
Sci Rep. 2017 Mar 3;7:43520.
25. Arai S, Kitada K, Yamazaki T, Takai R, Zhang X, Tsugawa Y, Sugisawa R, Matsumoto A, Mori M, Yoshihara Y, Doi K, Maehara N, Kusunoki S, Takahata A, Noiri E, **Suzuki Y**, Yahagi N, Nishiyama A, Gunaratnam L, Takano T, Miyazaki T.
Apoptosis inhibitor of macrophage protein enhances intraluminal debris clearance and ameliorates acute kidney injury in mice.
Nat Med. 2016 Feb;22(2):183-93
26. Yamanaka T, Tamauchi H, **Suzuki Y**, Suzuki H, Horikoshi S, Terashima M, Iwabuchi K, Habu S, Okumura K, **Tomino Y**.
Release from Th1-type immune tolerance in spleen and enhanced production of IL-5 in Peyer's patch by cholera toxin B induce the glomerular deposition of IgA.
Immunobiology. 2016 Apr;221(4):577-85.
27. Lai KN, Tang SC, Schena FP, Novak J, **Tomino Y**, Fogo AB, Glassock RJ.
IgA nephropathy.
Nat Rev Dis Primers. 2016 Feb 11;2:16001.
28. Ishizaka M, Gohda T, Takagi M, Omote K, Sonoda Y, Oliva Trejo JA, Asao R, Hidaka T, Asanuma K, Horikoshi S, **Tomino Y**.
Podocyte-specific deletion of Rac1 leads to aggravation of renal injury in STZ-induced diabetic mice.
Biochem Biophys Res Commun. 2015 Nov 20;467(3):549-55.
29. Kim YG, Alvarez M, Suzuki H, Hirose S, Izui S, **Tomino Y**, Huard B, **Suzuki Y**.
Pathogenic Role of a Proliferation-Inducing Ligand (APRIL) in Murine IgA Nephropathy.
PLoS One. 2015 Sep 8;10(9):e0137044.
30. Fukuda H, Hidaka T, Takagi-Akiba M, Ichimura K, Oliva Trejo JA, Sasaki Y, Wang J, Sakai T, Asanuma K, **Tomino Y**.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Podocin is translocated to cytoplasm in puromycin aminonucleoside nephrosis rats and in poor-prognosis patients with IgA nephropathy.

Cell Tissue Res. 2015 May;360(2):391-400.

31. Sonoda Y, Gohda T, Suzuki Y, Omote K, Ishizaka M, Matsuoka J, Tomino Y.
Circulating TNF receptors 1 and 2 are associated with the severity of renal interstitial fibrosis in IgA nephropathy.
 PLoS One. 2015 Apr 10;10(4):e0122212.
32. Yamaji K, Suzuki Y, Suzuki H, Satake K, Horikoshi S, Novak J, Tomino Y.
The kinetics of glomerular deposition of nephritogenic IgA.
 PLoS One. 2014 Nov 19;9(11):e113005.
33. Suzuki Y, Suzuki H, Makita Y, Takahata A, Takahashi K, Muto M, Sasaki Y, Kelimu A, Matsuzaki K, Yanagawa H, Okazaki K, Tomino Y.
Diagnosis and activity assessment of immunoglobulin A nephropathy: current perspectives on noninvasive testing with aberrantly glycosylated immunoglobulin A-related biomarkers.
 Int J Nephrol Renovasc Dis. 2014 Oct 30;7:409-14.
34. Suzuki Y, Matsuzaki K, Suzuki H, Okazaki K, Yanagawa H, Ieiri N, Sato M, Sato T, Taguma Y, Matsuoka J, Horikoshi S, Novak J, Hotta O, Tomino Y.
Serum levels of galactose-deficient immunoglobulin (Ig) A1 and related immune complex are associated with disease activity of IgA nephropathy.
 Clin Exp Nephrol. 2014 Oct;18(5):770-7.
35. Wakabayashi K, Hamada C, Kanda R, Nakano T, Io H, Horikoshi S, Tomino Y.
Adipose-derived mesenchymal stem cells transplantation facilitate experimental peritoneal fibrosis repair by suppressing epithelial-mesenchymal transition.
 J Nephrol. 2014 Oct;27(5):507-14.
36. Satake K, Shimizu Y, Sasaki Y, Yanagawa H, Suzuki H, Suzuki Y, Horikoshi S, Honda S, Shibuya K, Shibuya A, Tomino Y.
Serum under-O-glycosylated IgA1 level is not correlated with glomerular IgA deposition based upon heterogeneity in the composition of immune complexes in IgA nephropathy.
 BMC Nephrol. 2014 Jun 13;15:89.
37. Omote K, Gohda T, Murakoshi M, Sasaki Y, Kazuno S, Fujimura T, Ishizaka

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

M, Sonoda Y, **Tomino Y**:

Role of the TNF pathway in the progression of diabetic nephropathy in KK-A^y mice.

Am J Physiol Renal Physiol 306: F1335-1347, 2014

38. Yanagawa H, Suzuki H, **Suzuki Y**, Kiryluk K, Gharavi AG, Matsuoka K, Makita Y, Julian BA, Novak J, **Tomino Y**.

A panel of serum biomarkers differentiates IgA nephropathy from other renal diseases.

PLoS One. 2014 May 23;9(5):e98081.

39. Oliva Trejo JA, Asanuma K, Kim EH, Takagi-Akiba M, Nonaka K, Hidaka T, Komatsu M, Tada N, Ueno T, **Tomino Y**.

Transient increase in proteinuria, poly-ubiquitylated proteins and ER stress markers in podocyte-specific autophagy-deficient mice following unilateral nephrectomy.

Biochem Biophys Res Commun. 2014 Apr 18;446(4):1190-6.

40. Aizawa M, **Suzuki Y**, Suzuki H, Pang H, Kihara M, Nakata J, Yamaji K, Horikoshi S, **Tomino Y**.

Uncoupling of glomerular IgA deposition and disease progression in alymphoplasia mice with IgA nephropathy.

PLoS One. 2014 Apr 17;9(4):e95365.

41. Suzuki H, **Suzuki Y**, Novak J, **Tomino Y**.

Development of Animal Models of Human IgA Nephropathy.

Drug Discov Today Dis Models. 2014 Spring;11:5-11.

42. Seto T, Hamada C, **Tomino Y**.

Suppressive effects of iron overloading on vascular calcification in uremic rats.

J Nephrol. 2014 Apr;27(2):135-42.

(臨床検査医学)

43. Sekihara K, Saitoh K, Han L, Ciurea S, Yamamoto S, Kikkawa M, Kazuno S, Taka H, Kaga N, Arai H, **Miida T**, Andreeff M, Konopleva M, Tabe Y.

Targeting mantle cell lymphoma metabolism and survival through simultaneous blockade of mTOR and nuclear transporter exportin-1.

Oncotarget. 2017 Mar 27.

44. (*3) **Miida T**, Nishimura K, Hirayama S, Miyamoto Y, Nakamura M, Masuda

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- D, Yamashita S, Ushiyama M, Komori T, Fujita N, Yokoyama S, Teramoto T.
Homogeneous assays for LDL-C and HDL-C are reliable in both the postprandial and fasting state.
 J Atheroscler Thromb. 2017 Mar 17.
45. Tabe Y, Yamamoto S, Saitoh K, Sekihara K, Monma N, Ikeo K, Mogushi K, Shikami M, Ruvolo V, Ishizawa J, Hail N Jr, Kazuno S, Igarashi M, Matsushita H, Yamanaka Y, Arai H, **Nagaoka I**, **Miida T**, Hayashizaki Y, Konopleva M, Andreeff M.
Bone Marrow Adipocytes Facilitate Fatty Acid Oxidation Activating AMPK and a Transcriptional Network Supporting Survival of Acute Monocytic Leukemia Cells.
 Cancer Res. 2017 Mar 15;77(6):1453-1464.
46. Nagasaka H, Komatsu H, Inui A, Nakacho M, Morioka I, Tsukahara H, Kaji S, Hirayama S, **Miida T**, Kondou H, Ihara K, Yagi M, Kizaki Z, Bessho K, Kodama T, Iijima K, Saheki T, Yorifuji T, Honda A.
Circulating tricarboxylic acid cycle metabolite levels in citrin-deficient children with metabolic adaptation, with and without sodium pyruvate treatment.
 Mol Genet Metab. 2017 Mar;120(3):207-212.
47. Nagao Y, Hirayama S, Kon M, Sasamoto K, Sugihara M, Hirayama A, Isshiki M, Seino U, Miyazaki O, **Miida T**.
Current smokers with hyperlipidemia lack elevated pre β 1-HDL concentrations.
 J Clin Lipidol. 2017 Jan - Feb;11(1):242-249.
48. Suzuki L, Hirayama S, Fukui M, Sasaki M, Hiroi S, Ayaori M, Terai S, Tozuka M, Watada H, **Miida T**.
Lipoprotein-X in cholestatic patients causes xanthomas and promotes foam cell formation in human macrophages.
 J Clin Lipidol. 2017 Jan - Feb;11(1):110-118.
49. (*4) Nakagawa T, Hirayama S, Watanabe T, Yokomura M, Kohno M, Sato T, Bujo H, Sato A, Murata M, **Miida T**; JSCC Kanto Study Group..
Triglyceride concentrations should be measured after elimination of free glycerol to exclude interindividual variations due to adiposity and fasting status.
 Clin Chem Lab Med. 2017 Jan 18.
50. Idei M, Tabe Y, Hamada C, Miyake K, Takemura H, Io H, Wakita M, Horii T,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Tomino Y, Ohsaka A, Miida T.

Pancreatic lipase activity in overnight effluent predicts high transport status in peritoneal dialysis patients.

Clin Chim Acta. 2016 Nov 1;462:65-70.

51. Watts GF, Ding PY, George P, Hagger MS, Hu M, Lin J, Khoo KL, Marais AD, Miida T, Nawawi HM, Pang J, Park JE, Gonzalez-Santos LB, Su TC, Truong TH, Santos RD, Soran H, Yamashita S, Tomlinson B; for the members of the "Ten countries Study".

Translational Research for Improving the Care of Familial Hypercholesterolemia: The "Ten Countries Study" and Beyond.

J Atheroscler Thromb. 2016 Aug 1;23(8):891-900.

52. Horiuchi Y, Tabe Y, Kasuga K, Maenou I, Idei M, Horii T, Miida T, Ohsaka A.

The efficacy of an internet-based e-learning system using the CellaVision Competency Software for continuing professional development.

Clin Chem Lab Med. 2016 Apr;54(4):e127-31.

53. Ueno T, Hirayama S, Sugihara M, Miida T.

The bromocresol green assay, but not the modified bromocresol purple assay, overestimates the serum albumin concentration in nephrotic syndrome through reaction with α 2-macroglobulin.

Ann Clin Biochem. 2016 Jan;53(Pt 1):97-105.

54. Hayashi K, Tabe Y, Miida T.

Impact of Clotting Condition on the Measurement of Circulating MicroRNAs in Serum.

Clin Lab. 2016;62(3):471-5.

55. Tabe Y, Hatanaka Y, Nakashiro M, Sekihara K, Yamamoto S, Matsushita H, Kazuno S, Fujimura T, Ikegami T, Nakanaga K, Matsumoto H, Ueno T, Aoki J, Yokomizo T, Konopleva M, Andreeff M, Miida T, Iwabuchi K, Sasai K.

Integrative genomic and proteomic analyses identifies glycerol-3-phosphate acyltransferase as a target of low-dose ionizing radiation in EBV infected-B cells.

Int J Radiat Biol. 2016;92(1):24-34.

56. Mukaida H, Matsushita S, Inotani T, Futaki S, Takano A, Watanabe M, Morita T, Miida T, Amano A.

Peripheral circulation evaluation with near-infrared spectroscopy in skeletal muscle during cardiopulmonary bypass.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Perfusion. 2015 Nov;30(8):653-9.

57. Tabe Y, Kojima K, Yamamoto S, Sekihara K, Matsushita H, Davis RE, Wang Z, Ma W, Ishizawa J, Kazuno S, Kauffman M, Shacham S, Fujimura T, Ueno T, **Miida T**, Andreeff M.

Ribosomal Biogenesis and Translational Flux Inhibition by the Selective Inhibitor of Nuclear Export (SINE) XPO1 Antagonist KPT-185.

PLoS One. 2015 Sep 4;10(9):e0137210.

58. Nagasaka H, Hirayama S, Takuwa M, Nakacho M, Yorifuji T, Kondou H, **Miida T**.

ApoE4 Determines the Reduction in LDL-C After GH Replacement Therapy in Children With an Idiopathic GH Deficiency.

J Clin Endocrinol Metab. 2015 Sep;100(9):3494-501.

59. Ashihara E, Munaka T, Kimura S, Nakagawa S, Nakagawa Y, Kanai M, Hirai H, Abe H, **Miida T**, Yamato S, Shoji S, Maekawa T.

Isopentenyl pyrophosphate secreted from Zoledronate-stimulated myeloma cells, activates the chemotaxis of $\gamma\delta$ T cells.

Biochem Biophys Res Commun. 2015 Aug 7;463(4):650-5.

60. Nishioka E, Hirayama S, Ueno T, Matsukawa T, Vigeh M, Yokoyama K, Makino S, Takeda S, **Miida T**.

Relationship between maternal thyroid-stimulating hormone (TSH) elevation during pregnancy and low birth weight: a longitudinal study of apparently healthy urban Japanese women at very low risk.

Early Hum Dev. 2015 Mar;91(3):181-5.

61. Tabe Y, Yamamoto T, Maenou I, Nakai R, Idei M, Horii T, **Miida T**, Ohsaka A.

Performance evaluation of the digital cell imaging analyzer DI-60 integrated into the fully automated Sysmex XN hematology analyzer system.

Clin Chem Lab Med. 2015 Feb;53(2):281-9.

62. **Miida T**, Nishimura K, Okamura T, Hirayama S, Ohmura H, Yoshida H, Miyashita Y, Ai M, Tanaka A, Sumino H, Murakami M, Inoue I, Kayamori Y, Nakamura M, Nobori T, Miyazawa Y, Teramoto T, Yokoyama S.

Validation of homogeneous assays for HDL-cholesterol using fresh samples from healthy and diseased subjects.

Atherosclerosis, Vol. 233, No. 1, 253-259, 2014.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

63. Yokoyama S, Ueshima H, **Miida T**, Nakamura M, Takata K, Fukukawa T, Goto T, Harada-Shiba M, Sano M, Kato K, Matsuda K.
High-density lipoprotein levels have markedly increased over the past twenty years in Japan.
 J Atheroscler Thromb, Vol. 21, No. 2, 151-160, 2014.
64. Idei M, **Hirayama S**, Miyake N, Kon M, Horiuchi Y, **Ueno T**, Miyake K, Sato N, Yoshii H, Yamashiro K, Onuma T, **Miida T**.
The mean postprandial triglyceride concentration is an independent risk factor of carotid atherosclerosis in patients with type 2 diabetes.
 Clin Chim Acta, Vol. 430, 134-139, 2014.
65. Yamaguchi S, Zhang B, Tomonaga T, Seino U, Kanagawa A, Nagasaka H, Suzuki A, **Miida T**, Yamada S, Sasaguri Y, Doi T, Saku K, Okazaki M, Tochino Y, Hirano K.
Selective evaluation of high density lipoprotein from mouse small intestines by an *in situ* perfusion technique.
 J Lipid Res, Vol. 55, No. 5, 905-918, 2014.
66. Shoji H, Murano Y, Mori M, Matsunaga N, Ohkawa N, Suganuma H, Ikeno M, Hisata K, Hirayama S, Ueno T, **Miida T**, Shimizu T.
Lipid profile and atherogenic indices soon after birth in Japanese preterm infants.
 Acta Paediatr, Vol. 103, No. 1, 22-26, 2014.
67. Nagasaka H, Tsukahara H, Okano Y, Hirano K, Sakurai T, Hui S-P, Ohura T, Usui H, Yorifuji T, Hirayama S, Ohtake A, **Miida T**.
Changes of lipoproteins in phenylalanine hydroxylase-deficient children for the first early of life.
 Clin Chim Acta, Vol. 433, 1-4, 2014.
68. Ikeda N, Shoji H, Murano Y, Mori M, Matsunaga N, Suganuma H, Ikeno M, Hisata K, Hirayama S, Ueno T, **Miida T**, Shimizu T.
Effects of breastfeeding on the risk factors for metabolic syndrome in preterm infants.
 J Dev Orig Health Dis, Vol. 5, No. 6, 459-464, 2014.
69. Tabe Y, Jin L, Konopleva M, Shikami M, Kimura S, Andreeff M, Raffeld M, **Miida T**.
Class IA PI3K inhibition inhibits cell growth and proliferation in mantle cell lymphoma.
 Acta Haematol, Vol. 131, No. 1, 59-69, 2014.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

70. Nishioka E, Yokoyama K, Matsukawa T, Vigeh M, Hirayama S, Ueno T, **Miida T**, Makino S, Takeda S.
Evidence that birth weight is decreased by lead at its maternal levels below 5µg/dl in male but not in female newborns.
 Reprod Toxicol, Vol. 47, 21-26, 2014.

(循環器内科)

71. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Hassan A, Okazaki S, Isoda K, Shimada K, Suwa S, **Daida H**.
Preprocedural High-Sensitivity C-Reactive Protein Predicts Long-Term Outcome of Percutaneous Coronary Intervention.
 Circ J. 2016 Dec 22;81(1):90-95.
72. Ogita M, Miyauchi K, Onishi A, Tsuboi S, Wada H, Konishi H, Naito R, Dohi T, Kasai T, Kojima Y, Schwartz RS, **Daida H**.
Development of Accelerated Coronary Atherosclerosis Model Using Low Density Lipoprotein Receptor Knock-Out Swine with Balloon Injury.
 PLoS One. 2016 Sep 15;11(9):e0163055.
73. Jiang L, Konishi H, Nurwidya F, Satoh K, Takahashi F, Ebinuma H, Fujimura K, Takasu K, Jiang M, Shimokawa H, Bujo H, **Daida H**.
Deletion of LR11 Attenuates Hypoxia-Induced Pulmonary Arterial Smooth Muscle Cell Proliferation With Medial Thickening in Mice.
 Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2016 Sep;36(9):1972-9.
74. Akita K, Isoda K, Okabayashi Y, Shimada K, **Daida H**.
Lack of IκBNS accelerates atherosclerosis in LDL receptor-deficient mice via increased interleukin-6 production.
 Int J Cardiol. 2016 May 15;211:61-3.
75. Sai E, Shimada K, Miyauchi K, Masaki Y, Kojima T, Miyazaki T, Kurata T, Ogita M, Tsuboi S, Yoshihara T, Miyazaki T, Ohsaka A, **Daida H**.
Increased cystatin C levels as a risk factor of cardiovascular events in patients with preserved estimated glomerular filtration rate after elective percutaneous coronary intervention with drug-eluting stents.
 Heart Vessels. 2016 May;31(5):694-701.
76. Ogita M, Miyauchi K, Kasai T, Tsuboi S, Wada H, Naito R, Konishi H, Dohi

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

T, Tamura H, Okazaki S, Yanagisawa N, Shimada K, Suwa S, Jiang M, Bujo H, **Daida H.**

Prognostic impact of circulating soluble LR11 on long-term clinical outcomes in patients with coronary artery disease.

Atherosclerosis. 2016 Jan;244:216-21.

77. Shibayama K, Daimon M, Watanabe H, Kawata T, Miyazaki S, Morimoto-Ichikawa R, Maruyama M, Chiang SJ, Miyauchi K, **Daida H.**

Significance of Coronary Artery Disease and Left Ventricular Afterload in Unoperated Asymptomatic Aortic Stenosis.

Circ J. 2016;80(2):519-25.

78. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, **Daida H.**

Appropriate Level of Low-Density Lipoprotein Cholesterol for Secondary Prevention of Coronary Artery Disease.

J Atheroscler Thromb. 2016;23(4):413-21.

79. Ogita M, Miyauchi K, Tsuboi S, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Naito R, Konishi H, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Suwa S, **Daida H.**

Impact of Combined C-Reactive Protein and High-Density Lipoprotein Cholesterol Levels on Long-Term Outcomes in Patients With Coronary Artery Disease After a First Percutaneous Coronary Intervention.

Am J Cardiol. 2015 Oct 1;116(7):999-1002.

80. Konishi H, Miyauchi K, Tsuboi S, Ogita M, Naito R, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, **Daida H.**

Impact of the HAS-BLED Score on Long-Term Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention.

Am J Cardiol. 2015 Aug 15;116(4):527-31.

81. Suda S, Kasai T, Kato M, Kawana F, Kato T, Ichikawa R, Hayashi H, Kawata T, Sekita G, Itoh S, **Daida H.**

Bradyarrhythmias may induce central sleep apnea in a patient with obstructive sleep apnea.

Heart Vessels. 2015 Jul;30(4):554-7.

82. Ogita M, Miyauchi K, Kasai T, Doi S, Wada H, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Dohi T, Tamura H, Okazaki S, **Daida H.**

Impact of preprocedural high-sensitive C-reactive protein levels on long-term clinical outcomes of patients with stable coronary artery disease and chronic kidney disease who were treated with drug-eluting

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

stents.

J Cardiol. 2015 Jul;66(1):15-21.

83. Joki Y, Ohashi K, Yuasa D, Shibata R, Ito M, Matsuo K, Kambara T, Uemura Y, Hayakawa S, Hiramatsu-Ito M, Kanemura N, Ogawa H, **Daida H**, Murohara T, Ouchi N.

FGF21 attenuates pathological myocardial remodeling following myocardial infarction through the adiponectin-dependent mechanism.

Biochem Biophys Res Commun. 2015 Mar 27;459(1):124-30.

84. Akita K, Isoda K, Shimada K, **Daida H**.

Dipeptidyl-peptidase-4 inhibitor, alogliptin, attenuates arterial inflammation and neointimal formation after injury in low-density lipoprotein (LDL) receptor-deficient mice.

J Am Heart Assoc. 2015 Mar 13;4(3):e001469.

85. Joki Y, Ohashi K, Yuasa D, Shibata R, Kataoka Y, Kambara T, Uemura Y, Matsuo K, Hayakawa S, Hiramatsu-Ito M, Kanemura N, Ito M, Ogawa H, **Daida H**, Murohara T, Ouchi N.

Neuron-derived neurotrophic factor ameliorates adverse cardiac remodeling after experimental myocardial infarction.

Circ Heart Fail. 2015 Mar;8(2):342-51.

86. Hashimoto R, Katoh Y, Miyamoto Y, Itoh S, **Daida H**, Nakazato Y, Okada T.

Increased extracellular and intracellular Ca²⁺ lead to adipocyte accumulation in bone marrow stromal cells by different mechanisms.

Biochem Biophys Res Commun. 2015 Feb 20;457(4):647-52.

87. Nonaka R, Iesaki T, de Vega S, **Daida H**, Okada T, Sasaki T, Arikawa-Hirasawa E.

Perlecan deficiency causes endothelial dysfunction by reducing the expression of endothelial nitric oxide synthase.

Physiol Rep. 2015 Jan 27;3(1). pii: e12272.

88. Konishi H, Miyauchi K, Kasai T, Tsuboi S, Ogita M, Naito R, Sai E, Fukushima Y, Katoh Y, Okai I, Tamura H, Okazaki S, **Daida H**.

Impact of lipoprotein(a) as residual risk on long-term outcomes in patients after percutaneous coronary intervention.

Am J Cardiol. 2015 Jan 15;115(2):157-60.

89. Yoshihara T, Shimada K, Fukao K, Sai E, Sato-Okabayashi Y, Matsumori R,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Shiozawa T, Alshahi H, Miyazaki T, Tada N, **Daida H.**

Omega 3 Polyunsaturated Fatty Acids Suppress the Development of Aortic Aneurysms Through the Inhibition of Macrophage-Mediated Inflammation.

Circ J. 2015;79(7):1470-8.

90. Ogita M, Miyauchi K, Jiang M, Kasai T, Tsuboi S, Naito R, Konishi H, Dohi T, Yokoyama T, Okazaki S, Shimada K, Bujo H, **Daida H.** **Circulating soluble LR11, a novel marker of smooth muscle cell proliferation, is enhanced after coronary stenting in response to vascular injury.** *Atherosclerosis*. 2014 Nov;237:374-8.

91. Ogita M, Miyauchi K, Miyazaki T, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Dohi T, Kasai T, Yokoyama T, Okazaki S, Kurata T, **Daida H.**

Low high-density lipoprotein cholesterol is a residual risk factor associated with long-term clinical outcomes in diabetic patients with stable coronary artery disease who achieve optimal control of low-density lipoprotein cholesterol.

Heart Vessels. 29. 35-41. 2014

92. Naito R, Miyauchi K, Ogita M, Kasai T, Kawaguchi Y, Tsuboi S, Konishi H, Okazaki S, Kurata T, **Daida H.** **Impact of admission glycemia and glycosylated hemoglobin A1c on long-term clinical outcomes of non-diabetic patients with acute coronary syndrome.** *J Cardiol*. 63. 106-111,2014.

93. Konishi H, Miyauchi K, Kasai T, Tsuboi S, Ogita M, Naito R, Sai E, Fukushima Y, Katoh Y, Okai I, Tamura H, Okazaki S, **Daida H.** **Impact of lipoprotein(a) as residual risk on long-term outcomes in patients after percutaneous coronary intervention.** *Am J Cardiol*. 114. 157-160.2014

94. Odagiri F, Inoue H, Sugihara M, Suzuki T, Murayama T, Shioya T, Konishi M, Nakazato Y, **Daida H.** Sakurai T, Morimoto S, Kurebayashi N.

Effects of candesartan on electrical remodeling in the hearts of inherited dilated cardiomyopathy model mice.

PLoS One. 2014 Jul 7;9(7):e101838.

95. Nishizaki Y, Shimada K, Tani S, Ogawa T, Ando J, Takahashi M, Yamamoto M, Shinozaki T, Miyauchi K, Nagao K, Hirayama A, Yoshimura M, Komuro I, Nagai R, **Daida H.**

Significance of Imbalance in the Ratio of Serum n-3 to n-6 Polyunsaturated Fatty Acids in Patients with Acute Coronary Syndrome,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Am J Cardiol. 113. 441-445. 2014.

96. Miyazaki T, Shimada K, Hki M, Kume A, Kitamura Y, Oshida K, Yanagisawa N, Kiyonagi T, Matsumori R, **Daida H.**
High hexacosanoic acid levels are associated with coronary artery disease.
 Atherosclerosis. 223. 429-433. 2014.

(形成外科)

97. Shingyochi Y, Kanazawa S, Tajima S, **Tanaka R,** **Mizuno H,** Tobita M.
A Low-Level Carbon Dioxide Laser Promotes Fibroblast Proliferation and Migration through Activation of Akt, ERK, and JNK.
 PLoS One. 2017 Jan 3;12(1):e0168937.
98. Luo L, **Tanaka R,** Kanazawa S, Lu F, Hayashi A, Yokomizo T, **Mizuno H.**
A synthetic leukotriene B4 receptor type 2 agonist accelerates the cutaneous wound healing process in diabetic rats by indirect stimulation of fibroblasts and direct stimulation of keratinocytes.
 J Diabetes Complications. 2017 Jan;31(1):13-20.
99. Yoshizawa H, Senda D, Natori Y, **Tanaka R,** **Mizuno H,** Hayashi A.
End-to-Side Neurorrhaphy as Schwann Cells Provider to Acellular Nerve Allograft and Its Suitable Application.
 PLoS One. 2016 Dec 1;11(12):e0167507.
100. Horikoshi-Ishihara H, Tobita M, Tajima S, **Tanaka R,** Oshita T, Tabata Y, **Mizuno H.**
Coadministration of adipose-derived stem cells and control-released basic fibroblast growth factor facilitates angiogenesis in a murine ischemic hind limb model.
 J Vasc Surg. 2016 Dec;64(6):1825-1834.e1.
101. Oshita T, Tobita M, Tajima S, **Mizuno H.**
Adipose-Derived Stem Cells Improve Collagenase-Induced Tendinopathy in a Rat Model.
 Am J Sports Med. 2016 Aug;44(8):1983-9.
102. Sukmawati D, **Tanaka R,** Ito-Hirano R, Fujimura S, Hayashi A, Itoh S, **Mizuno H,** Daida H.
The role of Notch signaling in diabetic endothelial progenitor cells dysfunction.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

J Diabetes Complications. 2016 Jan-Feb;30(1):12-20.

103. Ferraro GA, Mizuno H, Pallua N.
Adipose Stem Cells: From Bench to Bedside.
 Stem Cells Int. 2016;2016:6484038.
104. Tobita M, Tajima S, Mizuno H.
Adipose tissue-derived mesenchymal stem cells and platelet-rich plasma: stem cell transplantation methods that enhance stemness.
 Stem Cell Res Ther. 2015 Nov 5;6:215.
105. Tajima S, Tobita M, Orbay H, Hyakusoku H and Mizuno H
Direct and indirect effects on bone regeneration of a combination of adipose-derived stem cells and platelet-rich plasma
 Tissue Eng Part A 21: 895-905, 2015
106. Masuda H, Tanaka R, Fujimura S, Ishikawa M, Akimaru H, Shizuno T, Sato A, Okada Y, Iida Y, Itoh J, Itoh Y, Kamiguchi H, Kawamoto A, Asahara T.
Vasculogenic conditioning of peripheral blood mononuclear cells promotes endothelial progenitor cell expansion and phenotype transition of anti-inflammatory macrophage and T lymphocyte to cells with regenerative potential.
 J Am Heart Assoc. 2014 Jun 25;3(3):e000743.

(生化学第 2)

107. Hu Z, Murakami T, Tamura H, Reich J, Kuwahara-Arai K, Iba T, Tabe Y, Nagaoka I.
Neutrophil extracellular traps induce IL-1 β production by macrophages in combination with lipopolysaccharide.
 Int J Mol Med. 2017 Mar;39(3):549-558.
108. Yamaguchi K, Kumakura S, Murakami T, Someya A, Inada E, Nagaoka I.
Ketamine suppresses the substance P-induced production of IL-6 and IL-8 by human U373MG glioblastoma/astrocytoma cells.
 Int J Mol Med. 2017 Mar;39(3):687-692.
109. Igarashi M, Sakamoto K, Nagaoka I.
Effect of glucosamine on expression of type II collagen, matrix metalloproteinase and sirtuin genes in a human chondrocyte cell line.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Int J Mol Med. 2017 Feb;39(2):472-478.

110. Tamura H, Reich J, **Nagaoka I**
Bacterial endotoxin assays relevant to host defense peptides.
Juntendo Med J 62: 132-140, 2016.
111. (*6) Suzuki K, Murakami T, Hu Z, Tamura H, Kuwahara-Arai K, Iba T, **Nagaoka I**
Human antimicrobial cathelicidin peptide LL-37 enhances the LPS uptake by liver sinusoidal endothelial cells without cell activation.
J Immunol 196: 1338-1347, 2016.
112. Suzuki K, **Nagaoka I**
The effect of human host defense peptide LL-37 on endothelial cells.
Juntendo Med J 62: 105-111, 2016.
113. Someya A, Ikegami T, Sakamoto K, **Nagaoka I**
Glucosamine downregulates the IL-1 β -Induced expression of proinflammatory cytokine genes in human synovial MH7A cells by O-GlcNAc modification-dependent and -independent mechanisms.
PLoS One 2016 Oct 24;11(10):e0165158.
114. Iba T, Hamakubo T, **Nagaoka I**, Sato K, Thachil J
Physiological levels of pentraxin 3 and albumin attenuate vascular endothelial cell damage Induced by histone H3 in vitro.
Microcirculation 23: 240-247, 2016.
115. Hu Z, **Nagaoka I**
Modulation of macrophage cell death, pyroptosis by host defense peptide LL-37.
Juntendo Med J 62: 98-104, 2016.
116. **Nagaoka I**
Have host defense peptides been acting in innate immunity since the trilobites of the Cambrian period 540 million years ago?
Juntendo Med J 62: 96-97, 2016.
117. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, Reich J, Kuwahara-Arai K, Iba T, **Nagaoka I**
Antimicrobial cathelicidin peptide LL-37 inhibits the pyroptosis of macrophages and improves the survival of polybacterial septic mice.
Int Immunol 28: 245-253, 2016.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

118. Murakami T, Hu Z, Tamura H, Nagaoka I.
Release mechanism of high mobility group nucleosome binding domain 1 from lipopolysaccharide-stimulated macrophages.
Mol Med Rep. 2016 Apr;13(4):3115-20.
119. Tada H, Shimizu T, Nagaoka I, Takada H.
Vitamin D3 analog maxacalcitol (OCT) induces hCAP-18/LL-37 production in human oral epithelial cells.
Biomed Res. 2016;37(3):199-205.
120. Iba T, Hashiguchi N, Nagaoka I, Tabe Y, Kadota K, Sato K.
Heparins attenuated histone-mediated cytotoxicity in vitro and improved the survival in a rat model of histone-induced organ dysfunction.
Intensive Care Med Exp. 2015 Dec;3(1):36.
121. Hosoda H, Tamura H, Nagaoka I.
Evaluation of the lipopolysaccharide-induced transcription of the human TREM-1 gene in vitamin D3-matured THP-1 macrophage-like cells.
Int J Mol Med. 2015 Nov;36(5):1300-10.
122. Nagura N, Komatsu J, Iwase H, Hosoda H, Ohbayashi O, Nagaoka I, Kaneko K.
Effects of the combination of vitamin K and teriparatide on the bone metabolism in ovariectomized rats
Biomed Rep. 2015 May;3(3):295-300.
123. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, Kuwahara-Arai K, Iba T, Nagaoka I:
Antimicrobial cathelicidin peptide LL-37 inhibits the LPS/ATP-induced pyroptosis of macrophages by dual mechanism.
PLoS ONE 9: e85765, 2014.
124. Ochiai T, Nishimura K, Watanabe T, Kitajima M, Nakatani A, Sato T, Kishine K, Futagawa S, Mashiko S, Nagaoka I.
Mechanism underlying the transient increase of serum iron during FOLFOX/FOLFIRI therapy.
Mol Clin Oncol. 2014 Nov;2(6):968-972.
125. Iba T, Miki T, Hashiguchi N, Tabe Y, Nagaoka I.
Is the neutrophil a 'prima donna' in the procoagulant process during sepsis?

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Crit Care. 2014 Jul 9;18(4):230.

126. Wakabayashi S, Yamaguchi K, Kumakura S, Murakami T, Someya A, Kajiyama Y, Nagaoka I, Inada E.

Effects of anesthesia with sevoflurane and propofol on the cytokine/chemokine production at the airway epithelium during esophagectomy.

Int J Mol Med. 2014 Jul;34(1):137-44.

127. Iba T, Miki T, Hashiguchi N, Tabe Y, Nagaoka I.

Combination of antithrombin and recombinant thrombomodulin modulates neutrophil cell-death and decreases circulating DAMPs levels in endotoxemic rats.

Thromb Res. 2014 Jul;134(1):169-73.

128. Iba T, Miki T, Hashiguchi N, Yamada A, Nagaoka I.

Combination of antithrombin and recombinant thrombomodulin attenuates leukocyte-endothelial interaction and suppresses the increase of intrinsic damage-associated molecular patterns in endotoxemic rats.

J Surg Res. 2014 Apr;187(2):581-6.

(免疫学)

129. (*7) Chiba A, Tamura N, Yoshikiyo K, Murayama G, Kitagaichi M, Yamaji K, Takasaki Y, Miyake S.

Activation status of mucosal-associated invariant T cells reflects disease activity and pathology of systemic lupus erythematosus.

Arthritis Res Ther. 2017 Mar 14;19(1):58. doi: 10.1186/s13075-017-1257-5.

130. Mizuno M, Noto D, Kaga N, Chiba A, Miyake S.

The dual role of short fatty acid chains in the pathogenesis of autoimmune disease models.

PLoS One. 2017 Feb 24;12(2):e0173032.

131. (*8) Ishimori A, Harada N*, Chiba A, Harada S, Matsuno K, Makino F, Ito J, Ohta S, Ono Junya, Atsuta R, Izuhara K, Takahashi K, Miyake S*.

Circulating activated innate lymphoid cells and mucosal-associated invariant T cells are associated with airflow limitation in patients with asthma.

Allergology International.[Epub ahead], 2016. (*corresponding author)

132. (*9) Hayashi E, Chiba A*, Tada k, Haga K, Kitagaichi M, Nakajima S,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- Kusaoui M, Sekiya F, Ogasawara M, Yamaji K, Tamura N, Takasaki Y, **Miyake S***. **Involvement of Mucosal-associated Invariant T cells in Ankylosing Spondylitis.**
Journal of Rheumatology.43(9):1695-1703, 2016. (*corresponding author)
133. Kadowaki A*, **Miyake S***, Saga R, Chiba A, Mochizuki H, Yamamura T*.
Gut environment-induced intraepithelial autoreactive CD4+ T cells suppress central nervous system autoimmunity via LAG-3.
Nature Communications. 7:11639, 2016. (*corresponding author)
134. (*10) Haga K, Chiba A*, Shibuya T, Osada T, Ishikawa D, Kodani T, Nomura O, Watanabe S, **Miyake S***.
MAIT cells are activated and accumulated in the inflamed mucosa of ulcerative colitis.
Journal of Gastroenterology and Hepatology. 31(5):965-72, 2016.
(*corresponding author)
135. Takenaka S-I, Kaieda S, Kawayama T, Matsuoka M, Kaku Y, Kinoshita T, Sakazaki Y, Okamoto M, Tominaga M, Kanasaki K, Chiba A, **Miyake S**, Ida H, Hoshino T.
IL-38: A new factor in rheumatoid arthritis.
Biochemistry and Biophysics Reports. 4:386-391, 2015
136. **Miyake S**, Kim S, Suda W, Oshima K, Nakamura M, Matsuoka T, Chihara N, Tomita A, Sato W, Kim SW, Morita H, Hattori M, Yamamura T.
Dysbiosis in the Gut Microbiota of Patients with Multiple Sclerosis, with a Striking Depletion of Species Belonging to Clostridia XIVa and IV Clusters.
PLoS One. 10(9):e0137429, 2015
137. Kamachi F, Isshiki T, Harada N, Akiba H, **Miyake S**.
ICOS promotes group 2 innate lymphoid cell activation in lungs.
Biochem Biophys Res Commun. 463(4):739-45, 2015
138. Nakamura M, Matsuoka T, Chihara N, **Miyake S**, Sato W, Araki M, Okamoto T, Lin Y, Ogawa M, Murata M, Aranami T, Yamamura T.
Differential effects of fingolimod on B-cell populations in multiple sclerosis.
Mult Scler. 20(10):1371-80,2014
139. Noto D*, Sakuma H*, Takahashi K, Yamada M, Yamamura T, **Miyake S***.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Development of a culture system to induce microglia-like cells from hematopoietic cells.

Neuropathol Appl Neurobiol 40(6):697-713,2014. (*corresponding author)

(脳神経内科)

140. Yamashiro K, Tanaka R, Urabe T, Ueno Y, Yamashiro Y, Nomoto K, Takahashi T, Tsuji H, Asahara T, **Hattori N.**
Gut dysbiosis is associated with metabolism and systemic inflammation in patients with ischemic stroke.
 PLoS One. 2017 Feb 6;12(2):e0171521.
141. (*19) Sato S, Koike M, Funayama M, Ezaki J, Fukuda T, Ueno T, Uchiyama Y, **Hattori N.**
Lysosomal Storage of Subunit c of Mitochondrial ATP Synthase in Brain-Specific Atp13a2-Deficient Mice.
 Am J Pathol. 2016 Dec;186(12):3074-3082.
142. (*20) Kino Y, Washizu C, Kurosawa M, Yamada M, Doi H, Takumi T, Adachi H, Katsuno M, Sobue G, Hicks GG, **Hattori N.**, Shimogori T, Nukina N.
FUS/TLS acts as an aggregation-dependent modifier of polyglutamine disease model mice.
 Sci Rep. 2016 Oct 14;6:35236.
143. (*21) Yamanaka T, Tosaki A, Miyazaki H, Kurosawa M, Koike M, Uchiyama Y, Maity SN, Misawa H, Takahashi R, Shimogori T, **Hattori N.**, Nukina N.
Differential roles of NF- κ B transcription factor in ER chaperone expression and neuronal maintenance in the CNS.
 Sci Rep. 2016 Sep 30;6:34575.
144. (*22) Cossu D, Yokoyama K, Sechi LA, Otsubo S, Tomizawa Y, Motani E, **Hattori N.**
Humoral response against host-mimetic homologous epitopes of Mycobacterium avium subsp. paratuberculosis in Japanese multiple sclerosis patients.
 Sci Rep. 2016 Jun 30;6:29227.
145. (*23) Kuroki T, Tanaka R, Shimada Y, Yamashiro K, Ueno Y, Shimura H, Urabe T, **Hattori N.**
Exendin-4 Inhibits Matrix Metalloproteinase-9 Activation and Reduces

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Infarct Growth After Focal Cerebral Ischemia in Hyperglycemic Mice.

Stroke. 2016 May;47(5):1328-35.

146. (*11) Conedera S, Apaydin H, Li Y, Yoshino H, Ikeda A, Matsushima T, Funayama M, Nishioka K, **Hattori N.**

FBXO7 mutations in Parkinson's disease and multiple system atrophy.

Neurobiol Aging. 2016 Apr;40:192.e1-5.

147. (*24) Ochiishi T, Doi M, Yamasaki K, Hirose K, Kitamura A, Urabe T, **Hattori N**, Kinjo M, Ebihara T, Shimura H.

Development of new fusion proteins for visualizing amyloid- β oligomers in vivo.

Sci Rep. 2016 Mar 16;6:22712.

148. (*12) Yamanaka T, Tosaki A, Kurosawa M, Shimogori T, **Hattori N**, Nukina N.

Genome-wide analyses in neuronal cells reveal that upstream transcription factors regulate lysosomal gene expression.

FEBS J. 2016 Mar;283(6):1077-87.

149. Yamada D, Saiki S, Furuya N, **Ishikawa K**, Imamichi Y, Kambe T, Fujimura T, Ueno T, Koike M, Sumiyoshi K, **Hattori N.**

Ethambutol neutralizes lysosomes and causes lysosomal zinc accumulation.

Biochem Biophys Res Commun. 2016 Feb 26;471(1):109-16.

150. (*25) Kurosawa M, Matsumoto G, Sumikura H, Hatsuta H, Murayama S, Sakurai T, Shimogori T, **Hattori N**, Nukina N.

Serine 403-phosphorylated p62/SQSTM1 immunoreactivity in inclusions of neurodegenerative diseases.

Neurosci Res. 2016 Feb;103:64-70.

151. (*26) Elahi M, Hasan Z, Motoi Y, Matsumoto SE, Ishiguro K, **Hattori N.**

Region-Specific Vulnerability to Oxidative Stress, Neuroinflammation, and Tau Hyperphosphorylation in Experimental Diabetes Mellitus Mice.

J Alzheimers Dis. 2016;51(4):1209-24.

152. **Hattori N.**

Movement disorders: advances in 2015.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Lancet Neurol. 2016 Jan;15(1):8-9.

153. (*27) Elahi M, Motoi Y, Matsumoto SE, Hasan Z, Ishiguro K, **Hattori N.**

Short-term treadmill exercise increased tau insolubility and neuroinflammation in tauopathy model mice.

Neurosci Lett. 2016 Jan 1;610:207-12.

154. (*13) Ogaki K, Koga S, Heckman MG, Fiesel FC, Ando M, Labbé C, Lorenzo-Betancor O, Moussaud-Lamodière EL, Soto-Ortolaza AI, Walton RL, Strongosky AJ, Uitti RJ, McCarthy A, Lynch T, Siuda J, Opala G, Rudzinska M, Krygowska-Wajs A, Barcikowska M, Czyzewski K, Puschmann A, Nishioka K, Funayama M, **Hattori N.** Parisi JE, Petersen RC, Graff-Radford NR, Boeve BF, Springer W, Wszolek ZK, Dickson DW, Ross OA.

Mitochondrial targeting sequence variants of the CHCHD2 gene are a risk for Lewy body disorders.

Neurology. 2015 Dec 8;85(23):2016-25.

155. (*28) Matsumoto SE, Motoi Y, Ishiguro K, Tabira T, Kametani F, Hasegawa M, **Hattori N.**

The twenty-four kDa C-terminal tau fragment increases with aging in tauopathy mice: implications of prion-like properties.

Hum Mol Genet. 2015 Nov 15;24(22):6403-16.

156. (*29) Imai Y, Kobayashi Y, Inoshita T, Meng H, Arano T, Uemura K, Asano T, Yoshimi K, Zhang CL, Matsumoto G, Ohtsuka T, Kageyama R, Kiyonari H, Shioi G, Nukina N, **Hattori N.** Takahashi R.

The Parkinson's Disease-Associated Protein Kinase LRRK2 Modulates Notch Signaling through the Endosomal Pathway.

PLoS Genet. 2015 Sep 10;11(9):e1005503.

157. (*30) Matsumoto G, Shimogori T, **Hattori N.** Nukina N.

TBK1 controls autophagosomal engulfment of polyubiquitinated mitochondria through p62/SQSTM1 phosphorylation.

Hum Mol Genet. 2015 Aug 1;24(15):4429-42.

158. (*31) Vaikath NN, Majbour NK, Paleologou KE, Ardah MT, van Dam E, van de Berg WD, Forrest SL, Parkkinen L, Gai WP, **Hattori N.** Takahashi M, Lee SJ, Mann DM, Imai Y, Halliday GM, Li JY, El-Agnaf OM.

Generation and characterization of novel conformation-specific monoclonal antibodies against tau protein.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

onal antibodies for α -synuclein pathology.

Neurobiol Dis. 2015 Jul;79:81-99.

159. (*32) Fuse A, Furuya N, Kakuta S, Inose A, Sato M, Koike M, Saiki S, **Hattori N.**

VPS29-VPS35 intermediate of retromer is stable and may be involved in the retromer complex assembly process.

FEBS Lett. 2015 Jun 4;589(13):1430-6.

160. (*14) Nishioka K, Oyama G, Yoshino H, Li Y, Matsushima T, Takeuchi C, Mochizuki Y, Mori-Yoshimura M, Murata M, Yamasita C, Nakamura N, Konishi Y, Ohi K, Ichikawa K, Terada T, Obi T, Funayama M, Saiki S, **Hattori N.**

High frequency of beta-propeller protein-associated neurodegeneration (BPAN) among patients with intellectual disability and young-onset parkinsonism.

Neurobiol Aging. 2015 May;36(5):2004.e9-2004.e15.

161. (*33) Nishikawa N, Shimo Y, Wada M, **Hattori N**, Kitazawa S.

Effects of aging and idiopathic Parkinson's disease on tactile temporal order judgment.

PLoS One. 2015 Mar 11;10(3):e0118331.

162. (*34) Ueno Y, Koike M, Shimada Y, Shimura H, Hira K, Tanaka R, Uchiyama Y, **Hattori N**, Urabe T.

L-carnitine enhances axonal plasticity and improves white-matter lesions after chronic hypoperfusion in rat brain.

Cereb Blood Flow Metab. 2015 Mar;35(3):382-91.

163. (*18) Funayama M, Ohe K, Amo T, Furuya N, Yamaguchi J, Saiki S, Li Y, Ogaki K, Ando M, Yoshino H, Tomiyama H, Nishioka K, Hasegawa K, Saiki H, Satake W, Mogushi K, Sasaki R, Kokubo Y, Kuzuhara S, Toda T, Mizuno Y, Uchiyama Y, Ohno K, **Hattori N.**

CHCHD2 mutations in autosomal dominant late-onset Parkinson's disease: a genome-wide linkage and sequencing study.

Lancet Neurol. 2015 Mar;14(3):274-82.

164. (*35) Asano T, Koike M, Sakata S, Takeda Y, Nakagawa T, Hatano T, Ohashi S, Funayama M, Yoshimi K, Asanuma M, Toyokuni S, Mochizuki H, Uchiyama Y, **Hattori N**, Iwai K.

Possible involvement of iron-induced oxidative insults in neurodegeneration.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Neurosci Lett. 2015 Feb 19;588:29-35.

165. (*36) Kurosawa M, Matsumoto G, Kino Y, Okuno M, Kurosawa-Yamada M, Washizu C, Taniguchi H, Nakaso K, Yanagawa T, Warabi E, Shimogori T, Sakurai T, **Hattori N**, Nukina N.
Depletion of p62 reduces nuclear inclusions and paradoxically ameliorates disease phenotypes in Huntington's model mice.
Hum Mol Genet. 2015 Feb 15;24(4):1092-105.
166. (*37) Kino Y, Washizu C, Kurosawa M, Oma Y, **Hattori N**, Ishiura S, Nukina N.
Nuclear localization of MBNL1: splicing-mediated autoregulation and repression of repeat-derived aberrant proteins.
Hum Mol Genet. 2015 Feb 1;24(3):740-56
167. (*38) Shiba-Fukushima K, Arano T, Matsumoto G, Inoshita T, Yoshida S, Ishihama Y, Ryu KY, Nukina N, **Hattori N**, Imai Y.
Phosphorylation of mitochondrial polyubiquitin by PINK1 promotes Parkin mitochondrial tethering.
PLoS Genet. 2014 Dec 4;10(12):e1004861.
168. (*39) Shiba-Fukushima K, Inoshita T, **Hattori N**, Imai Y.
Lysine 63-linked polyubiquitination is dispensable for Parkin-mediated mitophagy.
J Biol Chem. 2014 Nov 28;289(48):33131-6.
169. (*40) Miyazaki H, Oyama F, Inoue R, Aosaki T, Abe T, Kiyonari H, Kino Y, Kurosawa M, Shimizu J, Ogiwara I, Yamakawa K, Koshimizu Y, Fujiyama F, Kaneko T, Shimizu H, Nagatomo K, Yamada K, Shimogori T, **Hattori N**, Miura M, Nukina N.
Singular localization of sodium channel β 4 subunit in unmyelinated fibres and its role in the striatum.
Nat Commun. 2014 Nov 21;5:5525.
170. (*15) Hatano T, Funayama M, Kubo S, Mata IF, Oji Y, Mori A, Zabetian CP, Waldherr SM, Yoshino H, Oyama G, Shimo Y, Fujimoto K, Oshima H, Kunii Y, Yabe H, Mizuno Y, **Hattori N**.
Identification of a Japanese family with LRRK2 p.R1441G-related Parkinson's disease.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Neurobiol Aging. 2014 Nov;35(11):2656.e17-23.

171. (*41) Maraschi A, Ciammola A, Folci A, Sassone F, Ronzitti G, Capelletti G, Silani V, Sato S, **Hattori N**, Mazzanti M, Chierigatti E, Mulle C, Passafaro M, Sassone J.

Parkin regulates kainate receptors by interacting with the GluK2 sub unit.

Nat Commun. 2014 Oct 15;5:5182.

172. (*42) Amo T, Saiki S, Sawayama T, Sato S, **Hattori N**.

Detailed analysis of mitochondrial respiratory chain defects caused by loss of PINK1.

Neurosci Lett. 2014 Sep 19;580:37-40.

173. (*16) Yamashita C, Tomiyama H, Funayama M, Inamizu S, Ando M, Li Y, Yoshino H, Araki T, Ichikawa T, Ehara Y, Ishikawa K, Mizusawa H, **Hattori N**.

Evaluation of polyglutamine repeats in autosomal dominant Parkinson's disease.

Neurobiol Aging. 2014 Jul;35(7):1779.e17-21.

174. (*43) Fujimaki T, Saiki S, Tashiro E, Yamada D, Kitagawa M, **Hattori N**, Imoto M.

Identification of licopyranocoumarin and glycyrrulol from herbal medicines as neuroprotective compounds for Parkinson's disease.

PLoS One. 2014 Jun 24;9(6):e100395.

175. (*44) Shiba-Fukushima K, Inoshita T, **Hattori N**, Imai Y.

PINK1-mediated phosphorylation of Parkin boosts Parkin activity in Drosophila.

PLoS Genet. 2014 Jun 5;10(6):e1004391.

176. (*17) Nishioka K, Funayama M, Vilariño-Güell C, Ogaki K, Li Y, Sasaki R, Kokubo Y, Kuzuhara S, Kachergus JM, Cobb SA, Takahashi H, Mizuno Y, Farrer MJ, Ross OA, **Hattori N**.

EIF4G1 gene mutations are not a common cause of Parkinson's disease in the Japanese population.

Parkinsonism Relat Disord. 2014 Jun;20(6):659-61.

(神経生物学)

177. Ishimoto, T., Ninomiya, K., Inoue, R., **Koike, M.**, Uchiyama, Y., Mori, H.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Mice lacking BCAS1, a novel myelin-associated protein, display schizophrenia-like abnormal behaviors, and up-regulation of inflammatory genes in the brain.

Glia 65(5):727-39, 2017.

178. **Koike, M.**, Kawahara, A., Shibata, M., Uchiyama, Y.
Induction of autophagy in the hippocampus after hypoxic-ischemic injury to neonatal rats.
Arch. Histol. Cytol. 77(1):13-23, 2017.
179. Tsuboyama, K., Koyama-Honda, I., Sakamaki, Y., **Koike, M.**, Morishita, H., Mizushima, N.
The ATG conjugation systems are important for degradation of the inner autophagosomal membrane.
Science 354(6315):1036-41, 2016.
180. Yamanaka T, Tosaki A, Miyazaki H, Kurosawa M, **Koike M**, Uchiyama Y, Maity SN, Misawa H, Takahashi R, Shimogori T, Hattori N, Nukina N.
Differential roles of NF-Y transcription factor in ER chaperone expression and neuronal maintenance in the CNS.
Sci Rep. 2016 Sep 30;6:34575.
181. (*45) Sato S, **Koike M**, Funayama M, Ezaki J, Fukuda T, Ueno T, Uchiyama Y, Hattori N.
Lysosomal Storage of Subunit c of Mitochondrial ATP Synthase in Brain-Specific Atp13a2-Deficient Mice.
Am J Pathol. 2016 Dec;186(12):3074-3082.
182. Hadano, S., Mitsui, S., Pan, L., Otomo, A., Kubo, M., Sato, K., Ono, S., Onodera, W., Abe, K., **Koike, M.**, Uchiyama, Y., Aoki, M., Warabi, E., Yamamoto, M., Ishii, T., Yanagawa, T., Shang, HF., Yoshii, F.
Functional links between SQSTM1 and ALS2 in the pathogenesis of ALS: Cumulative impact on the protection against mutant SOD1-mediated motor dysfunction in mice.
Hum. Mol. Genet. 25(15):3321-40, 2016
183. Sunabori, T., **Koike, M.**, Asari, A., Oonuki, Y., Uchiyama, Y.
Suppression of ischemia-induced hippocampal pyramidal neuron death by hyaluronan tetrasaccharide through inhibition of Toll-like receptor 2 signaling pathway.
Am. J. Pathol. 186(8):2143-51, 2016.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

184. Shibata, M., **Koike, M.**, Kusumi, S., Sato, N., Uchiyama, Y.
A specific tripeptidyl substrate for tripeptidyl peptidase activity is effectively hydrolyzed by alanyl aminopeptidase/aminopeptidase N/CD13 in the rat kidney.
Arch Histol Cytol. 76(1):1-8, 2016.
185. Sekine S., Yao, A., Hattori, K., Sugawara, S., Naguro, I., **Koike, M.**, Uchiyama, Y., Takeda, K., Ichijo, H.
PGAM5 deficiency confers resistance against metabolic stress in mice.
EBioMedicine 5:82-92, 2016.
186. Yamada D, Saiki S, Furuya N, Ishikawa K, Imamichi Y, Kambe T, Fujimura T, Ueno T, Koike M, Sumiyoshi K, Hattori N.
Ethambutol neutralizes lysosomes and causes lysosomal zinc accumulation.
Biochem Biophys Res Commun. 2016 Feb 26;471(1):109-16.
187. Yamamoto-Nonaka K., **Koike, M.**, Asanuma, K., Akiba-Takagi, M., Trujo, JA., Seki, T., Hidaka, T., Ichimura, K., Sakai, T., Tada, N., Ueno, T., Uchiyama, Y., Tomino, Y.
Cathepsin D in Podocytes Is Important in the Pathogenesis of Proteinuria and CKD.
J. Am. Soc. Nephrol. 27(9):2685-700, 2016.
188. Xie, C., Ginet, V., Sun, Y., **Koike, M.**, Zhou, K., Li, T., Li, H., Li, Q., Wang, X., Uchiyama, Y., Truttmann, AC., Kroemer, G., Puyal, J., Blomgren, K., Zhu, C.
Neuroprotection by selective neuronal deletion of autophagy-related gene ATG7 in neonatal brain injury.
Autophagy 12(2):410-23, 2016.
189. Fuse A, Furuya N, Kakuta S, Inose A, Sato M, **Koike M**, Saiki S, Hattori N.
VPS29-VPS35 intermediate of retromer is stable and may be involved in the retromer complex assembly process.
FEBS Lett. 2015 Jun 4;589(13):1430-6.
190. Rinchai, D., Riyapa, D., Buddhisa, S., Utispan, K., Titball, R.W., Stevens, P.M., Stevens, J.M., Ogawa, M., Tanida, I., **Koike, M.**, Uchiyama, Y., Ato, M.,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Lertmemongkolchai, G. Macroautophagy is essential for killing of *Burkholderia pseudomallei* in human neutrophils.

Autophagy 11(5):748-55, 2015.

191. Nanao, T.#, **Koike, M.#***, Yamaguchi, J., Sasaki, M., Uchiyama, Y.
Cellular localization and tissue distribution of endogenous DFCP1 protein.
 Biomed. Res. 36(2):121-33, 2015. (#These authors contributed equally to this work) (*Correspondence author)
192. Uemura, N., **Koike, M.**, Asai, K., Kinoshita, M., Fujiwara-Ishikawa, T., Matsui, H., Naruse, K., Sakamoto, N., Uchiyama, Y., Todo, T., Takeda S.I., Yamakado, H., Takahashi, R.
Viable neuronopathic Gaucher disease model in medaka (*Oryzias latipes*) displays axonal accumulation of alpha-synuclein.
 Plos Genet. 11(4):e1005065, 2015.
193. Nori, S., Okada, Y., Nishimura, S., Sasaki, T., Itakura, G., Kobayashi, Y., Renault-Mihara, F., Shimizu A., Koya, I., Yoshida, R., Kudoh, J., **Koike, M.**, Uchiyama, Y., Ikeda, E., Toyama, Y., Nakamura, M., Okano, H.
Long-term safety issues of iPSC-based cell therapy in a spinal cord injury model: oncogenic transformation with epithelial-mesenchymal transition.
 Stem Cell Reports. 2015 Mar 10;4(3):360-73.
194. Asano, T.*, **Koike, M.***, Sakata, S., Takeda, Y., Nakagawa, T., Hatanoto, T., Ohashi, S., Funayama, M., Yoshimi, K., Asanuma, M., Toyokuni, S., Mochizuki, S., Uchiyama, Y., Hattori, N., Iwai, K.
Iron induces mitochondrial damage that recruits parkin.
 Neurosci. Lett. 588:29-35, 2015. (*These authors contributed equally to this work)
195. Ueno, Y., **Koike, M.**, Shimada, Y., Shimura, H., Uchiyama, Y., Hattori, N., Urabe, T.
L-carnitine enhances axonal plasticity and improves white-matter lesions after chronic hypoperfusion in rat brain.
 J. Cereb. Blood Flow Metab. 35(3):382-91, 2015.
196. Ichimura, K., Miyazaki, N., Sadayama, S., Murata, K., **Koike, M.**, Nakamura, K., Ohta, K., Sakai, T.
Three-dimensional architecture of podocytes revealed by block-face scanning electron microscopy.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Sci Rep. 2015 Mar 11;5:8993.

197. Shigihara N, Fukunaka A, Hara A, Komiya K, Honda A, Uchida T, Abe H, Toyofuku Y, Tamaki M, Ogihara T, Miyatsuka T, Hiddinga HJ, Sakagashira S, **Koike M**, Uchiyama Y, Yoshimori T, Eberhardt NL, Fujitani Y, Watada H.
Human IAPP-induced pancreatic β cell toxicity and its regulation by autophagy.
J Clin Invest. 2014 Aug;124(8):3634-44.

198. Bartolomé, A., Kimura-Koyanagi, M., Asahara, S., Guillén, C., Teruyama, K., Inoue, H., Shimizu, S., Kanno, A., García-Aguilar, A., **Koike, M.**, Uchiyama, Y., Benito, M., Noda, T., Kido, Y.
Pancreatic β cell failure mediated by mTORC1 hyperactivity and autophagic impairment.
Diabetes 63(9):2996-3008, 2014.

(代謝内分泌内科)

199. Ogihara T, Mita T, Osonoi Y, Osonoi T, Saito M, Tamasawa A, Nakayama S, Someya Y, Ishida H, Goshō M, Kanazawa A, **Watada H**.
Relationships between lifestyle patterns and cardio-renal-metabolic parameters in patients with type 2 diabetes mellitus: A cross-sectional study.
PLoS One. 2017 Mar 8;12(3):e0173540.
200. Yamamoto Y, **Miyatsuka T**, Sasaki S, Miyashita K, Kubo F, Shimo N, Takebe S, **Watada H**, Kaneto H, Matsuoka TA, Shimomura I.
Preserving expression of Pdx1 improves β -cell failure in diabetic mice.
Biochem Biophys Res Commun. 2017 Jan 29;483(1):418-424.
201. Yamaguchi H, Arakawa S, Kanaseki T, **Miyatsuka T**, Fujitani Y, **Watada H**, Tsujimoto Y, Shimizu S.
Golgi membrane-associated degradation pathway in yeast and mammals.
EMBO J. 2016 Sep 15;35(18):1991-2007.
202. Ikeda S, Tamura Y, Kakehi S, Sanada H, Kawamori R, **Watada H**.
Exercise-induced increase in IL-6 level enhances GLUT4 expression and insulin sensitivity in mouse skeletal muscle.
Biochem Biophys Res Commun. 2016 May 13;473(4):947-52.
203. Kubo F, **Miyatsuka T**, Sasaki S, Takahara M, Yamamoto Y, Shimo N,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Watada H, Kaneto H, Gannon M, Matsuoka TA, Shimomura I.

Sustained expression of GLP-1 receptor differentially modulates β -cell functions in diabetic and nondiabetic mice.

Biochem Biophys Res Commun. 2016 Feb 26;471(1):68-74.

204. Imamura M, Takahashi A, Yamauchi T, Hara K, Yasuda K, Grarup N, Zhao W, Wang X, Huerta-Chagoya A, Hu C, Moon S, Long J, Kwak SH, Rasheed A, Saxena R, Ma RC, Okada Y, Iwata M, Hosoe J, Shojima N, Iwasaki M, Fujita H, Suzuki K, Danesh J, Jørgensen T, Jørgensen ME, Witte DR, Brandslund I, Christensen C, Hansen T, Mercader JM, Flannick J, Moreno-Macías H, Burt NP, Zhang R, Kim YJ, Zheng W, Singh JR, Tam CH, Hirose H, Maegawa H, Ito C, Kaku K, **Watada H**, Tanaka Y, Tobe K, Kawamori R, Kubo M, Cho YS, Chan JC, Sanghera D, Frossard P, Park KS, Shu XO, Kim BJ, Florez JC, Tusié-Luna T, Jia W, Tai ES, Pedersen O, Saleheen D, Maeda S, Kadowaki T.

Genome-wide association studies in the Japanese population identify seven novel loci for type 2 diabetes.

Nat Commun. 2016 Jan 28;7:10531.

205. Uchida T, Suzuki R, Kasai T, Onose H, Komiya K, Goto H, Takeno K, Ishii S, Sato J, Honda A, Kawano Y, Himuro M, Yamada E, Yamada T, **Watada H**.

Cutoff value of thyroid uptake of (99m)Tc-pertechnetate to discriminate between Graves' disease and painless thyroiditis: a single center retrospective study.

Endocr J. 2016;63(2):143-9.

206. (*46) Sasaki S, **Miyatsuka T**, Matsuoka TA, Takahara M, Yamamoto Y, Yasuda T, Kaneto H, Fujitani Y, German MS, Akiyama H, **Watada H**, Shimomura I.

Activation of GLP-1 and gastrin signalling induces in vivo reprogramming of pancreatic exocrine cells into beta cells in mice.

Diabetologia. 2015 Nov;58(11):2582-91.

207. Iida H, Ogihara T, Min MK, Hara A, Kim YG, Fujimaki K, Tamaki M, Fujitani Y, Kim H, **Watada H**.

Expression mechanism of tryptophan hydroxylase 1 in mouse islets during pregnancy.

J Mol Endocrinol. 2015 Aug;55(1):41-53.

208. Fujimaki K, Ogihara T, Morris DL, Oda H, Iida H, Fujitani Y, Mirmira RG, Evans-Molina C, **Watada H**.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

SET7/9 Enzyme Regulates Cytokine-induced Expression of Inducible Nitric-oxide Synthase through Methylation of Lysine 4 at Histone 3 in the Islet β Cell.

J Biol Chem. 2015 Jul 3;290(27):16607-18.

209. Matsuba R, Sakai K, Imamura M, Tanaka Y, Iwata M, Hirose H, Kaku K, Maegawa H, **Watada H**, Tobe K, Kashiwagi A, Kawamori R, Maeda S.
Replication Study in a Japanese Population to Evaluate the Association between 10 SNP Loci, Identified in European Genome-Wide Association Studies, and Type 2 Diabetes.
 PLoS One. 2015 May 7;10(5):e0126363.
210. **Watada H**, Fujitani Y.
Minireview: Autophagy in pancreatic β -cells and its implication in diabetes.
 Mol Endocrinol. 2015 Mar;29(3):338-48.
211. Nakajima K, Mita T, Osonoi Y, Azuma K, Takasu T, Fujitani Y, **Watada H**.
Effect of Repetitive Glucose Spike and Hypoglycaemia on Atherosclerosis and Death Rate in Apo E-Deficient Mice.
 Int J Endocrinol. 2015;2015:406394.
212. Yamamoto E, Uchida T, Abe H, Taka H, Fujimura T, Komiya K, Hara A, Ogihara T, Fujitani Y, Ueno T, Takeda S, **Watada H**.
Increased expression of ERp57/GRP58 is protective against pancreatic beta cell death caused by autophagic failure.
 Biochem Biophys Res Commun. 2014 Oct 10;453(1):19-24.
213. **Miyatsuka T**, Matsuoka TA, Sasaki S, Kubo F, Shimomura I, **Watada H**, German MS, Hara M.
Chronological analysis with fluorescent timer reveals unique features of newly generated β -cells.
 Diabetes. 2014 Oct;63(10):3388-93.
214. Shigihara N, Fukunaka A, Hara A, Komiya K, Honda A, Uchida T, Abe H, Toyofuku Y, Tamaki M, Ogihara T, **Miyatsuka T**, Hiddinga HJ, Sakagashira S, Koike M, Uchiyama Y, Yoshimori T, Eberhardt NL, Fujitani Y, **Watada H**.
Human IAPP-induced pancreatic β cell toxicity and its regulation by autophagy.
 J Clin Invest. 2014 Aug;124(8):3634-44.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

215. Yasunari E, Mita T, Osonoi Y, Azuma K, Goto H, Ohmura C, Kanazawa A, Kawamori R, Fujitani Y, **Watada H.**
Repetitive hypoglycemia increases circulating adrenaline level with resultant worsening of intimal thickening after vascular injury in male Goto-Kakizaki rat carotid artery.
 Endocrinology. 2014 Jun;155(6):2244-53.

(皮膚科)

216. Ochi H, Takai T, Shimura S, Maruyama N, Nishioka I, Kamijo S, Iida H, Nakae S, Ogawa H, Okumura K, **Ikeda S.**
Skin Treatment with Detergent Promotes Protease Allergen-Dependent Epicutaneous Sensitization in a Manner Different from Tape Stripping in Mice.
 J Invest Dermatol. 2017 Mar 1.
217. Amagai M, **Ikeda S.** Hashimoto T, et al.
Bullous Pemphigoid Study Group: A randomized double-blind trial of intravenous immunoglobulin for bullous pemphigoid.
 J Dermatol Sci 85: 77-84, 2017
218. Kiatsurayanon C, Niyonsaba F, Chieosilapatham P, Okumura K, **Ikeda S.** Ogawa H:
Angiogenic peptide (AG)-30/5C activates human keratinocytes to produce cytokines/chemokines and to migrate and proliferate via MrgX receptors.
 J Dermatol Sci 83: 190-199, 2016
219. Shimura S, Takai T, Iida H, Maruyama N, Ochi H, Kamijo S, Nishioka I, Hara M, Matsuda A, Saito H, Nakae S, Ogawa H, Okumura K, **Ikeda S.**
Epicutaneous Allergic Sensitization by Cooperation between Allergen Protease Activity and Mechanical Skin Barrier Damage in Mice.
 J Invest Dermatol 136: 1408-1417, 2016
220. Kamijo S, Suzuki M, Hara M, Shimura S, Ochi H, Maruyama N, Matsuda A, Saito H, Nakae S, Suto H, Ichikawa S, **Ikeda S.** Ogawa H, Okumura K, Takai T
Subcutaneous Allergic Sensitization to Protease Allergen Is Dependent on Mast Cells but Not IL-33: Distinct Mechanisms between Subcutaneous and Intranasal Routes.
 J Immunol 196: 3559-3569, 2016

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

221. Kamijo M, Wada A, Mineki R, Sakanishi T, **Ikeda S**.
Prostaglandin E receptor 4 inhibition restores UVB-induced downregulation of ATP2A2/SERCA2 in cultured normal human keratinocytes.
J Dermatol Sci. 2016 Jan;81(1):69-71.
222. Yoshihara N, Ueno T, Takagi A, Oliva Trejo JA, Haruna K, Suga Y, Komatsu M, Tanaka K, **Ikeda S**
The significant role of autophagy in the granular layer in normal skin differentiation and hair growth.
Arch Dermatol Res 307: 159-169, 2016
223. Tsutsui-Takeuchi M, Ushio H, Fukuda M, Yamada T, Niyonsaba F, Okumura K, Ogawa H, **Ikeda S**
Roles of retinoic acid-inducible gene-I-like receptors (RLRs), Toll-like receptor (TLR) 3 and 2'-5' oligoadenylate synthetase as viral recognition receptors on human mast cells in response to viral infection.
Immunol Res 61: 240-249, 2015
224. Hasegawa T, **Ikeda S**
Adipose-derived stromal/stem cells as potential source of skin regeneration.
Stem Cell and Translational Investigation 2015; 2: e787
225. (*47) Hasegawa T, Sakamoto A, Wada A, Fukai T, Iida H, **Ikeda S**.
Keratinocyte progenitor cells reside in human subcutaneous adipose tissue.
PLoS One. 2015 Feb 25;10(2):e0118402.
226. Arima K, Ohta S, Takagi A, Shiraishi H, msuoka M, Ontsuka K, Suto H, Suzuki S, Yamamoto K, Ogawa M, Simmons O, Yamaguchi Y, Toda S, Aihara M, Consway SJ, **Ikeda S**, Izuhara K
Periostin contributes to epidermal hyperplasia in psoriasis common to atopic dermatitis.
Allergol Int 64: 41-48, 2015
227. Smithrithee R, Niyonsaba F, Kiatsurayanon C, Ushio H, **Ikeda S**, Okumura K, Ogawa H
Human β -defensin-3 increases the expression of interleukin-37 through CCR6 in human keratinocytes.
J Dermatol Sci 77: 46-53, 2016
228. Ishii S, Hasegawa T, Hirasawa Y, Tsunemi Y, Kawashima M, **Ikeda**

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

S.**Acute generalized exanthematous pustulosis induced by oral prednisolone.**

J Dermatol. 2014 Dec;41(12):1135-6

229. Nakahara T, Takagi A, Yamagami J, Kamiya K, Aoyama Y, Iwatsuki K, **Ikeda S.**

High anti-desmoglein 3 antibody ELISA index and negative indirect immunofluorescence result in a patient with pemphigus vulgaris in remission: evaluation of the antibody profile by newly developed methods.

JAMA Dermatol. 2014 Dec;150(12):1327-30.

230. Wakabayashi M, Hasegawa T, Yamaguchi T, Funakusi N, Suto H, Ueki R, Kobayashi H, Ogawa H, **Ikeda S**

Yokukansan, a traditional Japanese medicine, adjusts glutamate signaling in cultured keratinocytes.

Biomed Res Int 2014: 364092, 2014

231. Yoshihara N, Nakano H, Sawamura D, **Ikeda S**

Novel missense mutation of COL7A1 in a recessive dystrophic epidermolysis bullosa patient with mild clinical phenotype.

J Dermatol 41: 939-940, 2014

232. Mabuchi T, Ota T, Manabe Y, Ikoma N, Ozawa A, Terui T, **Ikeda S**, Inoko H, Oka A.

HLA-C*12:02 is a susceptibility factor in late-onset type of psoriasis in Japanese.

J Dermatol. 2014 Aug;41(8):697-704.

233. Kiatsurayanon C, Niyonsaba F, Smithrithee R, Akiyama T, Ushio H, Hara M, Okumura K, **Ikeda S**, Ogawa H.

Host defense (Antimicrobial) peptide, human β -defensin-3, improves the function of the epithelial tight-junction barrier in human keratinocytes.

J Invest Dermatol. 2014 Aug;134(8):2163-73.

234. Iida H, Takai T, Hirasawa Y, Kamijo S, Shimura S, Ochi H, Nishioka I, Maruyama N, Ogawa H, Okumura K, **Ikeda S.**

Epicutaneous administration of papain induces IgE and IgG responses in a cysteine protease activity-dependent manner.

Allergol Int. 2014 Jun;63(2):219-26.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

235. Hiruma M, Cho O, Hiruma M, Kurakado S, Sugita T, **Ikeda S.**
Genotype analyses of human commensal scalp fungi, *Malassezia globosa*, and *Malassezia restricta* on the scalps of patients with dandruff and healthy subjects.
Mycopathologia. 2014 Jun;177(5-6):263-9.

236. Yoshihara N, Takagi A, Ueno T, **Ikeda S.**
Inverse correlation between microtubule-associated protein 1A/1B-light chain 3 and p62/sequestosome-1 expression in the progression of cutaneous squamous cell carcinoma.
J Dermatol. 2014 Apr;41(4):311-5.

(生化学第1)

237. Luo L, Tanaka R, Kanazawa S, Lu F, Hayashi A, **Yokomizo T,** Mizuno H.
A synthetic leukotriene B4 receptor type 2 agonist accelerates the cutaneous wound healing process in diabetic rats by indirect stimulation of fibroblasts and direct stimulation of keratinocytes.
J. Diabetes Complications. 2017 Jan;31(1):13-20.

238. Ichiki T, Koga T*, **Yokomizo T.**
Receptor for Advanced Glycation End Products Regulates Leukotriene B4 Receptor 1 Signaling.
DNA Cell Biol. 2016 Dec;35(12):747-50. (*corresponding author)

239. Shigematsu M, Koga T, Ishimori A, Saeki K, Ishii Y, Taketomi Y, Ohba M, Jo-Watanabe A, Okuno T, Harada N, Harayama T, Shindou H, Li JD, Murakami M, Hoka S, **Yokomizo T.**
Leukotriene B4 receptor type 2 protects against pneumolysin-dependent acute lung injury.
Sci Rep. 2016 Oct 5;6:34560.

240. Kojo K, Ito Y, Eshima K, Nishizawa N, Ohkubo H, **Yokomizo T,** Shimizu T, Watanabe M, Majima M.
BLT1 signalling protects the liver against acetaminophen hepatotoxicity by preventing excessive accumulation of hepatic neutrophils.
Sci Rep. 2016 Jul 11;6:29650.

241. Chiba T, Nakahara T, Hashimoto-Hachiya A, **Yokomizo T,** Uchi H, Furue M.
The leukotriene B4 receptor BLT2 protects barrier function via actin

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

polymerization with phosphorylation of myosin phosphatase target subunit 1 in human keratinocytes.

Exp Dermatol. 2016 Jul;25(7):532-6.

242. Ichiki T, Koga T, Okuno T, Saeki K, Yamamoto Y, Yamamoto H, Sakaguchi M, Yokomizo T.

Modulation of leukotriene B4 receptor 1 signaling by receptor for advanced glycation end products (RAGE).

FASEB J. 2016 May;30(5):1811-22.

243. Oba J, Nakahara T, Hashimoto-Hachiya A, Liu M, Abe T, Hagihara A, Yokomizo T, Furue M.

CD10-Equipped Melanoma Cells Acquire Highly Potent Tumorigenic Activity: A Plausible Explanation of Their Significance for a Poor Prognosis.

PLoS One. 2016 Feb 16;11(2):e0149285.

244. Ishii Y, Saeki K, Liu M, Sasaki F, Koga T, Kitajima K, Meno C, Okuno T, Yokomizo T.

Leukotriene B4 receptor type 2 (BLT2) enhances skin barrier function by regulating tight junction proteins.

FASEB J. 2016 Feb;30(2):933-47.

245. Kubota S, Watanabe M, Shirato M, Okuno T, Higashimoto I, Machida K, Yokomizo T, Inoue H.

An inhaled phosphodiesterase 4 inhibitor E6005 suppresses pulmonary inflammation in mice.

Eur J Pharmacol. 2015 Dec 5;768:41-8.

246. Asahara M, Ito N, Yokomizo T, Nakamura M, Shimizu T, Yamada Y.

The absence of the leukotriene B4 receptor BLT1 attenuates peripheral inflammation and spinal nociceptive processing following intraplantar formalin injury.

Mol Pain. 2015 Mar 12;11:11.

247. Sawada Y, Honda T, Hanakawa S, Nakamizo S, Murata T, Ueharaguchi-Tanada Y, Ono S, Amano W, Nakajima S, Egawa G, Tanizaki H, Otsuka A, Kitoh A, Dainichi T, Ogawa N, Kobayashi Y, Yokomizo T, Arita M, Nakamura M, Miyachi Y, Kabashima K.

Resolvin E1 inhibits dendritic cell migration in the skin and attenuates contact hypersensitivity responses.

J Exp Med. 2015 Oct 19;212(11):1921-30.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

248. Okuno T, Ishitani T, **Yokomizo T.**
Biochemical characterization of three BLT receptors in zebrafish.
 PLoS One. 2015 Mar 4;10(3):e0117888.
249. Zandi S, Nakao S, Chun K H, Fiorina P, Sun D, Arita R, Zhao M, Kim E, Schueller O, Campbell S, Taher M, Melhorn M I, Schering A, Gatti F, Tezza S, Xie F, Vergani A, Yoshida S, Ishikawa K, Yamaguchi M, Sasaki F, Schmidt-Ullrich R, Hata Y, Enaida H, Yuzawa M, **Yokomizo T.** Kim Y B, Sweetnam P, Ishibashi T, Hafezi-Moghadam A.
ROCK-Isoform-Specific Polarization of Macrophages Associated with Age-Related Macular Degeneration.
 Cell reports. 10, 1173-1186, 2015
250. **Yokomizo T.**
Two distinct leukotriene B4 receptors, BLT1 and BLT2.
 J Biochem. 2015 Feb;157(2):65-71.
251. Liu M, **Yokomizo T.**
The role of leukotrienes in allergic diseases.
 Allergol Int. 2015 Jan;64(1):17-26.
252. Obinata H, Gutkind S, Stitham J, Okuno T, **Yokomizo T.** Hwa J, Hla T.
Individual variation of human S1P₁ coding sequence leads to heterogeneity in receptor function and drug interactions.
 J Lipid Res. 2014 Dec;55(12):2665-75.
253. Sato Y, Hara H, Okuno T, Ozaki N, Suzuki S, **Yokomizo T.** Kaisho T, Yoshida H.
IL-27 affects helper T cell responses via regulation of PGE2 production by macrophages.
 Biochem Biophys Res Commun. 451, 215-221, 2014
254. Dugu L, Nakahara T, Wu Z, Uchi H, Liu M, Hirano K, **Yokomizo T.** Furue M.
Neuronatin is related to keratinocyte differentiation by up-regulating involucrin. J Dermatol Sci. 73, 225-231, 2014
255. Liu M, Saeki K, Matsunobu T, Okuno T, Koga T, Sugimoto Y, Yokoyama C, Nakamizo S, Kabashima K, Narumiya S, Shimizu T, **Yokomizo T.**
12-hydroxyheptadecatrienoic acid promotes epidermal wound healing by accelerating keratinocyte migration via the BLT2 receptor.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

J Exp Med. 211, 1063-1078, 2014

(和文)

(ゲノム・再生医療センター)

1. 赤松 和土: ヒト多能性幹細胞から脳・脊髄の任意領域のニューロンへの誘導技術: 医学のあゆみ 259: 1148-1149, 2016.12.10
2. 赤松 和土: iPS細胞を用いた神経・精神疾患の研究: 分子精神医学 16: 227-233, 2016
3. 赤松 和土: 疾患特異的 iPS細胞を用いた神経疾患研究: 実験医学 34: 524-233, 2016
4. 石川景一、服部信孝、赤松和土: 疾患モデル細胞, iPS細胞を用いた毒性評価と創薬研究, iPS細胞を用いたパーキンソン病の病態解析: 日本臨牀 2015年6月増刊号
5. 赤松 和土: 体細胞からの神経系細胞の直接誘導: 日本臨牀 2015年6月増刊号
6. 赤松 和土: 線維芽細胞から神経幹細胞への直接誘導: 細胞工学別冊『ダイレクトリプログラミング』2015

(腎臓内科)

7. 鈴木祐介、富野康日己: 特集 腎臓学この一年の進歩 2013: 腎炎・ネフローゼ症候群」日本腎臓学会誌: 56; 14-21, 2014

(臨床検査医学)

8. 渡部俊之、平山 哲、三井田孝、根間敏郎、武城英明: トリグリセライド(TG)の代謝と測定法の問題点. 臨床化学 46: 127-132, 2017.
9. 三井田孝: LDL-Cとnon-HDL-Cの利点と限界. 医学のあゆみ 260: 991-992, 2017.
10. 三井田孝: 食後トリグリセリド値の診断基準は存在するか? 日本医事新報 4832: 61-62, 1216.
11. 三井田孝: non HDL-C/レムナント. 動脈硬化予防 1: 92-93, 2016.
12. 平山安希子、三井田孝: 検査 Q&A「高 HDL-C血症は、どのように考えれば良いでしょうか?」臨床検査 60: 1600-1604, 2016.
13. 三井田孝: アポリポ蛋白 E(アポ E)の検査の仕組みは? [phenotype と genotype の違い]. 日本医事新報 4807: 61, 2016.
14. 三井田孝: 脂質異常症と動脈硬化. 臨床と研究 93: 31-36, 2016.
15. 三井田孝: TGの測定について. メディカルビューポイント 37: 5, 2016.
16. 三井田孝: 食事時間と検査値について. ラボ 444: 14, 2016.
17. 三井田孝: 脂質検査. レジデント 9: 54-61, 2016.
18. 三井田孝、上野 剛: 「アミラーゼ」と「ストレス」の深い関係. Medical Technology 43: 186-192, 2015.
19. 中川央充、三井田孝: トリグリセライド もと暗し. Medical Technology 43: 390-397, 2015.
20. 上野 剛、三井田孝: トランスアミナーゼとビタミンパワー. Medical Technology 43: 627-635, 2015.
21. 三井田孝、上野 剛: 悪玉が悪玉にだまされる: LDL-C. Medical Technology 43: 878-885, 2015.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

22. 中川央充、三井田孝: ビリルビンは縁の下の力持ち！ Medical Technolog 43: 1101-1109, 2015.
23. 上野 剛、平山安希子、三井田孝: ケトン体の2つの顔. Medical Technology 43: 1323-1331, 2015.
24. 平山 哲、三井田孝: 総コレステロール、LDL コレステロール、HDL コレステロール. Medicina 52: 262-264, 2015.
25. 三井田孝: TG(トリグリセライド). Medicina 52: 265-267, 2015.
26. 三井田孝: 脂質異常症治療薬. 医薬ジャーナル増刊号(新薬展望 2015)51(S-1): 256-261, 2015.
27. 三井田孝: HDL-C 増加薬の現状. 血管医学 16: 29-35, 2015.
28. 三井田孝、平山安希子: 今日の新しい臨床検査—選び方・使い方—「脂質異常症」. 日本医事新報 4772: 38-43, 2015.
29. 三井田孝: 急性冠症候群では入院後すぐに脂質検査を. Medical Practice 31: 670, 2014.
30. 平山 哲、三井田孝: 動脈硬化の新たなバイオマーカーを探る. Vascular Medicine 10: 10-15, 2014.
31. 三井田孝: 中性脂肪の検査について. ラボ 424: 8, 2014.
32. 三井田孝: 平山 哲. 亜分画からみた HDL 機能. The Lipids 25: 225-231, 2014.
33. 三井田孝: non HDL-C. Current Therapy 32: 225-231, 2014.
34. 三井田孝: バイオマーカーとしての脂質・リポ蛋白関連検査, Lab Clin Pract 32: 43-47, 2014.
35. 三井田孝: 血清分離剤入り採血管を2回以上度遠心してはいけない理由は？ Medical Technology 42: 1256-1257, 2014.

(循環器内科)

36. 福田健太郎、岩田 洋、代田浩之, 急性冠症候群の検査・診断, 日本臨床 74 巻増刊号 6(通巻 1104 号) (2016) pp207
37. 内藤 亮、代田 浩之, 疾病の回復を促進する薬 循環器系に作用する薬(1), 放送大学
38. Dohi T, Daida H. JAPAN-ACS (Japan Assessment of Pitavastatin and Atorvastatin in Acute Coronary Syndrome)., " ,Nihon Rinsho. 2016 Jun 20;74 Suppl 4 Pt 1:697-702.
39. 荻田学 代田浩之, 新時代の臨床糖尿病学(下) —より良い血糖管理をめざして— XI. 糖尿病合併症の病態・診断・治療 2. 慢性合併症 (5) 冠動脈疾患 4)糖尿病に起因する冠動脈疾患の治療, 内科的治療", 雑誌[日本臨床] 2016 年 4 月増刊号
40. 荻田学 代田浩之, 特集「進化する糖尿病治療！ ～話題の新薬と治療法～」I -3. 【内服薬】循環器内科から見た SGLT2 阻害薬 (EMPA-REG アウトカム試験を受けての期待)", 「月刊糖尿病」 2016 年 10 月号 Vol.8 No.10
41. 荻田学 代田浩之, 特集/糖尿病治療薬の心血管アウトカム, 糖尿病治療薬の心血管アウトカム抑制効果, 3. 糖尿病治療薬の心血管アウトカム抑制効果が求められるようになった背景, 雑誌[ホルモンと臨床, 2016 Vol.62 p771-774
42. 荻田学 代田浩之, 特集: 糖尿病を合併した循環器疾患 6. 糖尿病患者の冠動脈疾患に対する血行再建の考え方, 月刊新聞[Medical View Point] Vol37, No5 (2016 年 4 月 20

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

日発行)

43. 島田和典, 西 祐史, 吉原琢磨, 相川達郎, 大内翔平, 塩澤知之, 門口智泰, 高橋秀平, 住吉克彦, 宮崎哲朗, 代田浩之. 心血管疾患予防における多価不飽和脂肪酸の臨床的有用性,成人病と生活習慣病. 45:539-544;2016.
44. 島田和典, 喜多村健一, 代田浩之. PCSK9 阻害薬の臨床効果, Progress in Medicine. 36:631-637;2016

(形成外科)

45. 田中里佳, 門真起子, 福田太郎, 市川佑一, 水野博司. 糖尿病足潰瘍・壊疽の治療、新時代の臨床糖尿病学(下)—より良い血糖管理をめざして— 日本臨牀 74: 363-367, 2016
46. 田中里佳, 金澤成行, 水野博司 Wound bed preparation における再生医療の役割 医学のあゆみ 258: 860-864, 2016
47. 大下高志, 飛田護邦, 田島聖士, 水野博司 予防的幹細胞投与によるステロイド性骨粗鬆症の次世代治療 Osteoporosis Japan PLUS 1: 45-47, 2016
48. 萩原裕子, 田中里佳. 重症下肢虚血に対する血管再生療法の現状. 日本下肢救済・足病学会誌 8 巻:123-9, 2016
49. 田中里佳. 日本人の糖尿病性足潰瘍の特徴と対策. BIO Clinica 32 巻:65-70, 2017
50. 田中里佳. 末梢血単核球生体外培養増幅法(QQc 法)を用いた血管再生治療. メディカル・サイエンス・ダイジェスト 43 巻:2-3, 2017

(生化学第2)

51. 胡 忠双, 長岡 功: ピロトーシスによる炎症惹起と抗菌ペプチドによる制御. Thrombosis Medicine 3: 210-215, 2016.
52. 胡 忠双, 長岡 功: LPS 誘導性ピロトーシスと抗菌ペプチド. 医学のあゆみ 253: 1087-1091, 2015.
53. 長岡 功, 胡 忠双, 鈴木 香, 田村弘志: 抗菌ペプチドによる敗血症ショックの制御. 化学療法の領域 30: 615-623, 2014.

(免疫学)

54. 能登大介, 三宅幸子: 腸内細菌による免疫調節. 小児科. 57(2):129-136, 2016
55. 三宅幸子: 免疫性神経疾患と腸管免疫. 最新医学. 71(2):47-53, 2016
56. 能登大介, 三宅幸子: 腸内細菌と免疫応答. 腎臓内科・泌尿器科. 3(3):264-270, 2016
57. 能登大介, 三宅幸子: 免疫性神経疾患の基礎科学-免疫学の立場から. Modern Physician. 36(7):613-617, 2016
58. 能登大介, 三宅幸子: 腸内細菌と免疫疾患. 医学のあゆみ. 258(10):909-914, 2016
59. 芳賀慶一, 長田太郎, 渡辺純夫, 千葉麻子, 三宅幸子: Mucosal Associated Invariant T(MAIT)細胞. G.I. Research. 24(5):67-68, 2016
60. 三宅幸子: 腸内細菌と自己免疫. Keynote R・A.,3(1):14-18, 2015
61. 三宅幸子: 神経免疫. 炎症と免疫. 23(2):105, 2015
62. 三宅幸子: 自己免疫疾患と腸内細菌. Medical Science Digest 41(4):146-149, 2015
63. 三宅幸子: 自己免疫疾患と腸内細菌.細胞 47(2):57-60, 2015

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

64. 能登大介、三宅幸子：免疫性神経疾患の発症と自然免疫. 日本臨床. 73(7):23-32, 2015
65. 三宅幸子：腸内細菌と自己免疫疾患：リウマチ疾患を中心として. Pharma Medica., 33(10):39-43,2015
66. 三宅幸子：免疫性神経疾患の病態と腸管免疫. 医学のあゆみ. 255(5): 339-343,2015
67. 三宅幸子：MAIT 細胞と自己免疫. Jpn.J.Clin.Immunol., 37(1):19-24, 2014
68. 三宅幸子：自然リンパ球.医学のあゆみ.251(6):479,2014
69. 三宅幸子：腸内細菌と自己免疫. Jpn.J.Clin.Immunol., 37(5):398-402, 2014

(脳神経内科)

70. 石川景一、服部信孝、赤松和土：疾患モデル細胞, iPS 細胞を用いた毒性評価と創薬研究, iPS 細胞を用いたパーキンソン病の病態解析：日本臨床 2015 年 6 月増刊号
71. 石川景一、服部信孝. パーキンソン病の病態メカニズムからみた根本治療の可能性 臨床雑誌内科 118(2): 175-180, 2016
72. 船山学、服部信孝. 家族性パーキンソン病 up to date 臨床雑誌内科 118(2): 269-272, 2016
73. 石川景一、服部信孝. ペリー症候群の現状とその対応 新薬と臨床 65(3):87-91,2016
74. 常深泰司、服部信孝. 日本におけるパーキンソン病治療の変遷と展望 日本臨床 75(1):14-20,2017
75. 今居 譲、柴佳保里、服部信孝. 遺伝子から探るパーキンソン病病態へのミトコンドリアの関与、ミトコンドリア研究 UPDATE、医学のあゆみ、260: 85-91, 2017

(神経生物学)

76. 小池正人: ライソゾーム分解系. 生体の科学 66: 496-497, 2015.

(代謝内分泌内科)

77. 宮塚健、綿田裕孝「膵内分泌細胞の可塑性」グルカゴン革命 糖尿病の真の分子病態を追え！実験医学 33(6): 887-891, 2015

(生化学第1)

78. (*48) 佐伯和子, 劉珉, 横溝岳彦. アスピリンによる生理活性脂質 12-HHT の産生阻害は皮膚創傷治癒の遅延をひきおこす. 実験医学. 2014 32(14):2267-70.
79. 佐伯和子, 横溝岳彦. ロイコトリエンの生体内における役割. 医学のあゆみ. 2014 248(13):970-6.
80. 横溝岳彦. アスピリンを服用すると血液が凝固しにくくなるメカニズムとは. LiSA. 2014 21(8):739-41.
81. (*49) 佐伯和子, 劉珉, 横溝岳彦. 血小板由来の脂質メディエーター12-HHT は角化細胞の移動を亢進させ皮膚創傷治癒を促進する. 血栓止血. 2015 26(611-8).
82. 五十嵐靖之, 清水孝雄, 徳村彰, 西島正弘, 村上誠, 横溝岳彦. あなたの知らない「脂質」の世界 脂質研究の過去、現在、そして未来. 実験医学. 2015;33(15):2336-43.
83. (*50) 佐伯和子, 劉珉, 横溝岳彦. 12-HHT 皮膚創傷治癒に働く新しい COX 代謝物.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

医学のあゆみ. 2015 2015.09;254(12):1121-5.

84. 横溝岳彦. 第1世代脂質メディエーター エイコサノイド. 実験医学. 2015;33(15):2344-8.

85. 横溝岳彦. 【アセトアミノフェン】薬理的側面から 古くて新しい謎だらけの薬. LiSA. 2015;22(9):874-7.

86. 李賢哲, 奥野利明, 横溝岳彦. 脂質メディエーターによる免疫・炎症応答の制御. 臨床免疫・アレルギー科. 2015;64(4):386-90.

87. 市木貴子, 古賀友紹, 横溝岳彦. 【GPCR 研究の最前線 2016】GPCR 機能の新展開【免疫・炎症】ロイコトリエン受容体. 医学のあゆみ. 2016;256(5):554-60.

88. 横溝岳彦. 【脂質ワールド】新規脂質メディエーターと受容体 古くて新しい脂質メディエーター・12-ヒドロキシヘプタデカトリエン酸の生理作用. 生体の科学. 2016;67(3):232-6.

89. 横溝岳彦. 快人快説 最先端の研究テクノロジー紹介 微量サンプル中の微量脂質を定量化する驚異の質量分析技術. LiSA. 2016;23(12):1179-88.

<図書>

(腎臓内科)

1. 鈴木祐介、富野康日己: IgA 腎症における責任細胞の臓器選択的移動 Annual Review 2014 腎臓: 60-66, 2014
2. 鈴木祐介、鈴木仁、柳川宏之、松崎慶一、牧田郁子、高畑暁子、富野康日己: IgA 腎症の新しいバイオマーカー 腎と透析: 76; 31-35, 2014
3. 鈴木祐介: 「Oxford 分類 コメント」CJASN 日本語版 8: 1, 2014
4. 鈴木祐介 巻頭言 「企画にあたって」腎・高血圧の最新治療 特集「血尿の診断と臨床判断の標準化」、2014
5. 鈴木仁、鈴木祐介: 「IgA 腎症早期発見のための新規バイオマーカーを用いた血尿の2次スクリーニングの試み」腎・高血圧の最新治療 2015
6. 鈴木祐介、鈴木仁、富野康日己: 病因に基づくバイオマーカーを用いた IgA 腎症の早期発見・診断・治療の試み 「Annual Review 腎臓 2015」2015
7. 高畑暁子、鈴木祐介: IgA 腎症における性差—性ホルモンの関与— 腎臓内科・泌尿器科 1; 485-490, 2015
8. 鈴木祐介 第1章 原発性糸球体疾患、3. 慢性腎炎症候群、4) IgA 腎症、New エッセンシャル 腎臓内科学、医歯薬出版 富野康日己(編)2015
9. 鈴木祐介: 「血尿」内科外来診断 NAVI 2016、中外医学社、東京
10. 鈴木祐介、鈴木仁、武藤正浩: IgA 腎症の根治治療を目指した病因関連バイオマーカーの臨床応用と基礎的背景 「Annual Review 腎臓 2016」2016

(臨床検査医学)

11. 三井田孝: 「脂質検査の採血は空腹時それとも非空腹時?—何を測りどう解釈する?—」 そうだったんだ! 脂質異常症—メカニズムがわかれば治療が変わる— (伊藤 浩編); 文光堂 東京 118-123 2016
12. 平山 哲、三井田孝: 「酸化 LDL の計測と問題点」 そうだったんだ! 脂質異常症—メカニズムがわかれば治療が変わる— (伊藤 浩編); 文光堂 東京 84-86, 2016

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

13. 平山 哲、三井田孝：「Small dense LDL, レムナントの存在を血液検査からどう推定する？」 そうだったんだ！脂質異常症—メカニズムがわかれば治療が変わる—（伊藤 浩編）；文光堂 東京 124-125 2016
14. 三井田孝：「LDL-C 測定法の現状と将来の課題」 高 LDL-C 血症 低 HDL-C 血症（倉林正彦企画）；最新医学社 大阪 119-125 2015
15. 三井田孝：「総コレステロール (TC)・LDL-コレステロール (LDL-C)」 日常診療のための検査値のみかた（野村文夫、村上正巳、和田隆志、末岡榮三郎編）；中外医学社 東京 193-195 2015
16. 三井田孝：「HDL-コレステロール」 日常診療のための検査値のみかた（野村文夫、村上正巳、和田隆志、末岡榮三郎編）；中外医学社 東京 198-199, 2015.

(循環器内科)

17. 平野景子, 代田浩之, 永井良三 (責任編集), 医療倫理と研究倫理, 循環器研修ノート改訂第2版. 診断と治療社, 2016 ; 71-72,

(形成外科)

18. 水野博司：「感染創に対し、銀含有創傷被覆材は有用である」 創傷治癒コンセンサスドキュメント—手術手技から周術期管理まで—（日本創傷治癒学会ガイドライン委員会） 全日本病院出版会 東京 pp178-179, 2016
19. 水野博司：「皮膚汚染創においても塩基性線維芽細胞増殖因子 bFGF スプレーを使用してもよい」 創傷治癒コンセンサスドキュメント—手術手技から周術期管理まで—（日本創傷治癒学会ガイドライン委員会） 全日本病院出版会 東京 pp186-187, 2016
20. 田中里佳：分担)「再生医療」フットケアと足病変治療ガイドブック、日本フットケア学会、医学書院、東京、204-208、2017

(生化学第2)

21. *鈴木 香, 長岡 功: Cathelicidin ファミリーの抗菌ペプチド LL-37 によるエンドトキシン除去作用. エンドトキシン・自然免疫研究 18 -自然免疫における生体防御ペプチドの多様性. 長岡功, 谷徹, 横地高志 編集, 医学図書出版, 東京, 1-6, 2015.
22. 胡 忠双, 村上泰介, 鈴木 香, 田村弘志, 長岡 功: ピロトーシスに対する抗菌ペプチド LL-37 の作用. エンドトキシン・自然免疫研究 18 -自然免疫における生体防御ペプチドの多様性. 長岡 功, 谷 徹, 横地高志 編集, 医学図書出版, 東京, 86-88, 2015.
23. 多田浩之, 松下健二, 松山考司, 長岡 功, 高田春比古: *Porphyromonas gingivalis* ジンジパインによるヒト歯肉上皮細胞の IL-33 誘導を介した GAP18/LL-37 ダウンレギュレーション機構. エンドトキシン・自然免疫研究 18 -自然免疫における生体防御ペプチドの多様性. 長岡 功, 谷 徹, 横地高志 編集, 医学図書出版, 東京, 93-97, 2015.
24. 胡 忠双, 村上泰介, 鈴木 香, 田村弘志, 長岡 功: 抗菌ペプチド LL-37 によるマクロファージ系細胞のピロトーシスの制御. エンドトキシン・自然免疫研究 17 -エンドトキシン・自然免疫の展開: 新しい機序、診断、応用. 谷 徹, 横地高志

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

編集, 医学図書出版, 東京, 73-75, 2014.

(免疫学)

25. Asako Chiba, **Miyake S.** Basic techniques for studies of iNKT cells and MAIT cells. Arthritis Research Shunichi Shiozawa, ed, Springer, London, 75-84 2014
26. J.Ludovic Croxford, **Sachiko Miyake.** Animal Models for the Study of Neuroimmunological Disease. Neuroimmunological Diseases Susumu Kusunoki, ed, Springer, Japan, 33-54, 2016
27. 山田俊幸、大戸齊、渥美達也、**三宅幸子**、山内一由「免疫系のしくみと働き」 新版 臨床免疫学第3版, 南江堂, 東京, 1-25, 2014
28. 山田俊幸、大戸齊、渥美達也、**三宅幸子**、山内一由「細胞表面分子とサイトカイン」 新版 臨床免疫学第3版, 南江堂, 東京, 67-71, 2014

(脳神経内科)

29. **服部信孝.** 7. 大脳変性疾患、II 錐体外路系疾患、1~9、監修；平山恵造、編集；廣瀬源二郎、田代邦雄、葛原茂樹、臨床神経内科学、第6版1刷、pp409-441、ページ数36 /ページ総数968、2016年2月15日、南山堂、東京
30. 佐藤 猛、**服部信孝**、村田美穂. パーキンソン病・パーキンソン症候群の在宅ケア -合併症・認知症の対応、看護ケア-、2016年5月30日、中央法規出版株式会社、東京
31. マイケル S. オークン 著、大山彦光・**服部信孝** 訳. パーキンソン病とともに生きる-幸福のための10の鍵- (日本語版)、アルタ出版、2017年1月10日第1版第1刷、東京
32. 今居 譲、柴佳保里、**服部信孝.** 遺伝子から探るパーキンソン病病態へのミトコンドリアの関与、ミトコンドリア研究 UPDATE、医学のあゆみ、260: 85-91, 2017

(神経生物学)

33. Tanida, I., **Koike, M.** John Wiley & Sons Inc., Techniques for studying autophagy. In: *Autophagy, Infection, and the Immune Response.* Ed. William Jackson, 19-32; 2014

(代謝内分泌内科)

34. **宮塚健, 綿田裕孝**「膵/膵島再生の最前線」(編)羽田勝計, 門脇孝, 荒木栄一『糖尿病最新の治療 2016-2018』南江堂, 7-11, 2016
35. **宮塚健, 綿田裕孝,**河盛隆造「糖代謝」(編)門脇孝, 荒木栄一, 稲垣暢也, 植木浩二郎, 羽田勝計, 綿田裕孝『糖尿病学』西村書店, 2-7, 2015
36. **宮塚健, 綿田裕孝**「膵臓β細胞再生研究の現状」(編)井村裕夫, 清野進, 石井秀始『膵島の再生医療—膵β細胞の発生と再生をめぐる新展開—』診断と治療社, 108-112, 2015

(生化学第1)

37. 古賀友紹, **横溝岳彦**「ロイコトリエン」 疾患モデルの作製と利用; エル・アイ・シー 東京 187-96 2015

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

38. 横溝岳彦 「脂質メディエーター 概論」 サイトカイン・増殖因子キーワード事典; 羊土社 東京 326-30 2015
39. 横溝岳彦 「ロイコトリエン」 サイトカイン・増殖因子キーワード事典; 羊土社 東京 333-4 2015

<学会発表>

(ゲノム・再生医療センター)

1. 赤松和土 「疾患特異的 iPS 細胞を用いた神経疾患モデル解析の改良」 第 16 回再生医療学会 シンポジウム 2017. 3. 9
2. 赤松和土 「iPS 細胞技術を用いた神経疾患の病態解明と治療法開発」 第 39 回小児遺伝学会 シンポジウム (招待講演) 2016. 12. 9
3. 赤松和土 「iPS 細胞技術を用いた神経疾患研究」 日本線維筋痛症学会第 8 回学術集会 スポンサーシンポジウム (招待講演) 2016. 9. 17
4. 赤松和土 「iPS 細胞技術を用いた神経疾患解析と治療法開発」 第 58 回日本小児神経学会 シンポジウム (招待講演) 2016. 6. 4
5. 赤松和土 「領域特異性を持つ神経幹細胞の iPS 細胞からの誘導と神経疾患研究・創薬への応用」 第 89 回日本薬理学会年会 シンポジウム (招待講演) 2016. 3. 9
6. 赤松和土 「iPS 細胞技術を用いた神経疾患研究」 第 25 回日本サイトメトリー学会学術集会 シンポジウム (招待講演) 2015. 7. 11
7. 赤松和土 「疾患 iPS 細胞を用いた神経難病研究」 第 14 回再生医療学会 シンポジウム 2015. 3. 19
8. 赤松和土 「再生医療を目指した神経幹細胞の直接誘導とその応用」 第 88 回日本薬理学会年会シンポジウム (招待講演) 2015. 3. 18
9. 赤松和土 「iPS 細胞技術を用いた神経疾患の病態解明と治療法開発」 ハッピーフェイスセミナー (招待講演) 富山 2015. 1. 14
10. 赤松和土 「精神疾患の解析を目指した疾患 iPS 細胞技術の開発」 第 24 回日本臨床精神神経薬理学会・第 44 回日本神経精神薬理学会合同シンポジウム (招待講演) 2014. 11. 21
11. 赤松和土 「iPS 細胞技術を用いた神経疾患・発達障害研究」 第 24 回日本臨床精神神経薬理学会・第 44 回日本神経精神薬理学会合同シンポジウム (招待講演) 2014. 11. 22
12. 赤松和土: 招待講演: 第 58 回日本薬学会関東支部大会若手シンポジウム 未来を拓く幹細胞研究とこれからの創薬 「iPS 細胞技術を用いた神経疾患の病態解明と治療法開発」 2014 年 10 月 4 日 東京
13. 赤松和土: 招待講演: GE Life Sciences Day 2014 IN Cell Analyzer 分科会 シンポジウム「iPS 細胞技術を用いた神経疾患の病態解明と治療法開発」 2014 年 8 月 1 日 横浜
14. 赤松和土: 招待講演: 第 22 回千葉大学大学院薬学研究院・薬友会生涯教育セミナー・宮木高明記念講演 「多能性幹細胞を用いた神経疾患の再生医療と病態研究」 2014 年 7 月 12 日 千葉
15. 赤松和土: 招待講演: 第 245 回生理学東京談話会 「再生医療を目指した神経幹細胞の直接誘導とその応用」 2014 年 7 月 4 日 東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

(腎臓内科)

16. **鈴木祐介**: IgA 腎症の病因に基づくバイオマーカーの可能性 第 59 回日本腎臓学会学術総会シンポジウム 1: バイオマーカーと腎 2016 年 6 月 17 日
17. 狩野俊樹、鈴木仁、**鈴木祐介**、Jan Novak、富野康日己:「紫斑病性腎炎における糖鎖異常 IgA1 の病的意義」第 112 回 日本内科学会総会(京都) 2015 年 4 月 10 日～4 月 12 日
18. **鈴木祐介**、鈴木仁、牧田郁子、高畑暁子、柳川宏之、富野康日己. 「新規バイオマーカーを用い IgA 腎症の早期診断・活動性評価はどこまで可能か?」第 58 回 日本腎臓学会学術総会(名古屋) 総会長主導企画: 「IgA 腎症の診断と治療の UP TO DATE」, 2015 年 6 月 5 日～7 日
19. Muto M, **Suzuki Y**, Huard B, Joh K, Suzuki H, Izui S, **Tomino Y**: Aberrant APRIL expression in tonsillar germinal center B cells in IgA nephropathy. European Society of Nephrology (ERA/EDTA, London) 2015. 5. 28-31
20. 武藤 正浩, **鈴木祐介**, 鈴木 仁, 城 謙輔, 出井 章三, ユアード・ベルトラン, **富野康日己**: 「IgA 腎症の病因における口蓋扁桃の APRIL 産生 B 細胞の役割」第 111 回 日本内科学会総会(東京) 2014 年 4 月 11 日～13 日
21. **鈴木祐介** 免疫異常から見た腎疾患の発症機序の解明と制御 第 57 回 日本腎臓学会学術総会(横浜)ワークショップ、2014 年 7 月 4 日—6 日
22. **鈴木祐介** IgA 腎症 ～病因・病態に基づく治療選択～ 第 57 回 日本腎臓学会学術総会(横浜 2014 年) よくわかるシリーズ IgA 腎症、2014 年 7 月 4 日—6 日
23. **Suzuki Y**, Suzuki H, Muto M, Okazaki K, Nakata J, **Tomino Y**: Pathological role of palatine tonsil in IgA nephropathy. The 14th Asian Pacific Congress of Nephrology 2014 (Tokyo, invited lecture) 2014 年 5 月 14 日～17 日
24. **Suzuki Y**, Suzuki H, Yasutake J, Tomino Y: Serum Galactose-Deficient IgA1 Detected by Specific Monoclonal Antibody KM55 Is Increased in IgA Nephropathy Patients. Annual Congress of American Society of Nephrology (Philadelphia) 2014 年 11 月 11 日—16 日

(臨床検査医学)

25. **三井田孝**: 招待講演: いまさら聞けない脂質検査のコツ～ACS から外来患者まで～. 第 81 回日本循環器学会学術集会, 2017 年 3 月 18 日 金沢
26. **三井田孝**: 教育講演: 脂質検査を使いこなす. 第 48 回日本動脈硬化学会総会・学術集会 2016 年 7 月 15 日 東京
27. **三井田孝**: シンポジウム「包括的リスク管理と JAS ガイドライン」: 脂質検査の選択と診断. 第 48 回日本動脈硬化学会総会・学術集会 2016 年 7 月 15 日 東京
28. **三井田孝**: シンポジウム「ガイドラインはどの方向に向かうのか」: non HDL-C と LDL-C 直接測定法の特徴とピットフォール. 第 16 回動脈硬化教育フォーラム 2016 年 2 月 7 日 東京
29. **三井田孝**: シンポジウム「残余リスク」に対する治療戦略: HDL を標的とした動脈硬化の抑制. 第 47 回日本動脈硬化学会総会・学術集会 2015 年 7 月 10 日 仙台
30. **Miida T**: 招待講演: Clinical Features and Treatment of Familial Hypercholesterolemia. The Satellite Symposium of the ISA 2015 in Tokyo 2015

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

年 5 月 21 日 東京

31. **三井田孝**：シンポジウム「地域・職域における動脈硬化リスクの管理」：地域・職域における脂質異常症の管理と対策. 第15回動脈硬化教育フォーラム 2015年2月8日 大阪
32. **三井田孝**：シンポジウム「脂質検査の現状及び将来展望」：血清脂質・リポ蛋白検査の正確性について. 第46回日本動脈硬化学会総会・学術集会 2014年7月11日 東京

(循環器内科)

33. Shinichiro Doi, Hiroshi Iwata, Shinya Okazaki, Katsumi Miyauchi, **Hiroyuki Daida**, Low serum triglyceride level (TG) and low body mass index (BMI) associate increased risk of long-term cardiovascular mortality in patients undergoing percutaneous coronary intervention (PCI), 20 years follow-up , , AHA scientific session 2016, New Orleans, 2016/11/13
34. Hiroki Nishiyama, Hiroshi Iwata, Shinya Okazaki, Katsumi Miyauchi, **Hiroyuki Daida**, Low apolipoprotein A1 predicts 10year mortality in patients after PCI, a residual therapeutic target in the statin era , AHA scientific session 2016, New Orleans, 2016/11/13
35. Jun Shitara, Shuta Tsuboi, Katsumi Miyauchi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Tomotaka Dohi, Hirokazu Konishi, Ryo Naito, Shinichiro Doi, Hideki Wada, Hirohisa Endo, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Satoru Suwa, **Hiroyuki Daida**: Impact of red cell distribution width on long-term mortality in patients treated with statin after percutaneous coronary intervention, , , American Heart Association' s Scientific Sessions 2016・ニューオーリンズ・2016/11/14
36. H. Wada, K. Miyauchi, M. Ogita, H. Endo¹, S. Doi¹, H. Konishi², R. Naito, S. Tsuboi, T. Dohi, T. Kasai, H. Tamura, S. Okazaki, K. Isoda, S. Suwa, **H. Daida**, Impact of high-density lipoprotein cholesterol increase on long-term clinical outcomes in patients following percutaneous coronary intervention, European Society of Cardiology2016・ローマ・2016/8/29
37. R. Naito, K. Miyauchi, J. Shitara, H. Endo, H. Wada, S. Doi, H. Konishi, S. Tsuboi, M. Ogita, T. Dohi, T. Kasai¹, H. Tamura, S. Okazaki, K. Isoda, **H. Daida** Synergistic Effect of BMI and eGFR on All-cause Mortality in the Elderly following Percutaneous Coronary Intervention, , European Society of Cardiology2016・ローマ・2016/8/29
38. Shitara J, Ogita M, Miyauchi K, Wada H, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, **Daida H**, Association between sustained increase of c-reactive protein (CRP) and long-term mortality in patients with coronary artery disease treated with percutaneous coronary intervention, European Society of Cardiology2016・ローマ・2016/8/30
39. Shiozawa T, Shimada K, Sekita G, Miura S, Tabuchi T, Hayashi H, Al Shahi H, Kadoguchi T, Sugita Y, Ouchi S, Aikawa T, Takahashi S, Miyazaki T, Fujimoto S, Sumiyoshi M, Nakazato Y, **Daida H**, Atrial Fibrillation Recurrence After Catheter Ablation is Associated With Left Atrial Appendage Volume and Plasma Docosahexaenoic Acid Levels . Circulation. 2016;134:A13231

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

40. Kadoguchi T, Shimada K, Shiozawa T, Takahashi S, Hamad Al Shahi, Aikawa T, Ouchi S, Sugita Y, Miyazaki T, Akita K, Isoda K, **Daida H**. Inhibition of NAD(P)H Oxidase 4 Ameliorates Angiotensin II-Induced Protein Degradation via Improving Mitochondrial Dysfunction in Skeletal Myocytes. *Circulation*. 2016;134:A15468
41. Ouchi S, Miyazaki T, Shimada K, Sugita Y, Shimizu M, Murata A, Kato T, Aikawa T, Suda S, Shiozawa T, Hiki M, Takahashi S, Kasai T, Miyauchi K, **Daida H**. Decreased Circulating Omega-6 Fatty Acid Levels Are Associated With Total Mortality in Patients Admitted to Cardiac Intensive Care Unit. *Circulation*. 2016;134:A13995
42. Shiozawa T, Shimada K, Sekita G, Miura S, Komatsu S, Tabuchi H, Hayashi H, Kawaguchi Y, Takamura K, Fujimoto S, Kadoguchi T, Takahashi S, Sumiyoshi M, Nakazato Y, **Daida H**. Are low DHA levels associated with left atrial appendage volume and atrial fibrillation recurrence after catheter ablation?, *European Heart Journal* 2016, 37 (Abstract Supplement), 1078-1079
43. Ouchi S, Miyazaki T, Shimada K, Sugita Y, Shimizu M, Aikawa T, Kato T, Suda S, Hiki M, Takahashi S, Kasai T, Miyauchi K, **Daida H** ; Decreased circulating omega-6 fatty acids levels, but not omega-3 fatty acids levels, are associated with total mortality in patients admitted to cardiac intensive care unit, *European Heart Journal* 2016, 37 (Abstract Supplement)
44. Kadoguchi T, Shimada K, Shiozawa T, Takahashi S, Al Shahi H, Miyazaki T, Akita K, Isoda K, H. **Daida H**. NAD(P)H oxidase 4 plays a key role in Aangiotensin II-induced protein degradation in skeletal muscle cells. *European Heart Journal* 2016, 37 (Abstract Supplement), 1104
45. Kunimoto M, Shimada K, Yokoyama M, Hoshino Y, Takahashi S, Shiozawa T, Yamamoto T, Amano A, **Daida H**; Effects of First Session of Phase II Cardiac Rehabilitation on Novel Markers of Arterial Stiffness in Patients with Cardiovascular Diseases. *EuroPREVENT* 2016.
46. Kazuhisa Takamura, Shinichiro Fujimoto, Takeshi Kondo, Makoto Hiki, Yuko Kawaguchi, Etsuro Kato, Shoko Suda, Shinichi Takase, **Hiroyuki Daida** Incremental Prognostic Value of CCTA High Risk Plaque Characteristics in Asymptomatic Patients. *American College of Cardiology (ACC) 2016 : 65th Annual Scientific Session & Expo*
47. Kawaguchi Y, Fujimoto S, Kumamaru KK, Dohi T, Ri K, Takamura K, Kato Y, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Kato E, **Daida H**. Diagnostic Performance of Novel CT-Fractional Flow Reserve Based on Structural and Fluid Analysis using 4D-CT image. *89th Scientific Session, New Orleans, USA 2016. 11*
48. Koji Akita, Kikuo Isoda, Yayoi Okabayashi, Yuko Ishii, Kazunori Shimada, **Hiroyuki Daida** , An IL-6 receptor antibody suppresses IkBNS deficiency induced atherosclerosis in LDL receptor-deficient mice, *ESC congress 2016 · Roma · H28年8月27-31日*
49. Tomoyasu Kadoguchi, Kazunori Shimada, Tomoyuki Shiozawa, Shuuhei Takahashi, Hamad Al Shahi, Tetsuro Miyazaki, Koji Akita, Kikuo Isoda, **Hiroyuki Daida** , NAD(P)H Oxidase 4 plays a key role in Angiotensin II-induced protein degradation in skeletal muscle cells, , *ESC congress 2016 · Roma · H28年8月*

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

27-31日

50. Jun Shitara, Ogita M, Miyauchi K, Wada H, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H. Association between sustained increase of C-reactive protein (CRP) and Long-term mortality in patients with coronary artery disease treated with percutaneous coronary intervention, , ESC congress 2016・Roma・H28年8月27-31日
51. Ryo Naito, Katsumi Miyauchi, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Shinichiro Doi, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida, Synergistic effect of BMI and eGFR on all-cause mortality in the elderly following percutaneous coronary intervention, ESC congress 2016・Roma・H28年8月27-31日
52. Hideki Wada, Katsumi Miyauchi, Manabu Ogita, Hirohisa Endo, Shinichiro Doi, Hirokazu Konishi, Ryo Naito, Shuta Tsuboi, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Satoru Suwa, Hiroyuki Daida, Impact of high-density lipoprotein cholesterol increase on long-term clinical outcomes in patients following percutaneous coronary intervention, , ESC congress 2016・Roma・H28年8月27-31日
53. Tomoyasu Kadoguchi, Kazunori Shimada, Tomoyuki Shiozawa, Shuuhei Takahashi, Hamad Al Shahi, Koji Akita, Tetsuro Miyazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida, Inhibition of NAD(P)H Oxidase 4 Ameliorates Angiotensin II-Induced Protein Degradation via improving Mitochondrial Dysfunction in Skeletal Myocytes, AHA Scientific Sessions 2016・Roma・H28年11月12-16日
54. Yuko Kawaguchi, Shinichirou Fujimoto, Kanako Kumamaru, Tomotaka Dohi, Keiken Ri, Kazuhisa Takamura, Etsuro Kato, Yoshiteru Kato, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda and Hiroyuki Daida, Diagnostic Performance of Novel CT-Fractional Flow Reserve Based on Structural and Fluid Analysis Using 4D-CT Image , AHA Scientific Sessions 2016・Roma・H28年11月12-16日
55. Hiroki Nishiyama, Hiroshi Iwata, Ryo Naito, Hirohisa Endo, Takashi Shimizu, Shinichiro Doi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Katsumi Miyauchi and Hiroyuki Daida, Low Apolipoprotein A1 Predicts 10year-Cardiovascular Mortality in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention With or Without Statin Therapy, a Possible Useful Biomarker and Residual Therapeutic Target in the Statin Era , AHA Scientific Sessions 2016・Roma・H28年11月12-16日
56. Jun Shitara, Shuta Tsuboi, Katsumi Miyauchi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Tomotaka Dohi, Hirokazu Konishi, Ryo Naito, Shinichirou Doi, Hideki Wada, Hirohisa Endo, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Satoru Suwa and Hiroyuki Daida, Impact of Red Cell Distribution Width on Long-term Mortality in Patients Treated With Statin After Percutaneous Coronary Intervention , AHA Scientific Sessions 2016・Roma・H28年11月12-16日
57. Takamura K, Fujimoto S, Kondo T, Hiki M, Matsumori R, Kawaguchi Y, Suda S, Kato E, Kumamaru K, Takase S, Daida H, Incremental prognostic value of coronary computed tomographic angiography high risk plaque characteristics

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- in asymptomatic patients., The American College of Cardiology 65nd Annual Scientific Session, Chicago, USA 2016. 4
58. Shiozawa T, Shimada K, Sekita G, Miura S, Tabuchi H, Hayashi H, Shahi HA, Kadoguchi T, Sugita Y, Ouchi S, Aikawa T, Takahashi S, Miyazaki T, Fujimoto S, Sumiyoshi M, Nakazato Y, Daida H., Atrial fibrillation recurrence after catheter ablation is associated with left appendage volume and plasma docosahexaenoic acid levels , American Heart Association, 89th Scientific Session, New Orleans, USA 2016. 11
59. Kawaguchi Y, Fujimoto S, Kumamaru KK, Dohi T, Ri K, Takamura K, Kato Y, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Kato E, Daida H. Diagnostic Performance of Novel CT-Fractional Flow Reserve Based on Structural and Fluid Analysis using 4D-CT image., American Heart Association, 89th Scientific Session, New Orleans, USA 2016. 11
60. Azusa Murata, Takatoshi Kasai, Shoichiro Yatsu, Hiroki Matsumoto, Takao Kato, Shoko Suda, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida. Relationship between overnight rostral fluid shift and severity of central sleep apnea in hospitalized heart failure patients following acute decompensation , Cardiosleep, Prague, 2016. 5. 2
61. Azusa Murata, Takatoshi Kasai, Takao Kato, Shoko Suda, Hiroki Matsumoto, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida. Relationship between Blood Urea Nitrogen-to-Creatinine ratio at Hospital Admission and Long-term Post-discharge Mortality in Patients with Acute Decompensated Heart Failure, European Society of Cardiology, Rome, 2016. 8. 29
62. Hisaya Endo, Yuji Nishizaki, Katsumi Miyauchi ,Hiroyuki Daida Prognostic Implication of Atrial Fibrillation in Acute Coronary Syndrome; Sub-analysis from PACIFIC Registry , 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/18
63. Hideki Wada, Manabu Ogita, Shuta Tsuboi , Jun Shitara, Hirohisa Endo, Hirokazu Konishi, Yoshiteru Katoh, Hiroshi Tamura, Satoru Suwa, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida. Relation between Oral Beta-Blocker Therapy and Outcome in Patients with Acute Coronary Syndrome Preserved Left Ventricular Ejection Fraction, 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/18
64. Jun Shitara, Manabu Ogita, Katsumi Miyauchi , Hideki Wada , Ryo Naitoh , Hirokazu Konishi , Shuta Tsuboi , Tomotaka Dohi , Takatoshi Kasai , Hiroshi Tamura , Shinya Okazaki , Kikuo Isoda , Satoru Suwa , Hiroyuki Daida Association between Sustained Increase of Creactive Protein (CRP) and Longterm Mortality in Patients with Coronary Artery Disease Treated with PCI., 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/18
65. Hideki Wada, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Shinichiro Doi, Hirokazu Konishi, Hiroshi Tamura, Satoru Suwa, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida. Gender Differences in Mid-term Outcomes among Patients with Acute Coronary Syndrome Treated by Percutaneous Coronary Intervention , 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19
66. Shinichiro Doi Makoto Suzuki , Takehiro Funamizu , Kei Nishikawa, Kei Mabuchi, Kenichi Hagiya , Ryosuke Higuchi , Michiaki Higashitani, Itaru

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- Takamisawa, Atsushi Seki, Tetsuya Tohbaru, Nobuo Iguchi, Morimasa Takayama, Jun Umemura, Tetsuya Sumiyoshi, Hitonobu Tomoike Prediction of cardiac events in silent myocardial ischemia treated with percutaneous coronary intervention, 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19
67. Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Manabu Ogita, Shuta Tsuboi, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Takatoshi Kasai, Yoshiteru Katoh, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida, FRS: Prognostic Utility of Lipid Parameters or hs-CRP on Long-term Outcomes in Patients Undergoing PCI Treated with/without Statin Therapy, 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19
68. Ryo_Naito, Katsumi_Miyauchi, Jun_Shitarra, Hirohisa_Endo, Hideki_Wasa, Shinichiro_Doi, Hirokazu_Konishi, Shuta_Tsuboi, Manabu_Ogita, Tomotaka_Dohi, Takatoshi_Kasai, Hiroshi_Tamura, Shinya_Okazaki, Kikuo_Isoda, Hiroyuki Daida, Clinical Features and Outcomes in the Elderly following Percutaneous Coronary Intervention between 1985 and 2010, 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19
69. Hiroki_Nishiyama, Katsumi_Miyauchi, Ryo_Naitoh, Hirokazu_Konishi, Yoshiteru_Katoh, Tomotaka_Dohi, Hiroshi_Tamura, Shinya_Okazaki, Kikuo_Isoda, Hiroyuki Daida, Impact of Glycemic Control on the Long-term Outcome in Patients After Percutaneous Coronary Intervention, 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19
70. Toshihito_Onda, Kenji_Inoue, Satoru_Suwa, Takatoshi_Kasai, Yuichi_Chikata, Masayuki_Shiozaki, Tatsuro_Aikawa, Yuki_Kimura, Kentaro_Fukuda, Iwao_Okai, Akihisa_Nishino, Yoshiyuki_Masaki, Yasumasa_Fujiwara, Masataka_Sumiyoshi, Hiroyuki Daida A Comparison of Biomarkers and Risk Scores on Risk Stratification for Patients with Acute Coronary Syndrome, 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19
71. Hirokazu Konishi, Katsumi Miyauchi, Jun Shitarra, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Shinichiro Doi, Ryo Naitoh, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida, Lipoprotein (a) Predicts Long-term Cardiovascular Events in Patients after Percutaneous Coronary Intervention, 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19
72. Taketo Sonoda, Manabu Ogita, Katsumi Miyauchi, Hirokazu Konishi, Hideki Wada, Ryo Naitoh, Shuta Tsuboi, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Satoru Suwa, Hiroyuki Daida, Impact of Lipoprotein (a) as Residual Risk on Clinical Outcomes in Patients with Coronary Artery Disease Treated with Statin after PCI, 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19
73. Shinichiro Doi Harutoshi Tamura, Haruka Fujimaki, Takeshi Ohkubo, Yuko Utanohara, Keitaro Mahara, Itaru Takamisawa, Tetsuya Tohbaru, Nobuo Iguchi, Morimasa Takayama, Jun Umemura, Tetsuya Sumiyoshi, Hitonobu Tomoike, One-year follow-up by using cardiac catheterization in patients with hypertrophic obstructive cardiomyopathy who were performed percutaneous transluminal septal myocardial ablation, 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/20

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

74. Takashi Shimizu, Katsumi Miyauchi, Tomotaka Dohi, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Yoshiteru Katoh, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, **Hiroyuki Daida**, Body Mass Index and Long-Term Clinical Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention: Results from the Juntendo PCI Registry, 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/20
75. Shinichiro Doi, Katsumi Miyauchi, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Yoshiteru Kato, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, **Hiroyuki Daida**, Comparison of Benefits between Second-Generation Drug-Eluting Stents Versus Bare Metal Stents in Hemodialysis Patients, 第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/8
76. 田村浩、岡崎 真也、遠藤 裕久、和田 英樹、清水 孝史、西山 大樹、内藤 亮、華藤 芳輝、土井 智貴、岡井 巖、磯田 菊生、宮内 克己、**代田 浩之**, BMS にて冠動脈瘤を治療した 5 症例に対する検討 第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/8
77. 宮内 克己、和田 英樹、土井 信一郎、小西 宏和、内藤 亮、坪井 秀太、荻田 学、土肥 智貴、梶本 完、葛西 隆敏、田村 浩、岡崎 真也、磯田 菊生、天野 篤、**代田 浩之**, 慢性腎臓病を有する糖尿病患者における第一世代の薬剤溶出性ステントと冠動脈バイパス手術の予後比較, 第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/8
78. 高橋 徳仁、磯田 菊生、比企 優、藤本 進一郎、田村 浩、岡崎 真也、宮内 克己、**代田 浩之**, 巨大深部静脈血栓を伴う妊婦に対し、一時的な下大静脈フィルター留置で良好な経過が得られた 1 例, 第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/8
79. 和田英樹、荻田 学、宮内 克己、坪井 秀太、小西 宏和、設楽 準、國本 充洋、園田 健人、磯 隆史、海老名 秀城、青木 絵里子、喜多村 健一、田村 浩、諏訪 哲、**代田 浩之**, 左主幹動脈に対して PCI を施行した ASC 患者の背景比較と入院中死亡の因子についての検討, 第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/9
80. 和田英樹、荻田 学、宮内 克己、設楽 準、遠藤 裕久、土井 信一郎、小西 宏和、内藤 亮、坪井 秀太、土肥 智貴、葛西 隆敏、田村 浩、岡崎 真也、磯田 菊生、諏訪 哲、**代田 浩之**, インスリン抵抗性と PCI 後の脳血管イベントの関連についての検討, 第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/9
81. 土井 信一郎、岡崎 真也、圓山 雅己、藤本 進一郎、掛水 真帆、土肥 静之、桑木 賢次、稲田 英一、天野 篤、**代田 浩之**, BAV による Bridge therapy により TA ハイリスク症例を TF TAVI に移行できた CKD 患者の一例, 第 7 回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会・大阪・2016/8/11
82. 遠藤裕久、土肥智貴、宮内克己、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、内藤亮、坪井秀太、荻田学、華藤芳輝、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田、菊生、**代田浩之**, 急性冠症候群患者の長期予後における BMI と性差の関連, 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/23
83. Shinichiro Doi, Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Yoshiteru

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- Kato, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, **Hiroyuki Daida**, Impact of Seasonal Variation on Long-term Outcomes in Acute Coronary Syndrome who Underwent Percutaneous Coronary Intervention, 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/23
84. 西山大樹、土肥智貴、宮内克己、遠藤裕久、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、内藤亮、坪井秀太、荻田学、華藤芳輝、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田、菊生、**代田浩之**, 冠動脈疾患患者の長期予後における hs-CRP 値の性差について, 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/24
85. , 和田英樹、荻田学、諏訪哲、**代田浩之**, 劇症型肺炎球菌感染症に合併した劇症型心筋炎の一例, 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/24
86. 園田 健人、荻田 学、宮内 克己、小西 宏和、坪井 秀太、内藤 亮、土肥 智貴、葛西 隆敏、岡崎 真也、磯田 菊生、諏訪 哲、**代田 浩之**, Gender difference of lipoprotein (a) and long-term clinical outcomes in patients with coronary artery disease after percutaneous coronary intervention, 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/24
87. 和田英樹、荻田学、宮内克己、設樂準、遠藤裕久、土井信一郎、小西宏和、内藤亮、坪井秀太、土肥智貴、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、**代田浩之**, Gender Differences in Patients with Statin Therapy Following Percutaneous Coronary Intervention, 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/25
88. , 内藤亮、宮内克己、設樂準、遠藤裕久、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、坪井秀太、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、**代田浩之**, Synergistic Effect of BMI and eGFR on All-cause Mortality in the Elderly following Percutaneous Coronary Intervention, 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/25
89. 喜多村 健一、坪井 秀太、青木 映莉子、海老名 秀城、園田 健人、磯 隆史、設樂 準、國本 充洋、小西 宏和、荻田 学、磯田 菊生、諏訪 哲, 心電図変化を伴う胸痛を契機に診断された褐色細胞腫の一例, 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/25
90. 設樂 準、坪井 秀太、宮内 克己、荻田 学、葛西 隆敏、土肥 智貴、小西 宏和、内藤 亮、岡崎 真也、磯田 菊生、諏訪 哲、**代田 浩之**, 冠動脈形成術後のスタチン内服患者における赤血球容積粒度分布幅 (RDW) の有用性 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/25
91. Shinichiro Doi, Shinya Okazaki, Katsumi Miyauchi, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Takashi Shimizu, Hiroki Nishiyama, Yoshiteru Kato, Iwao Okai, Tomotaka Dohi, Hiroshi Iwata, Kikuo Isoda, **Hiroyuki Daida**, A Case of successful PCI in LAD-CTO with large severe calcified aneurysm in young adult with history of Kawasaki disease, Complex Cardiovascular Therapeutics 2016・神戸・2016/10/21
92. Shinichiro Doi, Morimasa Takayama, Shinya Okazaki, **Hiroyuki Daida**, PTsMAにより心室性不整脈の改善が得られた閉塞性肥大型心筋症の 1 例, 東京 HOCM フォーラム 2016・東京・2016/10/29
93. 土井信一郎、岡崎 真也、遠藤 裕久、川口 裕子、圓山 雅己、華藤 芳輝、宮崎彩記子、藤本進一郎、掛水 真帆、土肥 静之、桑木 賢次、
稲田 英一、宮内 克己、天野 篤、**代田 浩之**, 急性心不全を発症した重症冠動脈

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 病変、大動脈弁狭窄症、高度腎機能低下を伴う低左 心機能、超高齢患者の一例，第 30 回日本冠疾患学会学術集会・東京・2016/12/10
94. 和田 英樹、土肥 智貴、宮内 克己、代田 浩之，Impact of Albumin on prognosis in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention 第 30 回日本冠疾患学会学術集会・東京・2016/12/11
95. ，内藤 亮、宮内 克己、代田 浩之，心血管イベント高危険群における経皮的冠動脈形成術後臨床成績の時代的変遷について，第 30 回日本冠疾患学会学術集会・東京・2016/12/11
96. 川口 裕子、藤本 進一郎、高村 和久、比企 誠、須田 翔子、加藤 悦郎、石浦 純子、隈丸 加奈子、代田 浩之，高度石灰化症例における低被ばく subtraction CTA の有効性の検討 第 26 回心血管画像動態学会，2016. 1.
97. 高村 和久、藤本 進一郎、川口 裕子、比企 誠、須田 翔子、加藤 悦郎、石浦 純子、隈丸 加奈子、代田 浩之 The usefulness of low radiation dose subtraction coronary CT angiography for coronary segments with calcification and stent using 320-row Area Detector CT, 80Th JCS. Sendai. 2016. 03.
98. Etsuro kato, Shinichiro Fujimoto, Rie Matsumori, Rani Bhivasankar, Kanako Kumamaru, yuko Kawaguchi, Kazuhisa Takamura, Frank J Rybicki , Dimitrios Mitsouras, katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida. Retrospective Evaluation of CT angiography Transluminal Attenuation Gradient for the Detection of Compromised Fractional Flow Reserve , 80Th JCS. Sendai. 2016. 03.
99. Yuko kawaguchi, Shinichiro fujimoto, Kazuhisa Takamura, Syoko Suda, Etsuro Kato, Rie Matsumori, Makoto Hiki, Kanako K. Kumamaru, Hiroyuki Daid, Submillisievert Imaging Protocol Using Full Reconstruction and Advanced patient motion Correction in 320-row Area Detector CT angiography. 80Th JCS. Sendai. 2016. 03.
100. 高村 和久、藤本進一郎、比企 誠、川口 裕子、加藤 悦郎、青島 千紘、隈丸 加奈子、代田 浩之，The usefulness of low radiation dose subtraction coronary CT angiography for patients with calcification using 320 ADCT. ，日本心臓病学会 東京 2016. 09
101. 加藤 悦郎、藤本 進一郎、高村 和久、川口 裕子、青島 千紘、比企 誠，隈丸 加奈子、代田 浩之，320 列冠動脈 CT による 1 回転撮影像から解析した Transluminal attenuation gradient (TAG) の意義 ，日本心臓病学会 東京 2016. 09
102. 藤本 進一郎、高村和久、川口 裕子、加藤 悦郎、比企 誠、土肥 智貴、隈丸 加奈子、代田浩之 Development of comprehensive plaque evaluation by coronary CT angiography. 第 48 回日本動脈硬化学会学術集会，東京，2016. 7 (シンポジウム)
103. 李慶賢、藤本進一郎、隈丸加奈子、山田想 、川口裕子、土肥智貴 、高村和久、加藤悦郎、木暮陽介、青木茂樹、代田浩之 流体構造連成解析を用いた冠動脈 CT-FFR 算出ソフトウェアの再現性の検討，第 10 回 SCCT 研究会、2016 年 9 月、東京 (口頭発表)
104. 李慶賢、隈丸加奈子、藤本進一郎、高村和久、川口裕子、木暮陽介、代田浩之、青木茂樹 流体構造連成解析を用いた冠動脈 CT-FFR 算出ソフトウェアの再現性の検討，SAMI2016、2016 年 7 月、東京 (ポスター発表)
105. Maruyama M, Katou T, Morimoto R, Miyazaki S, M, Daimon M, Ohmura H, Amano A, Daida H. 腰部神経線維腫で経過観察中に、左室心尖部腫瘍を 指摘された一例，日本心エコー図学会第 27 回学術集会 大阪 2016 年 4 月 22 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

106. Maruyama M, Katou T, Morimoto R, Miyazaki S, M, Daimon M, Ohmura H, Amano A, **Daida H**. 大動脈弁狭窄症患者における弁置換術施行例における術後心房細動発症に関わる因子の検討, 第 64 回日本心臓病学会学術集会 東京 2016 年 9 月 23 日
107. Kazunori Shimada, Takuma Yoshihara, Miho Nishitani-Yokoyama, Tomoyasu Kadoguchi, Eiryu Sai, Tomoyuki Shiozawa, Koji Akita, Shuuhei Takahashi, Hamad Al Shahi, Tetsuro Miyazaki, Kikuo Isoda, Katsumi Miyauchi, **Hiroyuki Daida**, Anti-inflammatory Strategies for Preventing Cardiovascular Events, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
108. 高野明日香、岩田洋、大澤翔太、田村浩、磯田菊生、岡崎真也、宮内克己、天野篤、**代田浩之**, Higher Heart Rate Increases the Risk of Thrombocytopenia in Patients with Intra-Aortic Balloon Pump (IABP) counterpulsation, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
109. 設楽準、荻田学、宮内克己、和田英樹、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、**代田浩之**, Association between Sustained Increase of C-reactive Protein (CRP) and Long-term Mortality in Patients with Coronary Artery Disease Treated with PCI, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
110. 園田健人、荻田学、宮内克己、小西宏和、和田英樹、内藤亮、坪井秀太、土肥智貴、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、**代田浩之**, Impact of Lipoprotein (a) as Residual Risk on Clinical Outcomes in Patients with Coronary Artery Disease Treated with Statin after PCI, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
111. Ryo Naito, Katsumi Miyauchi, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Shinichiro Doi, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, **Hiroyuki Daida**, Clinical Features and Outcomes in the Elderly Following Percutaneous Coronary Intervention between 1985 and 2010, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
112. Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Manabu Ogita, Shuta Tsuboi, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Takatoshi Kasai, Yoshiteru Katoh, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, **Hiroyuki Daida**, Prognostic Utility of Lipid Parameters or hs-CRP on Long-term Outcomes in Patients Undergoing PCI Treated with/without Statin Therapy, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
113. 小西宏和、宮内克己、設楽準、遠藤裕久、和田英樹、土井信一郎、内藤亮、坪井秀太、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、**代田浩之**, Lipoprotein(a) Predicts Long-term Cardiovascular Events in Patients after Percutaneous Coronary Intervention, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
114. 西山大樹、宮内克己、内藤亮、小西宏和、華藤芳輝、土肥智貴、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、**代田浩之**, Impact of Glycemic Control on the Long-term Outcome in Patients after Percutaneous Coronary Intervention, The 80th Annual

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
115. Tomoyasu Kadoguchi, Kazunori Shimada, Tomoyuki Shiozawa, Shuuhei Takahashi, Hamad Al Shahi, Koji Akita, Tetsuro Miyazaki, Kikuo Isoda, **Hiroyuki Daida**, Angiotensin II-induced NAD(P)H Oxidase 4 Activation is Involved in Protein Degradation in Skeletal Muscle Cells, ,The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
116. 清水孝史、宮内克己、土肥智貴、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、華藤芳輝、荻田学、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、**代田浩之**, Body Mass Index and Long-term Clinical Outcomes after Percutaneous Coronary Intervention: Results from the Juntendo PCI Registry, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
117. Koji Akita, Kikuo Isoda, Yayoi Okabayashi, Yuko Ishii, Kazunori Shimada, **Hiroyuki Daida**, The Lack of IkBNS Accelerates Atherosclerosis in LDL Receptor-deficient Mice via Increased Interleukin-6 Production by Macrophages, ,The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18-20 日
118. 国内学会発表, 94, , 慢性腎臓病を有する糖尿病患者における第_世代の薬剤溶出性ステントと冠動脈バイパス術の予後_較, 遠藤裕久、宮内克己、和英樹、_井信一郎、_宏和、内藤亮、坪井秀太、荻_学、_肥智貴、梶本完、葛_隆敏、_村浩、岡崎真也、磯_菊生、天野篤、代_浩之, CVIT 2016・東京・平成 28 年 7 月 7-9 日
119. 門口 智泰、田村 浩、岡崎 真也、磯田 菊生、**代田 浩之**, 経皮的冠動脈形成術施行患者における血清 1,5-anhydroglucitol 低下と心血管イベントとの関連, 喜多村健一、島田 和典、高橋 秀平、宮内 克己、蔡 榮龍、宮崎 哲朗、塩澤 知之、大内 翔平、相川 達郎、ハマド サーリム、, 第 48 回日本動脈硬化学会・東京・平成 28 年 7 月 14-15 日
120. 門口 智泰、島田 和典、塩澤 知之、高橋 秀平、Hamad Al Shahi、大内 翔平、相川 達郎、秋田 耕嗣、宮崎 哲朗、磯田 菊生、**代田 浩之**, 骨格筋タンパク合成および分解調節における NAD (P) H oxidase 4 の役割の検討, , 第 48 回日本動脈硬化学会・東京・平成 28 年 7 月 14-15 日
121. 秋田 耕嗣、磯田 菊生、島田 和典、**代田 浩之**, IkBNS 欠損は LDL 受容体欠損マウスにおいてマクロファージの IL-6 産生増加を誘導し、動脈硬化を促進する, 第 48 回日本動脈硬化学会・東京・平成 28 年 7 月 14-15 日
122. 磯 隆史、小西宏和、宮内克己、設楽準、和田英樹、内藤亮、坪井秀太、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、諏訪 哲、**代田浩之**, 経皮的冠動脈形成術施行患者の予後と出血事象における ORBIT スコアの意義, , 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
123. 園田健人、荻田学、宮内克己、小西宏和、坪井秀太、内藤亮、土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、諏訪 哲、**代田浩之**, Gender difference of lipoprotein (a) and long-term clinical outcomes in patients with coronary artery disease after percutaneous coronary intervention., , 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
124. 内藤亮、宮内克己、設楽準、遠藤裕久、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、坪井秀太、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、**代田浩之**, Synergistic effect of BMI and eGFR on all-cause mortality in the elderly following

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- percutaneous coronary intervention, 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
125. 土井信一郎、土肥智貴、宮内克己、遠藤裕久、和田英樹、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、荻田学、華藤芳輝、葛西隆敏、田村 浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之、インターロイキン 1 受容体アンタゴニストはアンジオテンシン II 投与で喚起される動脈の炎症及び瘤形成を抑制する, 秋田 耕嗣、磯田 菊生、代田 浩之, 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
126. 遠藤裕久、土肥智貴、宮内克己、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、内藤亮、坪井秀太、荻田学、華藤芳輝、葛西隆敏、田村 浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之、急性冠症候群発症の長期予後における BMI と性差の関連, , 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
127. 門口 智泰、島田 和典、塩澤 知之、高橋 秀平、Hamad Al Shahi、大内 翔平、相川 達郎、秋田 耕嗣、磯田 菊生、宮崎 哲朗、代田 浩之、アンジオテンシン II に依存した酸化ストレスは骨格筋タンパク分解を引き起こす, , 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
128. 高橋徳仁、磯田菊生、岩田 洋、秋田耕嗣、遠藤裕久、和田英樹、大内翔平、西山大樹、土井信一郎、華藤芳輝、土肥智貴、田村 浩、岡崎真也、諏訪 哲、宮内克己、代田浩之、ベアメタルステント留置 13 年後に生じた超遅発性ステント血栓症の 1 例, 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
129. 国内学会発表, 112, , 冠動脈疾患患者の長期予後における hs-CRP 値の性差について, 西山大樹、土肥智貴、宮内克己、遠藤裕久、和田英樹、土井信一郎、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、荻田学、華藤芳輝、田村 浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之, 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
130. 高橋 秀平、島田 和典、宮内 克己、蔡 榮龍、宮崎 哲朗、塩澤 知之、大内 翔平、相川 達郎、Hamad Al Shahi、門口 智泰、田村 浩、岡崎真也、磯田 菊生、代田 浩之、経皮的冠動脈形成術施行患者における血清 1,5-anhydroglucitol 測定の意義, 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
131. 設楽 準、坪井秀太、宮内克己、荻田 学、葛西隆敏、土肥智貴、小西宏和、内藤 亮、岡崎真也、磯田菊生、諏訪 哲、代田浩之、冠動脈形成術後のスタチン内服患者における赤血球容積粒度分布幅 (RDW) の有用性, , 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
132. 和田英樹、荻田 学、宮内克己、設楽 準、遠藤裕久、土井信一郎、内藤 亮、小西宏和、坪井秀太、土肥智貴、葛西隆敏、田村 浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪 哲、代田浩之、Gender difference in patients with statin therapy following percutaneous coronary intervention. 第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23-25 日
133. 川口 裕子、藤本 進一郎、高村 和久、比企 誠、須田 翔子、加藤 悦郎、石浦 純子、隈丸 加奈子、代田 浩之、高度石灰化症例における低被ばく Subtraction Coronary CTA の有効性の検討, , 第 26 回日本心血管画像動態学会、東京、2016. 1
134. Kazuhisa Takamura, Shinichiro Fujimoto, Makoto Hiki, Rie Matshiori, Yuuko Kawaguchi, Shoko Suda, Etsuro Kato, Kanako Kumamaru, Hiroyuki Daida: The Usefulness of Low Radiation Dose Subtraction Coronary CT Angiography for Coronary Segments with Calcification and Stent., , The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Sendai, Japan 2016. 3
135. Yuko Kawaguchi, Shinichiro Fujimoto, Shoko Suda, Etsuro Kato, Rie

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- Matsumori, Kazuhisa Takamura, Makoto Hiki, Kanako Kumamaru, Hiroyuki Daida, Submillisievert Imaging Protocol Using Full Reconstruction and Advanced Patient Motion Correction in 320-row Area Detector CT Angiography. , The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Sendai, Japan 2016. 3
136. Etsuro Kato, Shinichiro Fujimoto, Yuko Kawaguchi, Rie Matsumori, Kazuhisa Takamura, Katsumi Miyauchi, Sweatkar Rani, Agarwal Mukta, Giannopoulos Andreas, Kanako Kumamaru, Rybicki Frank, Hiroyuki Daida, Retrospective Evaluation of CT Angiography Transluminal Attenuation Gradient for the Detection of Compromised Fractional Flow Reserve, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Sendai, Japan 2016. 3
137. 李慶賢、隈丸加奈子、藤本進一郎、高村和久、川口裕子、木暮陽介、代田浩之、青木茂樹, 流体構造連成解析を用いた冠動脈 CT-FFR 算出ソフトウェアの再現性の検討, SAMI2016、東京、2016. 7
138. 李慶賢、藤本進一郎、隈丸加奈子、山田想、川口裕子、土肥智貴、高村和久、加藤悦郎、木暮陽介、青木茂樹、代田浩之, 流体構造連成解析を用いた冠動脈 CT-FFR 算出ソフトウェアの再現性の検討, 第10回 SCCT 研究会、東京、2016. 9
139. 高村 和久、藤本進一郎、比企 誠、川口 裕子、加藤 悦郎、青島 千紘、隈丸 加奈子、代田 浩之, The usefulness of low radiation dose subtraction coronary CT angiography for patients with calcification using 320 ADCT, , 第64回日本心臓病学会学術集会, 東京, 2016. 9
140. 加藤 悦郎、藤本 進一郎、高村 和久、川口 裕子、青島 千紘、比企 誠, 隈丸 加奈子、代田 浩之, 冠動脈 CT による 1 回転撮影像から解析した Transluminal attenuation gradient (TAG) の意義. : 第64回日本心臓病学会学術集会, 東京, 2016. 9
141. 藤本 進一郎、高村和久、川口 裕子、加藤 悦郎、比企 誠、土肥 智貴、隈丸 加奈子、代田浩之, Development of comprehensive plaque evaluation by coronary CT angiography, 第48回日本動脈硬化学会学術集会, 東京, 2016. 7 (シンポジウム)
142. Azusa Murata, Takatoshi Kasai, Takao Kato, Shoko Suda, Hiroki Matsumoto, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida, Relationship between Blood Urea Nitrogen-to-Creatinine ratio at Hospital Admission and Long-term Post-discharge Mortality in Patients with Acute Decompensated Heart Failure, 日本循環器学会、仙台、2016. 3. 19
143. Azusa Murata, Takatoshi Kasai, Takao Kato, Shoko Suda, Hiroki Matsumoto, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida, Relationship between Blood Urea Nitrogen-to-Creatinine ratio at Hospital Admission and Long-term Post-discharge Mortality in Patients with Acute Decompensated Heart Failure, 日本心臓病学会、東京、2016. 9. 25

(形成外科)

144. The 13th Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (2016, Kanazawa)

Tanaka R, Kado M, Fujimura S, Arita K, Tono-Okada K, Hagiwara H and Mizuno H. Challenges of stem cell therapy clinical trial for non-healing extremity wounds.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

Efficacy and safety evaluation of QQC cultured ex vivo expanded peripheral blood stem cell therapy prior to clinical translation.

145. 第59回日本形成外科学会総会・学術集会 (2016/4/13-15, 福岡国際会議場)
田中 里佳、藤村 聡、有田 佳代、門 真起子、市川 佑一、萩原 裕子、水野 博司

再生新法下における難治性潰瘍に対する次世代血管再生治療の研究再開までの道のりと今後の展望 (シンポジウム)

146. 第8回日本下肢救済・足病学会学術集会 (2016/5/27-28, 虎ノ門ヒルズフォーラム)

門 真起子、田中里佳、岡田佳世子、有田佳代、藤村 聡、向後泰司、水野博司
細胞治療が担う創傷治癒の役割 (シンポジウム)

147. 20th Annual Scientific Meeting of Indonesian Association of Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgeons (2016/5/26-28, Makassar, Indonesia)

Hiroshi Mizuno. The future of adipose-derived stem cells in plastic surgery
Rica Tanaka. Vascular Stem Cells Therapy for Tissue Regeneration. シンポジウム

Rica Tanaka. Instructional Course on Stem-Cell. Instructional Course,

Rica Tanaka. Introduction to Bone Marrow Driven Stem Cells

Rica Tanaka. Harvesting and Isolation of Bone Marrow Stem Cells

Rica Tanaka. Clinical Application of Bone Derived Marrow Stem Cells

148. First Indonesian International Stem Cells Conference (2016/5/28-29, Makassar, Indonesia)

Rica Tanaka. Clinical Application of Bone Derived Marrow Stem Cells

149. The 1st Makassar International Conference on Stem Cells and Regenerative Medicine (2016, Makassar, Indonesia)

Hiroshi Mizuno. Role of adipose derived stem cells in tissue repair and regeneration

150. 3rd Chinese Academic Conference On Adipose Plastic Surgery & Symposium On Adipose Transplantation (2016, Shanghai, Republic of China)

Hiroshi Mizuno. My 15 years experiences with adipose-derived stem cells.

151. ISSCR 2016 (2016/6/22-25, San Francisco)

Rica Tanaka. EFFICACY AND SAFETY EVALUATION OF QQC CULTURED EX VIVO EXPANDED PERIPHERAL BLOOD STEM CELL THERAPY PRIOR TO CLINICAL TRANSLATION

152. 1st Congress of Diabetic Limb Salvage in Asia (2016/7/8-9, Seoul, Korea)

Rica Tanaka, Makiko Kado, Kayo Arita, Satoshi Fujimura, Kayoko Okada, Hiroko Hagiwara, Hiroshi Mizuno. Next Generation Autologous Vascular Stem Cell Therapy for Diabetic Limb Salvage. シンポジウム

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

153. 第8回日本創傷外科学会総会・学術集会 (2016/7/21-22 ホテルメトロポリタン東京池袋) 田中 里佳、門 真起子、有田 佳代、藤村 聡、萩原 裕子、向後 泰司、水野 博司 細胞再生治療の奥義：実用化を見据えた技術の確立 (パネルディスカッション)
154. 第25回日本形成外科学会基礎学術集会 (2016/9/15-16 ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター 大阪)
- ・田中里佳、門 真起子、藤村 聡、有田 佳代、岡田 佳世子、向後 泰司、水野 博司 血管再生治療が担う血管形成の役割とその限界 (パネルディスカッション)
 - ・門 真起子、田中 里佳、沈 燕、金澤 成行、岡田 佳世子、水野 博司 糖尿病皮膚組織 Macrophage 活性異常による創傷治癒遅延分子メカニズムの解明
 - ・萩原 裕子、田中 里佳、東端 晃、小川 志保、金澤 成行、水野 博司 血管内皮前駆細胞を含む末梢血単核球の微小重力環境下における培養法の確立
 - ・平野 理恵、田中 里佳、播野 裕子、水野 博司 無血清体外培養増幅膠原病マウス血管内皮前駆細胞の機能解析
 - ・Maxim Geeroms, Rica Tanaka, Michiko Takahashi, Kayoko Okada, Rie-Ito Hirano, Hiroshi Mizuno.
Effect of quality and quantity control cultured murine EPCs in fat grafting.
 - ・藤村 聡、田中 里佳、向後 泰司、水野 博司 形成外科領域における再生医療臨床研究の新法対応～その対策と課題
 - ・田島聖士、飛田護邦、堀越久子、大下高志、田中里佳、水野博司 組織再生修復における脂肪組織幹細胞の直接的効果と間接的効果
155. ASPS 2016 (2016/9/23-27, LA, USA) Rica Tanaka. New Generation Peripheral Blood Stem Cell Therapy for Non-healing Extremity Wounds.
156. 第31回日本臨床リウマチ学会 (2016/10/29-30 京王プラザホテル)
- 田中 里佳、平野 理恵、播野 裕子、有田 佳代、藤村 聡、水野 博司 難治性四肢潰瘍を対象とした新・血管組織再生治療の開発
157. 第21回日本臨床毛髪学会学術集会 (2016/11/26-27 はまぎんホール ヴィアマール) 田中 里佳、藤村 聡、水野 博司 再生医療臨床研究の新法対応～その対策と課題 (招待講演)
158. 第64回日本心臓病学会 (2016年 東京国際フォーラム)
門真起子、田中里佳、有田佳代、藤村 聡、向後泰司、水野博司
CLI に対する次世代型血管・組織再生治療の開発 (パネルディスカッション)
159. 第16回日本再生医療学会総会 (2017年 仙台)
- ・田中里佳、藤村 聡、有田佳代、萩原裕子、平野理恵、門真起子、水野博司 難治性四肢潰瘍患者を対象とした新規血管・組織再生治療法の開発 (シンポジウム)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

・萩原裕子、田中里佳、東端 晃、小川志保、金澤成行、水野博司
血管内皮前駆細胞の培養効率化を目指した微小重力環境下生体外増幅培養法の確立

・Geeroms M, Tanaka R, Moustapha H and Mizuno H.

QqC cultured endothelial progenitor cells (EPC) improve the fat graft vascularization and survival.

・平野理恵、田中里佳、萩原裕子、播野裕子、水野博司

膠原病マウス無血清生体外増幅培養血管内皮前駆細胞の機能解析

・田中里佳

アカデミアにおける再生医療研究開発の現状と対策（ランチョンセミナー）

(生化学第2)

160. *鈴木 香: エンドトキシンによる宿主細胞応答に対する生体防御ペプチドの制御機構. 第22回日本エンドトキシン・自然免疫研究会 最優秀賞受賞講演, 鹿児島, Dec 3, 2016.
161. *Suzuki K, Murakami T, Nagaoka I: The mechanism for a cathelicidin peptide LL-37-mediated LPS uptake by liver sinusoidal endothelial cells. 14th Biennial Meeting International Endotoxin and Innate Immunity Society, Abstract book PO 63, Hamburg, Sept 24, 2016.
162. Hu Z, Suzuki K, Murakami T, Reich J, Tamura H, Nagaoka I: Neutrophil extracellular traps (NETs) induces the IL-1 β production by macrophages in combination with lipopolysaccharide. 14th Biennial Meeting International Endotoxin and Innate Immunity Society, Abstract book PO 17, Hamburg, Sept 23, 2016.
163. 村上泰介, 鈴木 香, 森林淑子, 長岡 功: 抗菌ペプチドLL-37によるマスト細胞の活性化機序. 第89回日本生化学会大会 プログラム 3P-036, 仙台, Sep 27, 2016.
164. Hu Zhongshuang, 鈴木 香, 田村 弘志, 長岡 功: Neutrophil extracellular traps (NETs) induces the IL-1beta production by macrophages. 日本細菌学雑誌 71: 150, 第89回日本細菌学会総会, 大阪, Mar 2016.
165. *鈴木 香, 村上泰介, 胡 忠双, 長岡 功: 肝類洞内皮細胞による血液浄化作用に対するヒト生体防御ペプチドLL-37の効果. 第2回日本血管血流学会学術集会. 抄録集, 14, 東京, Nov 2015.
166. *Suzuki K, Murakami T, Moribayashi T, Nagaoka I: A novel mechanism for the human host defense peptide LL-37-Induced mast cell degranulation. 48th Annual Meeting of the Society for Leukocyte Biology -Immunity in Health and Disease, Abstract book 17, Raleigh, Sep 2015.
167. *Nagaoka I, Hu Z, Suzuki K, Tamura H: Potential effects of human antimicrobial peptide LL-37 on macrophage pyroptosis and sepsis 第88回日本薬理学会年会, プログラム S1F-15-4, 名古屋, Mar 2015.
168. 胡 忠双, 鈴木 香, 田村弘志, 長岡 功: マクロファージ系細胞におけるIL-1 β 産生に対するNETs (neutrophil extracellular traps)の作用. 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会合同大会 プログラム 3P1132, 神戸, Dec

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 2015.
169. *鈴木 香, 村上泰介, 胡 忠双, 長岡 功: 肝類洞内皮細胞による血液浄化作用に対するヒト生体防御ペプチド LL-37 の効果. 第 2 回日本血管血流学会学術集会. 抄録集, 14, 東京, Nov 2015.
170. Hu Z, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I: The role of NETs (neutrophil extracellular traps) in the IL-1 β production by macrophages. 第 98 回日本細菌学会関東支部会総会プログラム・抄録集 41, 東京, Oct 2015.
171. Hu Z, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I: NETs (neutrophil extracellular traps) induces the the IL-1b production by macrophages. 第 21 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会 プログラム・抄録集: 21, 東京, Dec 2015.
172. *Suzuki K, Murakami T, Moribayashi T, Nagaoka I: A novel mechanism for the human host defense peptide LL-37-Induced mast cell degranulation. 48Th Annual Meeting of the Society for Leukocyte Biology -Immunity in Health and Disease, Abstract book 17, Raleigh, Sep 2015.
173. Murakami T, Hu Z, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I: Mechanism for the lipopolysaccharide-induced release of high mobility group nucleosome-binding domain-1 from murine macrophage like RAW264.7. 48Th Annual Meeting of the Society for Leukocyte Biology -Immunity in Health and Disease, Abstract book 85, Raleigh, Sep 2015.
174. Hu Z, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I: NETs (neutrophil extracellular traps) induce IL-1 β production by macrophages in the presence of lipopolysaccharide. 48Th Annual Meeting of the Society for Leukocyte Biology -Immunity in Health and Disease, Abstract book 115, Raleigh, Sep 2015.
175. 胡 忠双, 村上泰介, 鈴木 香, 田村 弘志, 長岡 功: NETs (Neutrophil extracellular traps) と LPS による共刺激がマクロファージからの IL-1 β 放出を誘導する. 第 62 回トキシンシンポジウム予稿集, 11, 志摩, Jul 2015.
176. 細田浩司, 胡 忠双, 田村弘志, 長岡 功: 炎症増強因子 TREM-1 のリガンド同定の試み. 第 62 回トキシンシンポジウム予稿集, 11, 志摩, Jul 2015.
177. 鈴木 香, 村上泰介, 長岡 功: ヒト抗菌ペプチド LL-37 によるかゆみ誘発 (マスト細胞の活性化). 第 62 回トキシンシンポジウム予稿集, 15, 志摩, Jul 2015.
178. 村上泰介, 田村弘志, 長岡 功: LPS 刺激 RAW264.7 細胞からの HMGN1 の放出機序. 第 26 回日本生体防御学会学術総会 講演抄録集 55, 東京, Jul 2015.
179. Hu Z, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I: The role of NETs (neutrophil extracellular traps) in the IL-1 β production by macrophages. 第 26 回日本生体防御学会学術総会 講演抄録集 54, 東京, Jul 2015.
180. *鈴木 香, 田村弘志, 長岡 功: Cell surface HS proteoglycans mediate the uptake of antimicrobial peptide LL-37-LPS complex by LSECs. 日本細菌学雑誌 70: 231, 第 88 回日本細菌学会総会, 岐阜, Mar 2015.
181. 胡 忠双, 鈴木 香, 田村弘志, 長岡 功: NETs (neutrophil extracellular traps) induce the IL-1 β production by macrophages. 日本細菌学雑誌 70: 232, 第 88 回日本細菌学会総会, 岐阜, Mar 2015.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

182. *鈴木 香, 村上泰介, 胡 忠双, 細田浩司, 長岡 功: Cathelicidin ファミリーの抗菌ペプチド LL-37 によるエンドトキシン除去作用. 第 20 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会 プログラム・抄録集: 45, 東京, Dec 2014.
183. *長岡 功: 機能性ペプチド (特に生体防御ペプチド) の構造と多様性. ペプチド研究の新潮流. “未来へのバイオ技術” 勉強会. バイオインダストリー協会 (JBA) バイオセミナーシリーズ. 東京, Nov 2014.
184. *長岡 功, 鈴木 香: ヒト抗菌ペプチド LL-37 による血管内皮細胞の LPS に対する反応性の制御. 第 1 回日本血管血流学会学術集会. 抄録集, 3, 東京, Nov 2014.
185. *Suzuki K, Hu Z, Tamura H, Nagaoka I: Human host defense peptide LL-37 enhances the LPS uptake by endothelial cells without cell activation: a possible role in the LPS clearance. Joint Meeting of the Society for Leukocyte Biology and the International Endotoxin and Innate Immunity Society, Abstract book S25, Salt Lake City, Oct 2014.
186. *鈴木 香, 胡 忠双, 田村 弘志, 長岡 功: 血管内皮細胞による LPS の取り込みに対するヒト抗菌ペプチド LL-37 の促進作用. 第 61 回トキシンシンポジウム予稿集, 68-72, 鳴門, Sep 2014.
187. 胡 忠双, 村上泰介, 鈴木 香, 田村弘志, 長岡 功: 抗菌ペプチド LL-37 によるマクロファージのピロトーシス制御. 第 20 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会 プログラム・抄録集: 22, 東京, Dec 2014.
188. 多田浩之, 松下健二, 長岡 功, 高田春比古: Porphyromonas gingivalis ジンジパインは IL-33 誘導を介してヒト歯肉上皮細胞の CAP18/LL-37 産生をダウンレギュレーションする. 第 20 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会 プログラム・抄録集: 52, 東京, Dec 2014.
189. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I: Antimicrobial peptide LL-37 inhibits pyroptosis of macrophages and protects sepsis in a murine model. Joint Meeting of the Society for Leukocyte Biology and the International Endotoxin and Innate Immunity Society, Abstract book S57, Salt Lake City, Oct 2014.
190. 細田浩司, 田村弘志, 長岡 功: C/EBP 転写調節遺伝子群によるヒト単球・マクロファージ系細胞における TREM-1 の転写制御. 生化学 86: 187, 第 87 回日本生化学会大会, 京都, Oct 2014.
191. 村上泰介, 田村弘志, 長岡 功: LPS 刺激によるマクロファージ細胞からの HMGN1 の放出機構. 生化学 86: 188, 第 87 回日本生化学会大会, 京都, Oct 2014.
192. 胡 忠双, 村上 泰介, 鈴木 香, 田村 弘志, 長岡 功: 抗菌ペプチド LL-37 によるマクロファージの細胞死ピロトーシスの制御. 第 61 回トキシンシンポジウム予稿集, 41-43, 鳴門, Sep 2014.
193. 胡 忠双, 村上泰介, 鈴木 香, 田村弘志, 長岡 功: マクロファージの pyroptosis に対する抗菌ペプチド LL-37 の効果. 第 23 回日本 Cell Death 学会学術集会プログラム・抄録集: 59, 東京, Jul 2014.
194. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I: The effects of LL-37 on the LPS/ATP-induced pyroptosis of macrophages and a murine sepsis model. 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 本細菌学会雑誌 69: 137, 第 87 回日本細菌学会総会, 東京, Mar 2014.
195. * Suzuki K, **Nagaoka I**: Antimicrobial peptide LL-37 enhances the LPS uptake without cell activation in endothelial cells. 日本細菌学会雑誌 69: 185, 第 87 回日本細菌学会総会, 東京, Mar 2014.
196. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, **Nagaoka I**: The effects of antimicrobial peptide LL-37 on the pyroptosis of macrophages and a polymicrobial sepsis model. The 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology 2014, Program & Abstracts 58, Tokyo, Mar 2014.
197. * Suzuki K, Tamura H, **Nagaoka I**: Human antimicrobial peptide LL-37 enhances the LPS uptake without cell activation in endothelial cells. The 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology 2014, Program & Abstracts 59, Tokyo, Mar 2014.
198. Murakami T, Tamura H, **Nagaoka I**: Characterization of release mechanism of HMGN1, an alarmin, from LPS-stimulated RAW264.7 cells. The 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology 2014, Program & Abstracts 64, Tokyo, Mar 2014.
199. Hosoda H, Tamura H, **Nagaoka I**: Regulation of TREM-1 gene expression in LPS-stimulated human monocytes/macrophages. The 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology 2014, Program & Abstracts 65, Tokyo, Mar 2014.
- (免疫学)
200. **Miyake S**. 招待講演: Gut controls CNS autoimmunity. The 9th IMS-JSI International Symposium on Immunology, Kanagawa, 26 June, 2014
201. **Miyake S**. 招待講演: Immunological assessment for clinical trial of invariant NKT cell ligand. International symposium, Annual meeting of Japanese colleges of Rheumatology, Nagoya, 24 April, 2015
202. **Miyake S**. 招待講演: Innate control of autoimmunity. NCNP Neuroimmunology International Symposium, Tokyo, 10 June, 2015
203. **Miyake S**. 招待講演: Immunoregulation by gut environmental factors. The Inaugural Asia-Pacific School of Neuroimmunology Meeting, Tokyo, 30 August, 2015
204. **Miyake S**. 招待講演: Gut microbiota and autoimmunity. The 13th International Workshop on Autoantibodies and Autoimmunity, Kyoto, 12 October, 2016
205. D Noto, M Araki, W Sato, T Okamoto, M Murata, **S Miyake**, T Yamamura. First-in-human phase 1 study of invariant NKT cell ligand OCH. 2014 JOINT ACTRIMS-ECTRIMS MEETING, Boston, September, 2014
206. Atsushi Kadowaki, **Sachiko Miyake**, Asako Chiba, Takashi Yamamura. Regulation of Experimental Autoimmune Encephalomyelitis by Gut Resident T cells. XII International Congress of Neuroimmunology (ISNI), Mainz, Germany, 9/13th November, 2014
207. Asako Chiba, Naoto Tamura, Eri Hayashi, Ran Matsudaira, Yoshinari

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- Takasaki, **Sachiko Miyake**. Reduction of MAIT Cell Frequency Associated with Reduced Cell Proliferation and Enhanced Cell Death in Systemic Lupus Erythematosus. ACR 2014, Boston Convention and Exhibition Center, Boston (USA), November 18, 2014
208. Eri Hayashi, Asako Chiba, Mie Kitagaichi, Ken Yamaji, Naoto Tamura, Yoshinari Takasaki, **Sachiko Miyake**. Involvement of IL-17-producing MAIT cells in the pathogenesis of rheumatoid arthritis. ACR 2014, Boston Convention and Exhibition Center, Boston, USA, November 18, 2014
209. Masakazu Nakamura, Yasuko Hirakawa, Manabu Araki, Youwei Lin, Wakiro Sato, Tomoko Okamoto, Miho Murata, **Sachiko Miyake**, Takashi Yamamura. IL-6 Signal Blockade May Suppress Plasmablast-mediated Inflammation in Multiple Sclerosis Through Skewing its Differentiating Pathways. FOCIS 2015, San Diego, USA, June 25, 2015
210. Atsushi Kadowaki, **Sachiko Miyake**, Ryoko Saga, Takashi Yamamura. Gut Intraepithelial Autoimmune CD4+ T Cells Exhibit a Potential to Suppress Extraintestinal Autoimmunity in LAG-3 Dependent Manner. FOCIS 2015, San Diego, USA, June 25, 2015
211. Asako Chiba, Ken Yamaji, Naoto Tamura, Yoshinari Takasaki, **Sachiko Miyake**. Hyperactivated State of Mucosal Associated Invariant T Cells Due to Activation Potency of Monocytes in Systemic Lupus Erythematosus. 2015 ACR/ARHP Annual Meeting, San Francisco, USA, November 10, 2015
212. Asako Chiba, Naoto Tamura, Kazuori Yoshikiyo, Goh Murayama, Mie Kitagaichi, Ken Yamaji, Yoshinari Takasaki, **Sachiko Miyake**. Activation Status of Mucosal-Associated Invariant T Cells Reflects Disease Activity of Systemic Lupus Erythematosus. FOCIS 2016, Boston, USA, June 22-25, 2016
213. Reiko Saika, Hiroshi Sakuma, Daisuke Noto, Shuhei Yamaguchi, Takashi Yamamura, **Sachiko Miyake**. MicroRNA-101a Regulates Microglial Development and Inflammation. FOCIS 2016, Boston, USA, June 22-25, 2016
214. Atsushi Kadowaki, Ryoko Saga, **Sachiko Miyake**, Takashi Yamamura. Gut Intraepithelial Autoreactive CD4+ T Cells Influenced by Environment Suppress Central Nervous System Autoimmunity Via LAG-3. FOCIS 2016, Boston, USA, June 22-25, 2016
215. Goh Ebata Murayama, Asako Chiba, Hirofumi Amano, Ken Yamaji, Naoto Tamura, **Sachiko Miyake**. Role of Mucosal-associated Invariant T (MAIT) Cells In Lupus Dermatitis. The 13th International Workshop on Autoantibodies and Autoimmunity, Kyoto, October 12, 2016
216. Asako Chiba, Goh Murayama, Mie Kitagaichi, Naoko Tamura, Ken Yamaji, Yoshinari Takasaki, **Sachiko Miyake**. Activation Status of Mucosal-Associated Invariant T Cells Sensitive Reflects Disease Activity of Systemic Lupus Erythematosus. 2016 ACR/ARHP Annual Meeting, Washington, DC, USA, November 15, 2016
217. Goh Murayama, Asako Chiba, Hitomi Toda, Ken Yamaji, Naoto Tamura, **Sachiko**

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- Miyake.** Protective Role of Mucosal-Associated Invariant T(MAIT) Cells in an Imiquimod-Induced Psoriasis Model. 2016 ACR/ARHP Annual Meeting, Washington, DC, USA, November 13, 2016
218. Goh Murayama, Asako Chiba, Hirofumi Amano, Ken Yamaji, Naoto Tamura, **Sachiko Miyake.** The Role of Mucosal-Associated Invariant T(MAIT) Cells in Lupus Dermatitis. 2016 ACR/ARHP Annual Meeting, Washington, DC, USA, November 14, 2016
219. **三宅幸子**：招待講演：自然免疫 ABC. 第 26 回日本神経免疫学会学術集会, 金沢、9 月 6 日、2014
220. **三宅幸子**：招待講演：自己免疫疾患における腸内細菌叢解析. 第 42 回日本臨床免疫学会総会, 新宿、9 月 26 日、2014
221. **三宅幸子**：招待講演：腸管免疫による自己免疫制御. 第 41 回日本小児栄養消化器肝臓学会, 東京、10 月 12 日、2014
222. **三宅幸子**：招待講演：腸内細菌による免疫調節－最近の話題－. 第 11 回順天堂 K a m p o 先端治療研究会, 本郷、10 月 20 日、2014
223. **三宅幸子**：招待講演：ヒトの免疫性疾患に關与する免疫細胞の解析. ヒューマンイムノロジーフォーラム 2014, 京都、12 月 13 日、2014
224. **三宅幸子**：招待講演：MS における B 細胞の役割. 第 11 回多発性硬化症/視神経脊髄炎フォーラム, 六本木、12 月 14 日、2014
225. **三宅幸子**：招待講演：腸内細菌による免疫調節. 第 33 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 東京、2 月 27 日、2015
226. **三宅幸子**：招待講演：腸管免疫と自己免疫. 第 59 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 名古屋、4 月 25 日、2015
227. **三宅幸子**：招待講演：リウマチ医のための免疫学 ABC. 第 59 回日本リウマチ学会総会・学術集会、名古屋、4 月 24 日、2015
228. **三宅幸子**：招待講演：腸管免疫と自己免疫. 第 6 回東京千葉免疫研究会, 千葉、6 月 3 日、2015
229. **三宅幸子**：招待講演：腸管免疫と神経炎症. 千里ライフサイエンスセミナー, 大阪、7 月 8 日、2015
230. **三宅幸子**：招待講演：腸管免疫と多発性硬化症. 第 13 回岩手県神経免疫疾患セミナー, 盛岡、9 月 11 日、2015
231. **三宅幸子**：招待講演：腸管免疫による自己免疫調整. リウマチ膠原病・よつやセミナー, 東京、9 月 26 日、2015
232. **三宅幸子**：招待講演：腸内細菌と自己免疫疾患. 日本大学大学院医学研究科特別講義, 東京、10 月 1 日、2015
233. **三宅幸子**：招待講演：免疫の基礎と最近のトピックス～腸管免疫の話題. 第 15 回仙台 MS セミナー, 仙台、10 月 16 日、2015
234. **三宅幸子**：招待講演：腸内細菌叢と自己免疫. 第 43 回日本臨床免疫学会総会、神戸、10 月 22 日、2015
235. **三宅幸子**：招待講演：腸管在住リンパ球による免疫調節. 第 15 回難治性免疫疾患先端治療開発研究会、東京、11 月 27 日、2015
236. **三宅幸子**：招待講演：多発性硬化症と腸管免疫. 第 38 回日本分子生物学会年

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 会・第 88 回日本生化学会大会 合同大会、神戸、12 月 2 日、2015
237. 三宅幸子：招待講演：よくわかる免疫学. 第 12 回 MS NMO フォーラム、東京、12 月 13 日、2015
238. 三宅幸子：招待講演：リウマチ医のための免疫学 ABC. 日本リウマチ学会総会・学術集会、横浜、4 月 21 日、2016
239. 三宅幸子：招待講演：多発性硬化症における腸内細菌叢解析. 第 57 回日本神経学会学術大会、神戸、5 月 20 日、2016
240. 三宅幸子：招待講演：自己免疫疾患と腸内細菌. 第 20 回腸内細菌学会、東京、6 月 10 日、2016
241. 三宅幸子：招待講演：腸管での免疫調節と炎症性疾患. 第 34 回日本骨代謝学会学術集会/第 3 回アジア太平洋骨代謝学会議、大阪、7 月 22 日、2016
242. 三宅幸子：招待講演：炎症性疾患と MAIT 細胞. 第 44 回日本臨床免疫学会総会、東京、9 月 10 日、2016
243. 三宅幸子：招待講演：免疫応答を制御する免疫システムと免疫療法への応用. 第 23 回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム、石川、10 月 8 日、2016
244. 三宅幸子：招待講演：腸と免疫. 第 3 回 JCR ベーシックリサーチカンファレンス、東京、10 月 15 日、2016
245. 三宅幸子：招待講演：リウマチの治療薬を理解するための免疫学. 第 1 回自己免疫セミナー、東京、11 月 2 日、2016
246. 林絵利、千葉麻子、北垣内みえ、中嶋志穂子、草生真規夫、関谷文男、多田久里守、山路健、田村直人、高崎芳成、三宅幸子. 関節リウマチと強直性脊椎炎における免疫病態の相違に関する研究. 第35回日本炎症・再生医学会 万国津梁館 沖縄 7.2.2014
247. 門脇淳、三宅幸子、千葉麻子、山村隆. 腸管ミエリン反応性T細胞は実験的自己免疫性脳脊髄炎 (EAE) をLAG-3によって制御する. 第26回日本神経免疫学会学術集会 金沢 9.4.2014
248. 能登大助、荒木学、佐藤和貴郎、岡本智子、村田美穂、三宅幸子、山村隆. 多発性硬化症を対象とした免疫修飾薬OCHの医師主導治験. 第26回日本神経免疫学会学術集会 金沢 9.5.2014
249. 門脇淳、三宅幸子、千葉麻子、佐賀亮子、山村隆. 腸管 T 細胞による自己免疫制御. 第 42 回日本臨床免疫学会総会 新宿 9.26.2014
250. 北垣内みえ、千葉麻子、林絵利、中嶋志穂子、多田久里守、田村直人、山路健、高崎芳成、三宅幸子. 関節リウマチ患者における自然リンパ球の解析. 第 42 回日本臨床免疫学会総会 新宿 9.25.2014
251. IWABUSHI Kazutya, SHIMANO Kentaro, SATOH Masashi, GILFILLAN Susan, Miyake Sachiko, VAN KAER Luc, YAMAMURA Takashi: Atherosclerotic lesion development in CD1d/MR1/apolipoprotein E-deficient mice. The 43rd Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2014. Kyoto, Japan, 12.10, 2014
252. CHIBA Asako, TAMURA Naoto, TAKASAKI Yoshinari, Miyake Sachiko : Involvement of MAIT cells in human autoimmune diseases. The 43rd Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2014. Kyoto, Japan, 12.10, 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

253. NAKAJIMA Akihito, NEGISHI Naoko, TSURUI Hiromichi, NANNO Masanobu, YAGITA Hideo, OKUMURA Ko, Miyake Sachiko, HABU Sonoko: Commensal bacteria regulate thymic Aire expression. The 43rd Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2014. Kyoto, Japan, 12.10, 2014
254. KADOWAKI Atushi, Miyake Sachiko, CHIBA Asako, SAGA Ryoko, YAMAMURA Takashi: Regulation of organ specific autoimmunity by gut resident T cells. The 43rd Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2014. Kyoto, Japan, 12.10, 2014
255. LIN Youwei, Miyake Sachiko, YAMAMURA Takashi: Inverse vaccination for autoimmune diseases by sensitization of superior dominant peptide through efficient induction of functionally stable regulatory T cells possessing high antigen-specificity. The 43rd Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2014. Kyoto, Japan, 12.10, 2014
256. 北垣内みえ、千葉麻子、中嶋志穂子、林絵利、山路健、田村直人、高崎芳成、三宅幸子. 全身性エリテマトーデス患者における免疫担当細胞とCCR5の解析. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会 名古屋 4.23.2015
257. 中嶋志穂子、千葉麻子、林絵利、北垣内みえ、草生真規雄、今高之、関谷文男、小笠原倫大、山路健、田村直人、高崎芳成、三宅幸子. リウマチ性多発筋痛症における自然リンパ球. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会 名古屋 4.23.2015
258. 林絵利、千葉麻子、北垣内みえ、中嶋志穂子、草生真規雄、関谷文男、多田久里守、小笠原倫大、山路健、田村直人、高崎芳成、三宅幸子. MAIT細胞の慢性炎症性関節炎における関与について. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会 名古屋 4.23.2015
259. 能登大介、荒木学、佐藤和貴郎、林幼偉、岡本智子、村田美穂、三宅幸子、山村隆. 免疫修飾薬OCHの医師主導治験におけるバイオマーカー解析. 第56回日本神経学会学術大会 新潟 5.20.2015
260. 林幼偉、三宅幸子、山村隆. Inverse vaccination for multiple sclerosis model by superior dominant peptide. 第56回日本神経学会学術大会 新潟 5.21.2015
261. 雑賀玲子、佐久間啓、能登大介、山村隆、三宅幸子. IL-34 induces differentiation of microglia-like cell from hematopoietic cells. 第56回日本神経学会学術大会 新潟 5.21.2015
262. 中村雅一、荒木学、松岡貴子、佐藤和貴郎、林幼偉、岡本智子、村田美穂、荒浪利昌、三宅幸子、山村隆. Mechanistic insight into IL-6 signal blockade therapy for multiple sclerosis. 第56回日本神経学会学術大会 新潟 5.22.2015
263. 千葉麻子、三宅幸子. 11カラーフローサイトメーターを用いたヒト末梢血単核球の解析. 第25回日本サイトメトリー学会学術集会 東京 7.12.2015
264. 雑賀玲子、佐久間啓、能登大介、佐賀亮子、山口修平、山村隆、三宅幸子. miR-101aはミクログリア様細胞の分化とM1M2シフトを調節する. 第27回日本神経免疫学会学術集会 岐阜 9.15.2015
265. 佐久間啓、鈴木智典、五十嵐鮎子、神山邦子、林雅晴、三宅幸子. CD11b陽性細胞を除去した混合グリア培養におけるミクログリアの再増殖. 第27回日本神経

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- 免疫学会学術集会 岐阜 9. 15. 2015
266. 門脇淳、佐賀亮子、佐藤和貴郎、林幼偉、三宅幸子、山村隆. 腸管特異的 CD4+T 細胞による中枢神経炎症性疾患の制御. 第 27 回日本神経免疫学会学術集会 岐阜 9. 15. 2015
267. 雑賀玲子、佐久間啓、能登大介、佐賀亮子、山口修平、山村隆、三宅幸子. miR-101a は MAPK phosphatase-1 を標的とし、ミクログリア様細胞の分化と活性化を調節する. 第43回日本臨床免疫学会総会 神戸 10. 22. 2015
268. 芳賀慶一、千葉麻子、澁谷智義、長田太郎、石川大、小谷知弘、渡辺純夫、三宅幸子. 潰瘍性大腸炎における MAIT 細胞に関する検討. 第43回日本臨床免疫学会総会 神戸 10. 22. 2015
269. 門脇淳、佐賀亮子、佐藤和貴郎、林幼偉、三宅幸子、山村隆. 腸管特異的 CD4+T 細胞による中枢神経炎症疾患の制御. 第43回日本臨床免疫学会総会 神戸 10. 22. 2015
270. CHIBA Asako, MURAYAMA Go, TAMURA Naoto, TAKASAKI Yoshinari, Miyake Sachiko. : Hyperactivation of MAIT cells due to activation potency of lupus monocytes. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2015. Sapporo, Japan, 11. 18, 2015
271. KAMACHI Fumitaka, ISSHIKI Takuma, HARADA Norihiro, AKIBA Hisaya, Miyake Sachiko. : ICOS promotes group 2 innate lymphoid cell activation in lungs. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2015. Sapporo, Japan, 11. 18, 2015
272. SAKAGUCHI Keita, KAWSAKI Akemi, KAMACHI Fumitaka, CHIBA Asako, AKIBA Hisaya, SHIMIZU Toshiaki, Miyake Sachiko. : Breast milk conditions intestinal immune system and gut barrier of the infant. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2015. Sapporo, Japan, 11. 18, 2015
273. Keiichi Haga, Asako Chiba, Sachiko Miyake. : MAIT cells are activated and accumulated in the inflamed mucosa of ulcerative colitis. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2015. Sapporo, Japan, 11. 18, 2015
274. SAIKA Reiko, SAKUMA Hiroshi, NOTO Daisuke, SAGA Ryoko, YAMAMURA Takashi, MIYAKE Sachiko. : MicroRNA-101a regulates microglial morphology and inflammation. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2015. Sapporo, Japan, 11. 19, 2015
275. KADOWAKI Atushi, SAGA Ryoko, SATO Wakiro, Lin Yowei, MIYAKE Sachiko, YAMAMURA Takashi. : Regulation of CNS autoimmune diseases by the gut specific CD4+T cells. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2015. Sapporo, Japan, 11. 19, 2015
276. NOTO Daisuke, ARAKI Manabu, SATO Wakiro, Lin Youwei, MIYAKE Sachiko, YAMAMURA Takashi. : First-in-Human phase 1 study of invariant NKT cell ligand OCH. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2015. Sapporo, Japan, 11. 19, 2015
277. Lin Youwei, MIYAKE Sachiko, YAMAMURA Takashi. : Hybrid Treg possessed high

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- antigen-specificity and stabilized in under antigen stimulation. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2015. Sapporo, Japan, 11.19, 2015
278. NAKAJIMA Akihito, HABU Sonoko, MIYAKE Sachiko. : The effect of dietary fiber during pregnancy on Foxp3+tTregs of offspring. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2015. Sapporo, Japan, 11.19, 2015
279. 林絵利、三宅幸子 他 5 名. 強直性脊椎炎における MAIT 細胞の解析. 第 113 回日本内科学会総会・講演会 東京 4.16.2016.
280. 村川洋子、村島温子、金子佳代子、中川夏子、船久保ゆう、中島亜矢子、阿部麻美、窪田綾子、河野肇、三輪裕介、住田孝之、原岡ひとみ、三宅幸子、宮前多佳子. 日本リウマチ学会男女共同参画委員会の取り組み-男女共同参画に関するアンケート結果について II. 第60回日本リウマチ学会総会・学術集会 横浜 4.23.2016
281. 千葉麻子、田村直人、村山豪、北垣内みえ、山路健、高崎芳成、三宅幸子. MAIT 細胞の活性化状態は全身性エリテマトーデスの疾患活動性と病態を反映している. 第60回日本リウマチ学会総会・学術集会 横浜 4.21.2016
282. 雑賀玲子、佐久間啓、能登大介、佐賀亮子、山口修平、山村隆、三宅幸子. MicroRNA-101a regulates microglial morphology and phenotype. 第57回日本神経学会学術大会 神戸 5.18.2016
283. 池口亮太郎、佐藤和貴郎、岡本智子、村田美穂、清水優子、北川一夫、山村隆、三宅幸子. 慢性炎症性脱髄性多発神経炎における自然リンパ球に関する研究. 第57回日本神経学会学術大会 神戸 5.18.2016
284. 門脇淳、三宅幸子、佐賀亮子、千葉麻子、望月秀樹、山村隆. Gut intraepithelial myelin responsive CD4+T cells suppress CNS autoimmunity via LAG-3. 第57回日本神経学会学術大会 神戸 5.19.2016
285. 能登大介、佐藤和貴郎、荒木学、三宅幸子、林幼偉、岡本智子、村田美穂、山村隆. Investigator-Initiated Clinical Trail(first-in-human, Phase I) of invariant NKT cell ligand OCH. 第57回日本神経学会学術大会 神戸 5.20.2016
286. 村山豪、千葉麻子、山路健、田村直人、三宅幸子. ループモデルにおける MAIT細胞に関する解析. 第44回日本臨床免疫学会総会 東京 9.8.2016
287. Toda Hitomi, Murayama Goh, Chiba Asako, Miyake Sachiko: Protective role of mucosal-associated invariant T Cells in an imiquimod-induced psoriasis model. 第45回日本免疫学会、沖縄、12月5日、2016
288. Murayama Goh, Chiba Asako, Amano Hirofumi, Yamaji Ken, Tamura Naoto, Miyake Sachiko: Role of Mucosal-associated Invariant T(MAIT) Cells In Lupus Dermatitis. 第45回日本免疫学会、沖縄、12月5日、2016
289. Nomura Atsushi, Noto Daisuke, Murayama Goh, Chiba Asako, Miyake Sachiko: Innate immune response in the brain of lupus-prone FcyR II B-/-Yaa mice-implication to the mechanism of neuropsychiatric SLE. 第45回日本免疫学会、沖縄、12月5日、2016
290. Isshiki Takuma, Akiba Hisaya, Nakayama Masafumi, Harada Norihiro, Okumura Ko, Miyake Sachiko: TIM-3 regulates pulmonary fibrosis through apoptotic cell clearance. 第45回日本免疫学会、沖縄、12月7日、2016

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

291. Kamei Masato, Chiba Asako, Takashi Nagaishi, Haga Keiichi, **Miyake Sachiko**: MAIT cells exacerbate the disease course of oxazolone colitis. 第45回日本免疫学会、沖縄、12月7日、2016
- (脳神経内科)
292. **Hattori N.** Lecturer, Myoclonus in movement disorders: Movement disorder society of Sri Lanka (MDSSL): Launch and the Inaugural scientific congress, Feb. 12-13, 2016, Colombo, Sri Lanka
293. **Hattori N.** Lecturer, Pathomechanisms, Clinical Features, and Treatments for Parkinson's Disease, Basic Scientists Summer School - Suzhou Course 2016, The International Parkinson and Movement Disorder Society, MDS-AOS Education Program, Aug 4-6, 2016, Jiangsu, China
294. **Hattori N.** Speaker, Luncheon Symposium, Comparison of Ropinirole Controlled-and Immediate-release in Japanese Patients with Advanced Parkinson's Disease, 2017 TIC-PDMD, Mar 19, 2017, Taipei, Taiwan
295. **Hattori N.** Plenary, Genetics of movement disorders in clinical practice: Movement disorder society of Sri Lanka (MDSSL): Launch and the Inaugural scientific congress, Feb. 12-13, 2016, Colombo, Sri Lanka
296. **Hattori N.** Speaker, Genetics forms of Movement Disorders- hits from them provide us concepts of pathogenesis of nigral degeneration, MDS-AOS, Ambassador Program, Shanghai 2016(Fourth International Conference of PD and Movement Disorders Shanghai and the 2016 Ruijin International Congress on Translational Neurodegeneration in Shanghai), Shanghai Jiao-Tong University, National Educational Depart. Apr. 21-23, 2016, Shanghai, China
297. **Hattori N.** Speaker, Based on the pathogenesis of Parkinson's disease (PD), the current therapeutic strategies for PD, 5th memorial IBIC, July 29, 2016, National Center of Neurology and Psychiatry, Kodaira, Tokyo, Japan.
298. **Hattori N.** Speaker; Clinical; Gene products of monogenic forms for Parkinson's disease and their links to mitochondrial and protein degradation pathways, GEPD (Genetic Epidemiology of Parkinson Disease), Luxembourg 2016, 11th Annual Meeting, October 5th - 8th, Luxembourg
299. **Hattori N.** Speaker, Treatment of Parkinson's Disease, Plenary Session 1, 1st International Conference of Korean Movement Disorder Society KMDS, Oct. 28-30, 2016, Lotte Hotel Jeju, Jeju-do, Korea
300. **Hattori N.** Symposium: Parkinson's disease (PD), Genetics of PD and potential biomarkers, Movement disorder society of Sri Lanka (MDSSL): Launch and the Inaugural scientific congress, Feb. 12-13, 2016, Colombo, Sri Lanka
301. **服部信孝**. 口演、家族性パーキンソン病からみたパーキンソン病の病態解明の現状—CHCHD2 を中心に一、パーキンソン病病態解明の進歩と Disease Modifying Therapy, 【最新医学第 72 巻 6 号巻頭座談会】、コートヤードバイマリOTT 新大阪ステーション 19 階、2017 年 2 月 12 日、大阪
302. **服部信孝**. 口演、「オートファジー促進によるミトコンドリアクリアランス上昇薬理作用とする新たなパーキンソン病治療薬開発」、岡野拠点、AMED 疾患特異的 iPS 細胞を活用した難病研究事業の成果報告会、TKP 東京駅大手町カンファレンス

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- センター、2017年2月24日、東京
303. **服部信孝**. 講演、「神経難病の治療に関する最新情報」(パーキンソン病友の会福井県支部)、福井県済生会病院本館2階研修講堂、2016年4月10日、福井県
304. **服部信孝**. 講演、医療講演会「パーキンソン病の未来」、第38回定期総会・医療講演会、ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール、2016年4月24日、岐阜市
305. **服部信孝**. 講演「パーキンソン病の診療で押さえておくべきポイントについて」、第一回神経治療学会教育研修会、大阪大学中之島センター10F 佐治敬三メモリアルホール、2016年5月8日、大阪
306. **服部信孝**. 講演、MDS-AOSの今後のあり方 そして日本との関わり、MDSトピックス、第10回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres、2016年10月6日~8日、京都ホテルオークラ、京都
307. **服部信孝**. 講演、パーキンソン病の発症メカニズム 一病態解明から創薬へー、臨床研究支援業務従事者向け研究会(公益財団法人先端医療振興財団主催)、神戸臨床研究情報センター、2016年10月20日、神戸市
308. **服部信孝**. 講演、パーキンソン病の病態とその治療、新しいパーキンソン病治療を考える会、ホテルラングウッド新潟、2016年11月17日、新潟市
309. **服部信孝**. 講演、「パーキンソン病の治療 過去、現在、未来」、ハッピーフェイスセミナー in 横浜、ホテルモントレ横浜、2016年12月8日、横浜
310. **服部信孝**. 講演、同志社大学京田辺キャンパス訪知館、2016年12月15日、京都市
311. **服部信孝**. 講演、パーキンソン病の治療 過去・現在・未来、Happy Face Seminar in Kurume, 萃香園ホテル、2017年2月3日、久留米市
312. **服部信孝**. 講演、パーキンソン病の治療の up-to-date、ニュープロパッチ学術講演会、昭和大学病院中央党7F 研修室、2017年2月10日、東京
313. **服部信孝**. 講演、パーキンソン病の治療、過去・現在・未来、ハッピーフェイスセミナー in 甲信越、住友会館、2017年2月25日、東京
314. **服部信孝**. 講演、パーキンソン病における腸脳連関現象、パーキンソン病と消化管 ネットワーク研究会、ヒルトン大阪、2017年3月25日、大阪
315. **服部信孝**. 教育講演2、パーキンソン病の治療: 過去・現在・未来、第114回日本内科学会総会・講演会、東京フォーラム、平成29年4月14日(会期は4月14日~16日)、東京
316. **服部信孝**. 市民公開教育講演、「認知症と癌~その病態の類似性と違い~」、がんと認知症は逆相関か?~Quality of Death~、日本地域医療連携システム学会、第2回シンポジウム・市民公開教育講演、フクダ電子本郷新館、2016年12月25日、東京
317. **服部信孝**、波田野 琢、飯嶋 睦、平野 成樹、野川 茂、市民講座 「こんなときは神経内科に行こう!」、パーキンソン病の脳・神経の病気を知るセミナー in 東京、べるさーる渋谷ファースト、2016年4月、東京
318. **服部信孝**; 講演、「パーキンソン病にスマイルを: パーキンソン病と如何に向き合って生きているか?」、パーキンソン病の未来を語る、市民公開講座、神戸市勤労会館7階大ホール、2016年2月21日、神戸市
319. **服部信孝**. 市民公開講座、講師、「パーキンソン病との付き合い方」、パーキンソン病健康教室 in 岡山、(岡山旭東病院・パーキンソン病友の会岡山支部、共済)、岡山コンベンションセンター、2016年4月9日
320. **服部信孝**. 神経内科とは、「こんなときは神経内科に行こう!」 パーキンソ

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- ン病と脳・神経の病気を知るセミナーin 東京、後援 一般社団法人 日本神経学会、ベルサール渋谷ファースト、2016年4月3日、東京
321. **服部信孝**. シンポジスト、シンポジウム「神経変性疾患の最前線2016」、第46回日本神経精神薬理学会年会、2016年7月2-3日、ソウル、韓国
322. **服部信孝**. プレスセミナー、「パーキンソン病治療の現状と将来への期待」～患者さんの声をふまえて～、丸ビルコンファレンススクエア、2016年4月6日、東京
323. **服部信孝**. 講演、パーキンソン病研究最前線、ランチョンセミナー、第121回日本解剖学会総会・全国学術集会、ビッグパレットふくしま、2016年3月30日、郡山市
324. **服部信孝**. レクチャーマラソン講演、パーキンソン病及び他の神経変性疾患におけるバイオマーカーの位置づけ、第57回日本神経学会学術大会、神戸国際展示場、2016年5月20日、神戸

(神経生物学)

325. **小池 正人**: 日本顕微鏡学会次世代顕微サイエンス若手研究部会 創設記念シンポジウム・若手討論会 招待講演:「"Practical"ですが、何か? -医学部における電子顕微鏡-」2014年11月4日 淡路島
326. J. YAMAGUCHI, T. **SUNABORI**, M. **KOIKE**, T. NANA, M. SHIBATA, A. FURUTA, Y. UCHIYAMA: Society for Neuroscience 2014 ポスター発表: "Hippocampal pyramidal neurons lacking LC3A and LC3B are resistant to hypoxic-ischemic brain injury in neonatal mice" 2014年11月16日 アメリカ ワシントンDC
327. M. **KOIKE**, I. TANIDA, T. NANA, N. TADA, J. IWATA, T. UENO, E. KOMINAMI, Y. UCHIYAMA: Society for Neuroscience 2014 ポスター発表: "Enrichment of GABARAP relative to LC3 in the axonal initial segments of neurons" 2014年11月18日 アメリカ ワシントンDC
328. Y. UENO, M. **KOIKE**, Y. SHIMADA, H. SHIMURA, K. HIRA, Y. UCHIYAMA, N. HATTORI, T. URABE: Society for Neuroscience 2014 ポスター発表: "L-carnitine enhances axonal plasticity and improves white matter lesions after chronic hypoperfusion in rat brain" 2014年11月19日 アメリカ ワシントンDC
329. **Masato Koike**: INTERNATIONAL SYMPOSIUM 2014 (CURRENT TRENDS ON NEUROBIOLOGY) 招待講演: "The role of autophagy and lysosomal proteolysis for the maintenance of the normal environment of neuronal cells: a genetic study of mouse models for rare neurodegenerative diseases for understanding of common ones" 2014年11月28日 韓国 蔚山
330. **小池 正人**、**砂堀 毅彦**、**内山 安男**: 第20回グリアクラブ 口演:「プルキンエ細胞特異的カテプシンD欠損およびAtg7欠損マウスの比較解析」2015年1月27日 函館
331. ***砂堀 毅彦**、**小池 正人**: 第20回グリアクラブ 口演:「オリゴデンドロサイト分化におけるmTORC1活性化の意義」2015年1月27日 函館
332. 曾高 友深、**小池 正人**: 第20回グリアクラブ 口演:「ゴルジ体局在型イオンチャンネルGPHRの中樞神経系における役割」2015年1月28日 函館
333. 曾高 友深、**内山 安男**、**小池 正人**: 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会・第92回日本生理学会大会 ポスター発表:「カテプシンD欠損脳における異常リソソーム蓄積タンパク質の探索」2015年3月21日 神戸
334. **小池 正人**、**内山 安男**: 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会・第92回日本生理学会大会 ポスター発表:「カテプシンD欠損およびAtg7欠損プルキンエ細胞の比較解析による軸索内環境の維持におけるオートファジー・リソソームタンパク質分解系の役割」2015年3月23日 神戸
335. 山口 隼司、七尾 友久、**小池 正人**、小松 雅明、**内山 安男**: 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会・第92回日本生理学会大会 ポスター発表:「カテプシンD欠損マウスの神経細胞内に蓄積する異常なリソソームはp62およびNBR1を介した選択的オートファジーの標的となる」2015年3月23日 神戸

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

336. 砂堀 毅彦、小池 正人、内山 安男：第 120 回日本解剖学会総会・全国学術集会・第 92 回日本生理学会大会 ポスター発表：「カテプシン D 遺伝子欠損マウス脳における Toll 様受容体の機能解析」2015 年 3 月 23 日 神戸
337. 七尾 友久、山口 隼司、小池 正人、小松 雅明、内山 安男：第 120 回日本解剖学会総会・全国学術集会・第 92 回日本生理学会大会 ポスター発表：「カテプシン D 欠損神経細胞において、細胞極性が p62 と NBR1 を介した選択的オートファジーを制御する」2015 年 3 月 23 日 神戸
338. Koike, M., Nanao, T., Yamaguchi, J., Sasaki, M., Uchiyama, Y.：第 67 回日本細胞生物学会大会 ポスター発表：” Cellular localization and tissue distribution of endogenous DFCP1 protein” 2015 年 6 月 30 日 東京
339. 小池 正人、七尾 友久、山口 隼司、内山 安男：第 38 回日本神経科学大会 ポスター発表：「オメガソームマーカー DFCP1 の内在性分子の細胞内局在と組織分布」 2015 年 7 月 28 日 神戸
340. 山中 智行、戸崎 麻子、宮崎 晴子、黒澤 大、小池 正人、内山 安男、Sankar N Maity、三澤 日出巳、服部 信孝、貫名 信行：第 38 回日本神経科学大会 ポスター発表：「転写因子 NF- γ の機能欠損は細胞種特異的な神経変性病態を示す」 2015 年 7 月 28 日 神戸
341. 三井 駿、久保 瑞希、潘 雷、大友 麻子、小池 正人、内山 安男、青木 正志、山本 雅之、石井 哲郎、柳川 徹、Hui-Fang Shang、吉井 文均、秦野 伸二：第 38 回日本神経科学大会 口演：「変異 SOD1 発現 ALS マウスモデルの運動ニューロン変性は Nrf2 ではなく、p62/SQSTM1 の機能喪失により悪化する」 2015 年 7 月 28 日 神戸
342. *Ann De Maziere、Suzanne van Dijk、Masato Koike、Cilia de Heus、Judith Klumperman：Gordon Research Conference Autophagy in Stress, Development & Disease ポスター発表：” An immunoelectron microscopy protocol for high resolution endogenous LC3 localization” 2016 年 3 月 20 日 アメリカ ベンチュラ
343. Koike, M., Nanao, T., Yamaguchi, J., Sasaki, M., Uchiyama, Y.：第 121 回日本解剖学会総会・全国学術集会 ポスター発表：” Cellular localization and tissue distribution of endogenous DFCP1 protein” 2016 年 3 月 28 日 福島
344. *砂堀 毅彦、名田 茂之、岡田 雅人、内山 安男、小池 正人：第 121 回日本解剖学会総会・全国学術集会 口演：「オリゴデンドロサイト分化における mTORC1 活性化の意義」 2016 年 3 月 28 日 福島
345. 曾高 友深、角田 宗一郎、前田 祐輔、木下 タロウ、渡辺 雅彦、崎村 建司、内山 安男、小池 正人：第 121 回日本解剖学会総会・全国学術集会 ポスター発表：「ゴルジ体の形成異常に起因する神経病態発症機序の解明」2016 年 3 月 28 日 福島
346. *小池 正人：日本解剖学会 関東支部 懇話会：「光顕と電顕を繋ぐために必要な practical な技術」 2016 年 7 月 9 日 東京
347. 小池 正人、柴田 昌宏、砂堀 毅彦、山口 隼司、内山 安男、：第 39 回日本神経科学大会 ポスター発表：「カテプシン D および Atg7 欠損に伴うプルキンエ細胞変性軸索における Atg9A 陽性の膜構造物の検討」 2016 年 7 月 20 日 神戸
348. Masato Koike：KOB (Kyusyu Oral Biology)2017 招待講演：” The role of autophagy and lysosomal proteolysis for the maintenance of the normal environment of central nervous system”：2017 年 2 月 11 日 福岡
349. *砂堀 毅彦、名田 茂之、岡田 雅人、内山 安男、小池 正人：第 122 回日本解剖学会総会・全国学術集会 ポスター発表：「髄鞘形成におけるリソソーム膜タンパク質 LAMTOR1 の役割」 2017 年 3 月 29 日 長崎
350. 谷田 以誠、小池 正人：第 122 回日本解剖学会総会・全国学術集会 ポスター発表：「酸性 pH 感受性緑色蛍光タンパク質 pHluorin を用いたマイトファジーモニタープローブの作成」 2017 年 3 月 29 日 長崎
351. 曾高 友深、角田 宗一郎、前田 祐輔、木下 タロウ、渡辺 雅彦、崎村 建司、内山 安男、小池 正人：第 122 回日本解剖学会総会・全国学術集会 ポスター発表：「ゴルジ体酸性環境不全に起因する病態発症機序の解明」 2017 年 3 月 31 日 長崎
352. 小池 正人：第 122 回日本解剖学会総会・全国学術集会 口演：「中枢神経系特異的ゴルジ体機能不全モデルマウスの形態学的解析」 2017 年 3 月 31 日 長崎

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

(代謝内分泌内科)

353. **宮塚 健** 第31回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会 シンポジウム 「 β 細胞新生機構解明に向けた Insulin-Timer マウスの開発」2017年2月10日 横浜市
354. 三浦正樹、**宮塚 健**、松岡孝昭、佐々木周吾、藤谷与士夫、**綿田裕孝**：第59回日本糖尿病学会年次集会 口演「Stat3 シグナルの抑制は膵腺房細胞から β 細胞へのリプログラミングを亢進させる」2016年5月19日 京都市
355. 佐々木周伍、**宮塚 健**、松岡孝昭、**綿田裕孝**、下村伊一郎：第59回日本糖尿病学会年次集会 口演 β 細胞新生には2つの異なる分化様式が存在する」・2016年5月19日 京都市
356. 三浦正樹、**宮塚 健**、**綿田裕孝**：Advans 研究会 口演 「Stat3 シグナルの活性化は腺房細胞から β 細胞へのリプログラミングを制御する」 2015年12月13日
357. **宮塚 健**：第58回日本糖尿病学会年次集会 シンポジウム 「糖尿病再生医療に向けた β 細胞新生・成熟機構の解明」2015年5月21日・下関市

(皮膚科)

358. Iida H, Hasegawa T, Sakamoto A, Wada A, Fukai T, **Ikeda S**: Keratinocyte progenitor cells in human subcutaneous adipose tissue. The Society for Investigative Dermatology 2015 Annual Meeting, 2015, Atlanta, GA
359. 前田佑一郎、長谷川敏男、飯田秀雄、坂本淳、和田章乃、**池田志孝**：組織由来幹細胞による表皮再生医療の可能性. 第33回日本美容皮膚科学会総会・学術大会, 2015, 大阪
360. 前田佑一郎, 長谷川敏男, 和田章乃, **池田志孝**: Differentiation potential of adipose-derived stem cells into keratinocytes. 第30回表皮細胞研究会, 2016, 弘前
361. 前田佑一郎, 長谷川敏男, 和田章乃, 深井達夫, 坂本淳, **池田志孝**: Differentiation potential of adipose-derived stromal/stem cells into keratinocytes. 第41回日本研究皮膚科学会, 2016, 仙台

(生化学第1)

362. **横溝岳彦**：皮膚創傷治癒における12-HHT受容体BLT2の役割 第56回日本脂質生化学会 2014年6月6-7日 大阪
363. 古賀友紹, 佐々木文之, 佐伯和子, 奥野利明, **横溝岳彦**：新規樹状細胞サブセットマーカー分子としてのロイコトリエンB4受容体 第35回日本炎症・再生学会(シンポジウム) 2014年7月1-4日 沖縄
364. 古賀友紹, 佐々木文之, 佐伯和子, 市木貴子, 奥野利明, **横溝岳彦**：新規樹状細胞サブセットマーカー分子としてのロイコトリエンB4受容体 第35回日本炎症・再生学会(シンポジウム) 2014年7月1-4日 沖縄
365. **横溝岳彦**：生理活性脂質と免疫・炎症・組織修復 第35回日本炎症・再生学会(教育講演) 2014年7月1-4日 沖縄
366. 佐伯和子, Liu M, **横溝岳彦**：アスピリンによる皮膚創傷治癒の遅延は12-HHT産生低下によって引き起こされる 第87回日本生化学会大会 2014年10月15-18日 京都
367. 古賀友紹, 佐々木文之, 佐伯和子, 市木貴子, 奥野利明, **横溝岳彦**：ロイコトリエンB4第一受容体BLT1陽性樹状細胞はTh1分化誘導を促進する 第87回日本生化学会大会 2014年10月15-18日 京都

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

368. 城(渡辺)愛理, 大瀬貴元, 西松寛明, 高橋政夫, 池田洋一郎, 和田健彦, 白河潤一, 永井竜児, 宮田敏男, 長野哲雄, **横溝岳彦**, 平田恭信, 稲城玲子, 南学正臣: 糖化抑制酵素GL01は加齢に伴う内皮機能障害を軽減する 第87回日本生化学会大会 2014年10月15-18日 京都
369. 岩本怜, 古賀友紹, Liu M, 奥野利明, 松田彰, 村上晶, **横溝岳彦**: ロイコトリエンB4第二受容体BLT2の角膜創傷治癒における役割 第87回日本生化学会大会 2014年10月15-18日 京都
370. 市木貴子, 古賀友紹, 奥野利明, 阪口政清, **横溝岳彦**: ロイコトリエンB4第一受容体BLT1とRAGEの相互作用 第87回日本生化学会大会 2014年10月15-18日 京都
371. **横溝岳彦**: 12-HHT受容体BLT2は皮膚創傷治癒を促進する 第87回日本生化学会大会 シンポジウム 2014年10月15-18日 京都
372. 石井由美子, 佐伯和子, Liu M, 奥野利明, **横溝岳彦**: 上皮細胞間接着におけるロイコトリエンB4第二受容体 (BLT2) の役割の解明 第87回日本生化学会大会 2014年10月15-18日 京都
373. 重松美沙子, 古賀友紹, 奥野利明, 佐伯和子, **横溝岳彦**: Pneumolysin誘導性急性肺傷害モデルにおけるBLT2の肺保護作用 第87回日本生化学会大会 2014年10月15-18日 京都
374. 高橋七瀬, 奥野利明, 大場麻生, 牧野真太郎, 竹田省, **横溝岳彦**: 質量分析計を用いた妊産婦血中エイコサノイドの測定 第87回日本生化学会大会 2014年10月15-18日 京都
375. 市木貴子, 古賀友紹, 奥野利明, 阪口政清, **横溝岳彦**: ロイコトリエンB4第一受容体BLT1とRAGEの相互作用 第11回東京呼吸器リサーチフォーラム 2014年11月1日 東京
376. **横溝岳彦**: 古くて新しい生理活性脂質12-HHTの機能 8th Metabolic Research Cutting Edge 2014年11月22日 東京
377. Sasaki F, Koga T, Saeki K, Okuno T, **Yokomizo T**: Leukotriene B4 receptor 1 signaling promotes neovascular age-related macular degeneration 第43回日本免疫学会総会 2014年12月10-12日 東京
378. **Yokomizo T**: BLT1 and BLT2, receptors for bioactive lipid mediators Topics in regenerative biology 2015/1/16 Santiago
379. Ichiki T, Koga T, Okuno T, Saeki K, Yamamoto Y, Sakaguchi M, **Yokomizo T**: Functional Interplay between the Leukotriene B4 receptor BLT1 and RAGE 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators 2015/2/10-12 Tokyo
380. Ishii Y, Saeki K, Min L, Okuno T, **Yokomizo T**: Leukotriene B4 receptor BLT2 enhances the formation of epithelial barrier by increasing claudin-4 expression 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators 2015/2/10-12 Tokyo
381. Iwamoto S, Liu M, Matsuda A, Murakami A, **Yokomizo T**: 12-HHT accelerates corneal wound healing through leukotriene B4 receptor 2 (BLT2) 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators 2015/2/10-12 Tokyo

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

382. Koga T, Sasaki F, Saeki K, Ichiki T, Okuno T, Yokomizo T: BLT1 defines dendritic cell subsets with different characteristics in differentiation and proliferation of T cells 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators 2015/2/10-12 Tokyo
383. Okuno T, Ishitani T, Yokomizo T: Identification and characterization of zebrafish BLT1 and BLT2 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators 2015/2/10-12 Tokyo
384. Saeki K, Min L, Matsunobu T, Okuno T, Koga T, Nakamizo S, Kabashima K, Yokomizo T: 12-HHT promotes epidermal wound healing by accelerating keratinocyte migration via the BLT2 receptor 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators 2015/2/10-12 Tokyo
385. Sasaki F, Koga T, Saeki K, Okuno T, Yokomizo T: M2 macrophages promote neovascular age-related macular degeneration through the activation of the leukotriene B4 receptor 1 signaling 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators 2015/2/10-12 Tokyo
386. Shigematsu M, Koga T, Okuno T, Saeki K, Hoka S, Yokomizo T: BLT2 protects against mouse acute lung injury induced by pneumococcal toxin pneumolysin 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators 2015/2/10-12 Tokyo
387. Takahashi N, Okuno T, Ooba M, Makino S, Takeda S, Yokomizo T: Multiplexed quantitative analysis of eicosanoids in pregnant women 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators 2015/2/10-12 Tokyo
388. Yokomizo T: Distinct roles of two leukotriene B4 receptors 6th International Conference on Phospholipase A2 and Lipid Mediators (Symposium) 2015/2/10-12 Tokyo
389. Koga T, Sasaki F, Saeki K, Ichiki T, Okuno T, Yokomizo T: Distinct roles of BLT1hi DCs and BLT1lo DCs in activating T cells Keystone Symposium 2015/3/8-13 Montreal
390. Sasaki F, Koga T, Saeki K, Okuno T, Yokomizo T: Leukotriene B4 receptor 1 signaling promotes neovascular age-related macular degeneration Keystone Symposium 2015/3/8-13 Montreal
391. Iwamoto S, Koga T, Liu M, Matsuda A, Yokomizo T, Murakami A: 12-HHT accelerates corneal wound healing through leukotriene B4 receptor 2 (BLT2) Annual meeting of the Association for Research in Vision and Ophthalmology 2015 2015/5/3-7 Denver
392. Asahara M, Ito N, Yokomizo T, Nakamura M, Shimizu T, Yamada Y: The absence of the leukotriene B4 receptor BLT1 attenuates peripheral inflammation and spinal nociceptive processing following intraplantar formalin injury 14th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases 2015/7/12-15 Budapest
393. Liu M, Saeki K, Okuno T, Koga T, Yokomizo T: Crucial role of the 12-HHT receptor BLT2 in epidermal wound healing 14th International Conference on B

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

- ioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases, Santosh Nigam Memorial Young Scientist Award 2015/7/12-15 Budapest
394. Shigematsu M, Koga T, Saeki K, Okuno T, Hoka S, Yokomizo T: BLT2 protects against mouse acute lung injury caused by a pneumococcal toxin pneumolysin 14th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases 2015/7/12-15 Budapest
395. Yokomizo T: Distinct roles of two leukotriene B4 receptors 14th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases, Plenary Lecture 2015/7/12-15 Budapest
396. 岩本怜, 古賀友紹, Liu M, 奥野利明, 松田彰, 横溝岳彦, 村上晶: ロイコトリエンB4第二受容体 (BLT2) は角膜創傷治癒を促進する 日本眼科学会総会 2015年4月16-19日 札幌
397. Saeki K, Liu M, Yokomizo T: Platelet-derived lipid mediator, 12-HHT promotes epidermal wound healing by accelerating keratinocyte migration via the BLT2 receptor. 第37回日本血栓止血学会学術集会 シンポジウム (招待講演) 2015年5月21-23日 甲府
398. 武田知起, 小宮由季子, 木庭彰彦, 仲矢道雄, 黒瀬等, 横溝岳彦, 清水孝雄, 内博史, 古江増隆, 石井祐次, 山田英之: ダイオキシンによる肝障害の新たな機構 ロイコトリエンB4合成亢進の役割 第42回日本毒性学会 2015年6月29日-7月1日
399. 岩本怜, 古賀友紹, 奥野利明, 村上晶, 横溝岳彦, 松田彰: 角膜損傷の新規治療薬としての脂質メディエーターの可能性 第35回日本眼薬理学会 2015年9月5-6日 東京
400. 横溝岳彦: 生理活性脂質受容体BLT1とBLT2: 眼疾患治療応用の可能性 第35回日本眼薬理学会 特別講演 2015年9月5-6日 東京
401. 若山貴則, 齋田良知, 小林洋平, 奥野利明, 横溝岳彦, 倉田憲一, 鎌野俊哉, 深作進, 金子和夫, 根本昌幸: 変形性膝関節症患者における関節内酸化ストレスと ω 3不飽和脂肪酸の検討 第88回日本整形外科学会基礎学術集会 2015年10月22日
402. 重松美沙子, 古賀友紹, 佐伯和子, 奥野利明, 横溝岳彦: Pneumolysin誘導性急性肺傷害におけるBLT2の肺保護作用 第12回東京呼吸器リサーチフォーラム 最優秀発表賞受賞 2015年11月14日 東京
403. 佐伯和子, 石井由美子, 横溝岳彦: 上皮バリア機能維持における12-HHT受容体BLT2の役割 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会 ワークショップ 2015年12月1-4日 神戸
404. 古賀友紹, 奥野利明, 佐伯和子, 中村衣里, 多田昇弘, 横溝岳彦: CRISPR/Cas9によるロイコトリエンA4水解酵素欠損マウスの作製 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会 2015年12月1-4日 神戸
405. 岩本怜, 古賀友, 奥野利, 松田彰, 村上晶, 横溝岳彦: ロイコトリエンB4第二受容体 (BLT2) は角膜創傷治癒を促進する 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会 2015年12月1-4日 神戸
406. 市木貴子, 古賀友紹, 奥野利明, 佐伯和子, 阪口政清, 山本靖彦, 横溝岳彦: ロイコトリエンB4第一受容体BLT1とRAGEは機能的に相互作用する 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会 2015年12月1-4日 神戸

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

407. 池田恒基, 佐々木文之, 上野あゆみ, 佐伯和子, 奥野利明, 古賀友紹, **横溝岳彦**: ロイコトリエンB4第一受容体 (BLT1) とFLAGタグに対するマウス単クローン抗体のヒトキメラ化 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会 2015年12月1~4日 神戸
408. 重松美沙子, 古賀友紹, 佐伯和子, 奥野利明, 外須美夫, **横溝岳彦**: ロイコトリエンB4第二受容体BLT2は急性肺傷害時に肺保護作用を発揮する 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会 ワークショップ 2015年12月1~4日 神戸
409. **Yokomizo T**, Kabashima K, Ishii Y, Liu M, Saeki K: Roles of leukotriene B 4 receptor type 2 in skin barrier function and wound healing Keystone Symposium, Immunity in Skin Development, Homeostasis and Disease 2016/2/28-3/2 Granlibakken Tahoe
410. Ichiki T, Koga T, Okuno T, Saeki K, Yamamoto Y, Sakaguchi M, **Y Yokomizo T**: Receptor for advanced glycation endproducts modulates leukotriene B4 receptor 1 signaling ASBMB meeting 2016/4/2-6 San Diego
411. Ikeda K, Sasaki F, Ueno A, Okuno T, Koga T, **Yokomizo T**: Generation of chimeric high-affinity monoclonal antibody for FLAG tag ASBMB meeting 2016/4/2-6 San Diego
412. Ishii Y, Saeki K, **Yokomizo T**: Leukotriene B4 receptor type 2 (BLT2) enhances skin barrier function by regulating tight junction proteins ASBMB meeting 2016/4/2-6 San Diego
413. Shigematsu M, Koga T, Saeki K, Okuno T, **Yokomizo T**: BLT2 receptor protects against lethal acute lung injury induced by a pneumococcal toxin pneumolysin ASBMB meeting 2016/4/2-6 San Diego
414. **Yokomizo T**: Roles of leukotriene B4 receptor type 2 on skin barrier function and wound healing 2016 Korea-Japan Bioactive Lipid Joint Symposium 2016/5/11-13 Jeju, Korea
415. Luo L, Tanaka R, Lu F, Kanazawa S, **Yokomizo T**, Mizuno H: A synthetic BLT 2 agonist accelerates impaired wound healing by enhancing keratinocyte migration and fibroblast proliferation in diabetic rat Joint meeting of American association of plastic surgeons and plastic surgery research council 2016/5/19-22 New York
416. Shigematsu M, Koga T, Saeki K, Okuno T, **Yokomizo T**: The roles of 12-hydroxyheptadecatrienoic acid/BLT2 axis in skin 57th ICBL, International Conference on the Bioscience of Lipids 2016/9/4-8 Chamonix-Mont-Blanc, France
417. **Yokomizo T**, Y I, Shimegatsu M, Saeki K, Okuno T: 12-hydroxyheptadecatrienoic acid (12-HHT) as a novel lipid mediator 第58回日本脂質生化学会シンポジウム 2016年6月9-10日 秋田
418. 川西範明, 高木香奈, 李賢哲, 奥野利, **横溝岳彦**, 町田修一: 持久的運動トレーニングおよび高脂肪食餌負荷が骨格筋のリン脂質分子種濃度に及ぼす影響 第58回日本脂質生化学会 2016年6月9-10日 秋田
419. **横溝岳彦**: ロイコトリエン受容体と皮膚機能 第31回日本乾癬学会 教育講演

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

<p>2016年9月2日 宇都宮</p> <p>420. 中島禎吾, 玉田賢弥, 佐藤聡, 吉森篤史, 市木貴子, 佐々木文之, 横溝岳彦, 田沼靖一: HMGB1及びLPSに誘導される炎症を抑制する新規低分子化合物の創製 第89回日本生化学会 2016年9月25-27日 仙台</p> <p>421. 市木貴子, 古賀友紹, 奥野利明, 佐伯和子, 阪口政清, 山本靖彦, 横溝岳彦: RAGEはロイコトリエンB4第一受容体BLT1と機能的に相互作用する 第89回日本生化学会 2016年9月25-27日 仙台</p> <p>422. 李賢哲, ベンジャミン クラバット, 横溝岳彦: N-アシルリン脂質代謝酵素ABHD4の生化学的解析および脂質解析 第89回日本生化学会 2016年9月25-27日 仙台</p> <p>423. 玉田賢弥, 中島禎吾, 佐藤聡, 吉森篤史, 市木貴子, 佐々木文之, 横溝岳彦, 鈴木雄祐, 渡邊伸央, 井上茂亮, 田沼靖一: HMGB1/RAGE相互作用を阻害する新規低分子化合物の創製 第89回日本生化学会 2016年9月25-27日 仙台</p> <p>424. 横溝岳彦: 上皮創傷治癒を促進する生理活性脂質の同定とその応用 第1回Ocular Surface & Glaucoma Seminar 2016年10月21日 東京</p> <p>425. 横溝岳彦: 皮膚バリア機能を維持する生理活性脂質12-HHT 第9回セラミド研究会 2016年10月27-28日 東京</p> <p>426. Shigematsu M, Koga T, Saeki K, Ohba M, Okuno T, Yokomizo T: Protective roles of 12-hydroxyheptadecatrienoic acid/BLT2 in acute lung injury Keystone Symposium, Lipidomics and Bioactive Lipids in Metabolism and Disease 2017/2/26-3/3 Granlibakken Tahoe</p>
--

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

ホームページで公開している場合には、URLを記載してください。

<既に実施しているもの>

(シンポジウム)

順天堂大学大学院医学研究科 ゲノム・再生医療センターおよび本研究事業キックオフシンポジウム

平成28年1月15日(金)

https://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/lab/lecture/l_261.html

(研究成果公開)

(生化学第一)

1. 生化学第一講座ホームページ

http://plaza.umin.ac.jp/j_bio/

(生化学第二)

2. 生化学第二講座ホームページ

https://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/lab/seikagaku_seitaibogyo/html/index_j.html

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

(脳神経内科)

3. 脳神経内科ホームページ <http://www.juntendo-neurology.com/>
4. **服部信孝**. アウトリーチ活動、ミトコンドリアと神経疾患、「脳機能と病気」午前の部、高校生・高卒生のための春休み特別セミナー、文科省科学研究費補助金新学術領域「脳内環境」「オートファジー」合同、順天堂大学 本郷・御茶ノ水キャンパス、2016年3月28日、東京
5. **服部信孝**、金井数明、宮元伸和、福嶋佳保里、荒野拓. アウトリーチ活動、東京学芸大学附属国際中等教育学校学生インターンシップ(職場体験)、中学生の順天堂大学医学部神経学講座研究室および病棟見学、2016年8月25日、順天堂大学、東京
6. **服部信孝**. オンラインニュース掲載、順天堂大 パーキンソン病治療でiPS細胞バンク設立へ、NHK、日経等、平成28年2月19日
7. **服部信孝**. パーキンソン病患者会旅行同行、応個別相談、勉強会講師、「これからのパーキンソン病治療について」、南房総富浦ロイヤルホテル、2016年10月19日~20日、南房総市
8. * **服部信孝**、岡野栄之、**赤松和土**. プレスリリース、NHK テレビニュース、順天堂大パーキンソン病治療でiPS細胞バンク設立へ、午前4時29分、2016年2月19日、NHKニュース
9. **服部信孝**. 新聞掲載、認知機能 アロマで刺激、脳の病気リスクを減らす試み、匂いの信号は直接脳へ 多彩な香り・いつも身近に、日本経済新聞(夕刊) pp9. 「くらし」面、2016年6月30日(木曜日) 夕刊
10. **服部信孝**. 新聞掲載、パーキンソン病の手術療法「前編」、薬物療法の限界で脳深部刺激療法に注目、東京スポーツ、p17、2016年10月18日
11. **服部信孝**. 新聞掲載、パーキンソン病の手術療法「後編」、状態が大きく改善する脳深部刺激療法 適応する人は…、東京スポーツ、p17、2016年10月25日
12. **服部信孝**. 新聞掲載、パーキンソン病治療薬「デュオドーパ」、DBS よりも広く適応できウェアリングオフを減少、一治療薬最前線一、p8、The Doctor 秋季特集、2016年10月31日
13. **服部信孝**. 新聞掲載、パーキンソン病治療薬「デュオドーパ」、DBS よりも広く適応できウェアリングオフを減少、薬事ニュース、p4、2016年12月9日

(腎臓内科)

14. 腎臓内科学ホームページ
http://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/lab/zinzo_naika/
15. 佐々木有、日高輝夫、**鈴木祐介**. プレスリリース、慢性腎臓病の病態メカニズム解明の鍵「SNX9」を同定—順天大、2017年3月30日
<http://www.juntendo.ac.jp/news/20170330-05.html>

(ゲノム・再生医療センター)

16. **赤松和土** 「iPS細胞を使って神経系の病気に苦しむ患者さんを助けられるか？」 順天堂大学医学部 基礎研究医養成プログラム主催 高校生のための夏休み医学教室: 研究医とのサイエンストーク 2016年7月26日

(免疫学)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

17. 免疫学講座ホームページ

<http://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/labo/meneki/home.html>

(皮膚科)

18. 皮膚科学講座ホームページ

<https://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/labo/hihu/>

19. **池田志幸** iPS 細胞などの各種幹細胞を用いた皮膚再生医療の現状と展望 ー特に脂肪組織幹細胞中に存在する表皮角化細胞前駆細胞の可能性ー 平塚市医師会皮膚科部会第 70 回例会、神奈川県平塚市、2016 年 1 月 20 日

(形成外科)

20. 血管組織再生医療研究室ホームページ

<https://www.juntendo.ac.jp/hospital/clinic/keisei/kenkyu/grp03/>

21. **田中里佳**。新聞掲載「低侵襲・高品質の製品提供へ、実用化志向の研究成果多く」、日経バイオテク、2015 年 4 月 13 日

<https://bio.nikkeibp.co.jp/article/news/20150413/183851/>

22. **田中里佳**。新聞掲載「200mL の外来採血で施工可能な血管組織再生医療を開発」、Medical Tribune、2015 年 12 月 24、31 日

23. **田中里佳**。東西の連携から発信できる再生医療。市民フォーラム「これからの未来医療～未来医療、新時代！！～」、大阪大学市民フォーラム、2017 年 2 月 12 日

24. **田中里佳**。難治性潰瘍に対する 次世代型血管・組織再生治療の開発。2017 ワールド・アライアンス・フォーラム ITあわじ会議、淡路夢舞台国際会議場、2017 年 3 月 27 日

<これから実施する予定のもの>

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付してください。

* 遊離グリセロールの直接測定試薬の開発(試薬メーカーとの共同研究)(臨床検査医学)

(特許申請状況)

実施年度	発明の名称	発明者	出願人	出願国	出願番号	出願日
平成 27 年度	単核球培養用無血清培地(*5)	田中 里佳 平野 理恵	学校法人順天堂	日本	JP2016/022313	2016/2/9
平成 26 年度	脂肪組織由来幹細胞から表皮角化細胞への誘導	池田 志孝 長谷川 敏男	学校法人順天堂	日本	JP2014/135570	2014/7/1

15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

<「選定時」に付された留意事項>

<「選定時」に付された留意事項への対応>

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411007

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備 考
		法 人 負 担	私 学 助 成	共同研 究機関 負担	受託 研究等	寄付金	その他()	
平成 26 年	施 設	0	0	0	0	0	0	
	装 置	0	0	0	0	0	0	
	設 備	167,374	64,109	103,265	0	0	0	
	研究費	51,809	26,183	25,626	0	0	0	うち一般補助1,343千円
平成 27 年	施 設	0	0	0	0	0	0	
	装 置	0	0	0	0	0	0	
	設 備	19,107	6,372	12,735	0	0	0	
	研究費	92,592	49,691	42,901	0	0	0	うち一般補助6,073千円
平成 28 年	施 設	0	0	0	0	0	0	
	装 置	0	0	0	0	0	0	
	設 備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	100,657	57,468	43,189	0	0	0	うち一般補助7,667千円
総 額	施 設	0	0	0	0	0	0	0
	装 置	0	0	0	0	0	0	0
	設 備	186,481	70,481	116,000	0	0	0	0
	研究費	245,058	133,342	111,716	0	0	0	0
総 計	431,539	203,823	227,716	0	0	0	0	

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施 設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施 設 の 名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
ゲノム・再生 医療センター	H26	8268m ²	1	90			

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m²

《装置・設備》（私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。）

（千円）

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
(研究設備)							
iPS細胞・幹細胞樹立培養のための培養システム	H26	single-cell Auto rep System 100-7000-JT 他	1	9000	h	22,820	14,079 私学助成
解析用倒立顕微鏡システム	H26	LX83P2-TL-FL/PHID-2 他	1	3000	h	38,891	23,995 私学助成
分化細胞解析システム	H26	In Cell Analyser 2200 system	1	3000	h	39,603	24,435 私学助成
幹細胞純化・解析システム	H26	Xfe24 他	1	1500	h	35,925	22,165 私学助成
動物個体に移植したiPS細胞・体細胞解析システム	H26	MHE-S1300A2-PJ	1	3750	h	30,133	18,591 私学助成
iPS・体細胞バンク用システム	H27	MVE TEC 3000	1	17520	h	19,107	12,735 私学助成
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			
				h			

18 研究費の支出状況

（千円）

年度	平成 26 年度		
小科目	支出額	積算内訳	
		主な使途	金額
教育研究経費支出			
消耗品費	32,647	iPS細胞・体性幹細胞培養・保存	32,647
光熱水費	0		0
通信運搬費	58	電話料金等	58
印刷製本費	0		0
旅費交通費	682	学会参加交通費	682
報酬・委託料	300	分析委託	300
(会議会合費)	45	学会参加費	45
(修繕費)	303	機器修理等	303
(用品費)	917	実験用器具	917
計	34,952		
アルバイト関係支出			
人件費支出 (兼務職員)	0		0
教育研究経費支出	0		
計	0		
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	15,174		
図書			
計	15,174		
研究スタッフ関係支出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター	1,683		学内1人 10月より雇用
研究支援推進経費			
計	1,683		学内1人

(千円)

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	24,965	試薬、器具等	24,965
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	37	電話料金等	37
印 刷 製 本 費	109	ポスター作製	109
旅 費 交 通 費	0		0
報 酬・委 託 料 (用 品 費)	1,726	分析委託、実験補助員派遣料	1,726
	162	実験用器具	162
計	26,999		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	3,583	研究補助員	月給260,000円 実人数 1人
教育研究経費支出	0		
計	3,583		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	44,483		
図 書	0		
計	44,483		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		
ポスト・ドクター	13,019		学内4人
研究支援推進経費	4,508		学内2人
計	17,527		学内6人

(千円)

年 度	平成 28 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	55,978	試薬、器具等	55,978
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	334	電話料金等	334
印 刷 製 本 費	0		0
旅 費 交 通 費	49	学会参加交通費	49
報 酬・委 託 料	5,683	分析委託、実験補助員派遣料	5,683
(修 繕 費)	229	機器修理等	229
(会 議 会 合 費)	42	学会参加費	42
(用 品 費)	844	実験用器具	844
計	63,159		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	1,178	研究補助員	月給260,000円、4月～7月 社会保険事業主負担分103,173円 実人数 1人
教育研究経費支出	0		
計	1,178		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	15,761	研究用機器	
図 書			
計	15,761		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	1,451		学内1人
ポスト・ドクター	15,988		学内5人
研究支援推進経費	3,120		学内2人
計	20,559		学内8人

平成 26 年度採択私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「再生技術を用いた生活習慣病の次世代型統合的研究基盤の構築」

外部評価表

評価委員名

公益財団法人 東京都医学総合研究所 理事長
田中 啓二

プロジェクトの進捗状況・達成度に関して（該当するものに○を記入）

1. (○) 基盤整備の効果が発揮され当初の計画以上に研究が進展している。
2. () 基盤整備の効果が発揮され当初の計画通りに進展している。
3. () 基盤整備の効果が不十分であり、研究方針の再検討が必要である。

外部評価コメント

近年の生命医科学の未曾有の進展は、殆どのヒト疾病がゲノム遺伝子の変異とその転写・翻訳産物であるタンパク質の破綻によって発症するというドグマを確立した。と同時に同じ疾患であっても個性があり、個々の細胞の異常性獲得には多様性があることも分かってきた。従って、個々の患者の遺伝情報は病態解明の基盤であり、その克明な解析は次世代医療には不可欠である。本事業は、患者検体のバンク化と臨床情報のデータベース化、遺伝情報にリンクした再生技術の開発、生活習慣病の病態解明技術と治療法の確立を目指しており、最先端の治療戦略に根ざした優れた企画である。とくに臨床研究者と基礎研究者が総力をあげて生活習慣病に関わる体細胞・iPS 細胞バンクを構築するという狙いは、将来の医療技術の構築を考えると、秀逸である。これまでゲノム科学といえば、ガン研究と相場が決まっていたが、生活習慣病の遺伝情報をリソースとして 1000 症例以上に拡大して収集することは、卓越した構想と思われる。これまでの研究の進捗状況は、すでに神経疾患が先行する形で 500 症例に及ぶ患者検体の収集・登録（患者データデータベースの構築と体細胞の採取）を完了しており、さらに登録作業と検体採取は継続中であること、多くの生活習慣病の病態研究・治療法開発が進行していること、そしてその結果得られた新知見に基づいて多数の優れた学術論文が上梓されていること等の観点から判断すると、本支援事業「生活習慣病の次世代型統合的研究基盤の構築」は当初の計画以上に進展していると総括できる。また本事業は、将来的な再生医療を念頭におくと、今日の高齢化社会において非常に重要かつ実践的なミッションであり、今後なお一層の発展を期待したい。

評価委員氏名（自署）

田中 啓二



平成 26 年度採択私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「再生技術を用いた生活習慣病の次世代型統合的研究基盤の構築」

外部評価表

評価委員名

東京大学 薬学系研究科 教授

三浦 正幸

プロジェクトの進捗状況・達成度に関して（該当するものに○を記入）

1. (○) 基盤整備の効果が発揮され当初の計画以上に研究が進展している。
2. () 基盤整備の効果が発揮され当初の計画通りに進展している。
3. () 基盤整備の効果が不十分であり、研究方針の再検討が必要である。

外部評価コメント

2014 年、2015 年に行った培養器機、顕微鏡装置等の設置、それに引き続いて行った iPS・体細胞バンクシステムの充実によって、多数の患者由来体細胞を効率良く iPS 細胞株化、神経細胞分化誘導を可能にする新技術の活用が可能になった。これを契機に、神経変性疾患患者の血液単核球バンク整備が拡大し既に 450 症例の登録が行なわれている。生活習慣病患者の病態研究と、細胞バンク由来の細胞を用いる研究との連関を念頭にした基礎的な研究が特に神経分野で進んでいる。他の分野においては病態解明に関する基礎研究の充実がみられるので、今後は患者のリソースを充実させ、細胞バンク活用を意識した研究も進展することが期待される。

評価委員氏名（自署）

三浦 正幸

